



進取の気風にあふれる総合大学  
国立大学法人

# 鹿児島大学概要

KAGOSHIMA UNIVERSITY 2015

# CONTENTS

## はじめに

- 02… 学長からのメッセージ
- 03… 大学憲章
- 04… 学生憲章
- 05… 教育目標／生涯学習憲章
- 06… 男女共同参画基本理念
- 07… ポリシー
- 10… 大学の基本的な目標
- 11… 重点領域研究
- 14… かがしまるネットサンスアカデミー
- 15… 沿革

## 組織

- 17… 組織図
- 20… 役職員等
- 23… 役職員数

## 学部・大学院等

- 24… 学部
- 29… 大学院
- 33… 医学部・歯学部附属病院
- 35… 附属図書館
- 37… 教育学部附属学校
- 38… 学内共同教育研究施設等
- 47… 学内共同教育研究施設等／教育関係共同利用拠点

## 学生等

- 49… 入学定員・現員数
- 51… 入学状況
- 53… 卒業・修了数／就職状況／学位授与状況
- 54… 奨学生状況／経済支援制度
- 55… 附属学校入学定員・現員数

## 教育・研究・社会貢献活動

- 56… 教育プログラム等
- 57… リポジトリ／学術刊行物
- 58… 産学官連携活動
- 59… 公開講座等

## 国際交流

- 61… 海外拠点等
- 62… 海外研修支援
- 63… 海外研修支援／国際共同研究プロジェクト等
- 64… 学術交流協定締結状況
- 66… 研究者交流状況／国際共同研究実施件数
- 67… 外国人留学生

## 財務

- 69… 収入・支出決算額／予算
- 70… 外部資金受入状況

## キャンパス

- 72… 土地・建物・船舶
- 73… 地域交流施設／福利厚生施設／体育施設等
- 77… 地区別建物等配置図
- 81… 位置図・交通アクセス
- 82… 所在地一覧

## 学 年 暦

学 期	期
前 期	……4月1日～9月30日
後 期	……10月1日～3月31日
入 学 式	……4月7日
休 業 日	
春 季 休 業	……4月1日～4月10日
夏 季 休 業	……8月1日～9月30日
冬 季 休 業	……12月25日～1月8日
鹿児島大学記念日	……11月15日
卒 業 式・修 了 式	……3月25日

## 〈鹿児島大学学章〉



創立50周年を記念して制定された。  
KAGOSHIMAの頭文字「K」をデザインしたものである。  
今、まさに飛び立とうとしている姿を『鳳』の形にデザインし、  
歴史と伝統に輝く鹿児島大学のキャンパスを巣立つ卒業生が世界の舞台を翔ようとしている姿をシンボル化したものである。

## 〈鹿児島大学マスコットキャラクター〉



鹿児島大学公式マスコットキャラクター

さつん

学内公募・投票により選ばれたマスコットキャラクター。  
桜島の噴火のように活発な学生生活を送り、薩摩の偉人たちのような素晴らしい才能を開花させることを願ってデザインされた。  
名前は薩摩の「さつ」に西郷隆盛の愛犬「つん」をあわせて「さつん」。

### 「進取の気風にあふれる総合大学」を目指す



前田 芳實 学長

鹿児島大学は長い歴史と豊かな伝統を持ち、その起源は、1773年に設立された藩学造士館にさかのぼります。明治以降に設立された第七高等学校造士館をはじめ各種の高等専門学校を統合し、昭和24年に新制国立鹿児島大学として発足しました。現在、9学部と10大学院研究科からなり、約9,000名の学部学生と約2,000名の大学院生（うち留学生約300名）が在籍する総合大学です。これまでに約10万名の卒業生を輩出し、国内はもとより世界の各地で、人類の平和と繁栄ならびに福祉の向上のために大きな足跡を残してきています。昨年は、本学の前身である旧制第七高等学校出身の赤崎勇先生がノーベル物理学賞を受賞されました。

本学は、平成19年に鹿児島大学憲章を制定し、“学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学”を目指しています。特に社会貢献においては、平成25年に鹿児島大学生涯学習憲章

を制定し、地域の“知の拠点”として生涯学習プログラムを推進することを掲げています。平成26年度には、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択されたことを受け、平成26年10月に「かごしまCOCセンター」を設置し、防災、災害時医療、農林畜産業・水産業、水、エネルギー、離島医療、流通輸送、地域教育、観光といった鹿児島特有の課題解決に取り組みながら、今後、鹿児島県や県内の自治体と連携した教育・研究、生涯学習の充実を進め、地域社会と共に地域の持続的再生と活性化を目指しています。また、平成27年4月には、奄美群島の教育・研究の拠点として国際島嶼教育研究センター奄美分室を設置しました。

学生自らが起草した鹿児島大学学生憲章（平成22年制定）では、“進取の精神の継承、地球的視野の学び、友情や思いやりの醸成、積極的社会参加の実践”が謳われ、自らを磨き、未来を拓くことを宣言しています。本学は、この大学憲章ならびに学生憲章の精神が学生のキャンパス生活の中でしっかりと培われ、本学での学びが学生の人生設計の礎となるように支援を惜しみません。その取り組みとして、学生自らが困難な課題に果敢に挑戦する取組を支援する「進取の精神チャレンジプログラム」の実施やグローバル人材の養成にも力を入れています。これまで、海外の118の大学と学術交流協定と締結しており、留学先の大学と単位互換制度を設け、学生が留学しやすい環境を整えています。また、国際社会で活躍できる人材の育成を図るため、学生の海外研修を支援しています。その他にボランティア活動への支援、さらに、学生の向上心を育て・称えるための奨学金制度や表彰制度を設け、「日本で一番学生を大切に作る大学」を目指しています。

### 歴 代 学 長

氏 名	任 期	備考	氏 名	任 期	備考
緒 方 健三郎	昭和24年 5月31日～昭和31年 7月31日		井 形 昭 弘	昭和62年1月12日～平成 3年1月11日	
福 田 得 志	昭和31年 8月 1日～昭和35年 7月31日		〃	平成 3年1月12日～平成 5年1月11日	
〃	昭和35年 8月 1日～昭和39年 7月31日		早 坂 祥 三	平成 5年1月12日～平成 9年1月11日	
〃	昭和39年 8月 1日～昭和43年 7月31日		田 中 弘 允	平成 9年1月12日～平成13年1月11日	
町 野 碩 夫	昭和43年 8月 1日～昭和44年10月21日		〃	平成13年1月12日～平成15年1月11日	
中 村 末 男	昭和44年10月21日～昭和46年 1月11日	※	永 田 行 博	平成15年1月12日～平成19年1月11日	
〃	昭和46年 1月12日～昭和50年 1月11日		吉 田 浩 己	平成19年1月12日～平成22年1月11日	
蟹 江 松 雄	昭和50年 1月12日～昭和54年 1月11日		〃	平成22年1月12日～平成25年3月31日	
〃	昭和54年 1月12日～昭和56年 1月11日		前 田 芳 實	平成25年4月 1日～	
石 神 兼 文	昭和56年 1月12日～昭和60年 1月11日				
〃	昭和60年 1月12日～昭和62年 1月11日				

※学長事務取扱

## 鹿児島大学憲章

鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にある。この地は、我が国の変革と近代化を推進する過程で、多くの困難に果敢に挑戦する人材を育成してきた。このような地理的特性と教育的伝統を踏まえ、鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす。

### 教 育

鹿児島大学は、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養う。

鹿児島大学は、真理を愛し、高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍しうる人材を育成する。

### 研 究

鹿児島大学は、個々の研究を重視するとともに、種々の学問分野における優れた研究者の連携により、21世紀を先導する研究者を育成する。

鹿児島大学は、地域の要請に応える研究を展開するとともに、普遍性を求める研究活動を推進し、世界水準の研究拠点をめざす。

### 社会貢献

鹿児島大学は、南九州を中心とする地域の産業の振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化の向上など、地域社会の発展と活性化に貢献する。

鹿児島大学は、アジアや太平洋諸国との連携を深め、研究者や学生の双方向交流および国際共同研究・教育を推進し、人類の福祉、世界平和の維持、地球環境の保全に貢献する。

### 大学運営

鹿児島大学は、学長のリーダーシップのもと、全構成員が運営に責任をもって参画することにより、教育研究環境の充実を図る。

鹿児島大学は、大学の自治を礎とし、常に自己点検・評価を行うとともに、外部からの意見を積極的に反映させ、透明性の高い公正な大学運営を行うことにより、社会への責任を果たす。

※「進取の精神」とは、自ら困難に立ち向かう態度である。





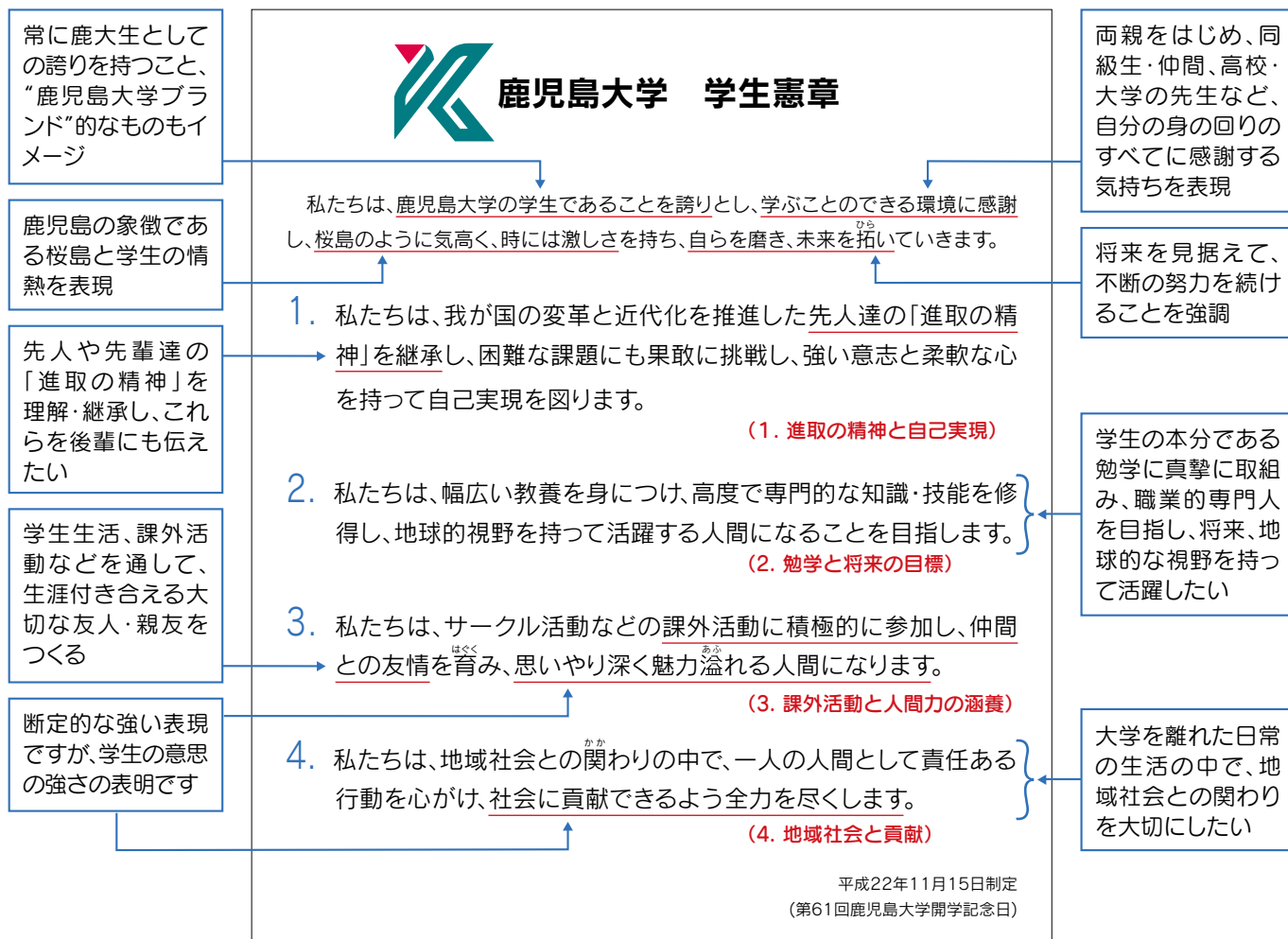
# 鹿児島大学 学生憲章

私たちは、鹿児島大学の学生であることを誇りとし、学ぶことのできる環境に感謝し、桜島のように気高く、時には激しさを持ち、自らを磨き、未来を拓いていきます。

1. 私たちは、我が国の変革と近代化を推進した先人達の「進取の精神」を継承し、困難な課題にも果敢に挑戦し、強い意志と柔軟な心を持って自己実現を図ります。
2. 私たちは、幅広い教養を身につけ、高度で専門的な知識・技能を修得し、地球的視野を持って活躍する人間になることを目指します。
3. 私たちは、サークル活動などの課外活動に積極的に参加し、仲間との友情を育み、思いやり深く魅力溢れる人間になります。
4. 私たちは、地域社会との関わりの中で、一人の人間として責任ある行動を心がけ、社会に貢献できるよう全力を尽くします。

平成22年11月15日制定  
(第61回鹿児島大学開学記念日)

## 〈学生憲章の解説〉



## 鹿兒島大学教育目標

鹿兒島大学は、進取の気風にあふれる総合大学として、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、自主自律と進取の精神を有する人材の育成を目指します。そのために次の教育目標を掲げます。

1. 幅広い教養と高度な専門的知識・技能を身につけ、諸課題を発見・探究・解決する能力を育みます。
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、向上心をもって自ら困難に立ちむかう態度を養います。
3. 地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養います。
4. グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育みます。

平成23年12月15日制定

## 鹿兒島大学生涯学習憲章

鹿兒島大学は、大学憲章の理念に沿って、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざしており、大学と地域をつなぐ営みとして生涯学習を推進します。

鹿兒島大学は、古来より海上交通の要衝として多彩な文化を集積し、世界で固有の多様な自然と共生してきた地域に学び、成熟社会における新たな社会像、地域像、大学像を獲得できる生涯学習に全学で取り組みます。

地域のもつ知は大学及び大学人に新たな知的発見をもたらす宝庫であり、知的拠点としての鹿兒島大学がめざす生涯学習とは、地域に生きる人びとと大学人がともに学び教え合う関係から知の循環を促し相互に成長していくことです。

鹿兒島大学は、全構成員が生涯学習の理念を共有し、地域と世界を結ぶ視野をもって、生涯学習を組織的に実践するために、次の方針を掲げます。

1. 青年期の教育とともに、成人を対象とした教育に取り組み、生涯にわたる学習の機会を提供します。
2. 地域の発展の基礎となる多様な教育機会を用意し、激動の時代を生きる地域の人びとが、ともに支え合い、暮らしていくことに貢献します。
3. 大学の専門知と科学知が、地域の生活や経験と向きあうことを大切にします。そのことを通じて学問を鍛え直し、新しい社会を展望できる知を創造し、広く地域に還元していきます。
4. 鹿兒島大学学生憲章の実現に向けて、学びの主体性を支え、進取の精神を養い、課題解決能力や実践力を育むため、学生が大学で修める学問を基礎に、地域とともに成長できる機会を保障します。
5. 柔軟で闊達な組織づくりに努め、大学と地域の相互理解を深める機会を創出し、生涯学習の推進を地域とともに発展する大学づくりの柱と位置づけます。

平成25年9月19日制定

## 鹿兒島大学男女共同参画基本理念

男女共同参画社会基本法は、男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国の最重要課題であると位置づけています。男女共同参画社会とは、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することのできる社会のことです。この実現には、教育・研究の場であるとともに、就業の場である大学の果すべき役割・社会的責任が極めて大きいものと考えます。

鹿兒島大学は、男女共同参画社会基本法に基づき、男女共同参画社会実現の意義と責任を認識しつつ、21世紀の総合大学に期待される使命を自覚し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざし、以下の基本理念の下、男女共同参画を積極的に推進します。

### <基本理念>

鹿兒島大学は、大学憲章の精神に則り、教育・研究機関として男女共同参画のもとに社会貢献を続けることができる人材を育成・支援し、個々を尊重するとともに、一人ひとりがあらゆる場面において個性と能力を発揮できる大学を実現します。

「一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝くために」

### <行動指針>

1. 男女共同参画の視点に立った教育、研究、就業の場の確立および大学運営における意思決定過程への女性の参画を拡大します。
2. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を重視した施策を推進するための環境を整備します。
3. 女性の能力開発・能力発揮(エンパワーメント)を支援するために、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)の推進、女性キャリアガイダンスの充実、再チャレンジ支援などを行います。
4. 男女共同参画に資する教育・研究、広報・啓発活動を、地域(地方自治体、教育機関、医師会、企業、NPO等)と連携して積極的に推進します。

平成22年1月21日制定  
教育研究評議会決定

## 鹿児島大学入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

### 学士課程

#### <鹿児島大学が求める学生像>

鹿児島大学は、次のような学生を求めています。

- 1.鹿児島大学の教育目標に共感し、それを実現できる基礎学力や考える力と意欲をもつ人
- 2.人間としてのモラルを大切にし、教養をより高めようとする人
- 3.知的向上心に富み、専門職業人として社会に貢献することをめざす人
- 4.ボランティアやインターンシップをはじめ、広く具体的体験に積極的に取り組む意志をもつ人

### 大学院課程

鹿児島大学大学院は、教育目標に定める人材を育成するため、次のような学生を求めています。

- 1.学士としての確かな基礎学力と専門分野における知識・技能を有する人
- 2.主体的に学ぶ態度を身につけ、専門分野に関連する諸問題に関心を持つ人
- 3.自ら課題を発見・探究・解決しようとする意欲に満ちた人

このような学生を適正に選抜するために、研究科の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

### 専門職大学院課程

鹿児島大学専門職大学院は、教育目標に鑑み、高度専門職業人を養成するため、次のような学生を求めています。

- 1.学士としての確かな基礎学力と専門分野における知識・技能を有する人、または、当該分野の基礎資格や現場での経験を有する人
- 2.高度専門職業人をめざす明確な問題意識・関心を持ち、幅広い教養と柔軟な思考力を持つ人
- 3.専門職技能並びに実践力を身につけたい人

このような学生を適正に選抜するために、研究科の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

# 鹿児島大学教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

## 学士課程

鹿児島大学は、教育目標に掲げる人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、初年次から卒業まで系統性のある教育課程(カリキュラム)を編成します。

- 1.幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力を育む科目を配置します。
- 2.自ら課題を発見・探究・解決する能力を育成する実践的な科目を配置します。
- 3.大学、地域及び国際社会における多様な人々とのコミュニケーションを重視した教育を展開します。
- 4.アクティブ・ラーニングの推進を通して、学生が倫理観をもって自主的に問題に取り組むことを支援する教育を展開します。
- 5.人、自然、文化の多様性に見られる鹿児島特有の資源を活用した教育を展開します。

## 大学院課程

鹿児島大学大学院は、教育目標に掲げる人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、系統性のある教育課程(カリキュラム)を編成します。

- 1.大学院課程(修士(博士前期)課程、博士(博士後期)課程)においては、研究倫理に則り、地域の活性化と国際社会の発展に資する幅広い学識と高度な専門性を修得できる科目の提供と、きめ細かな研究指導を行います。
- 2.修士(博士前期)課程においては、専門分野における基礎的な研究能力と高度な専門性を発揮できる実践的な能力を身につけた人材を育成する教育を展開します。
- 3.博士(博士後期)課程においては、鹿児島大学の多様な学術的研究を背景に、課題の発見・探究・解決を目指す研究者や、専門分野を牽引していく役割を担うことのできる専門家を育成する教育を展開します。

## 専門職大学院課程

鹿児島大学専門職大学院は、教育目標に鑑み、以下に示す方針に基づいて、学術の理論及び応用を教授し、高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培う系統性のある教育課程(カリキュラム)を編成します。

- 1.高度専門職業人として、固有の専門業務に必要な深い学識と卓越した能力を養成する体系化した教育を展開します。
- 2.学外との連携を通じた実務教育を行い、地域に根ざした高度専門職業人としての責任感と倫理観を養成する教育を展開します。
- 3.専門分野において、指導的な役割を担う実務家を養成する教育を展開します。

## 鹿児島大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

### 学士課程

鹿児島大学は、大学憲章及び教育目標に鑑み、地域の活性化及び国際社会の発展に貢献していくため、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士の学位を授与します。

1. 社会に貢献するために必要な幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、多様なコミュニケーションができる能力
3. 自ら進んで様々な社会活動に参加し、省察し、その上で、将来の課題を発見し、その探究・解決を志向し続けられる実践力

### 大学院課程

鹿児島大学大学院は、教育目標に鑑み、以下に示す方針に基づいて、学位を授与します。

1. 修士(博士前期)課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得し、審査に合格した者に修士の学位を授与します。
  - 研究倫理を基盤とした専門分野における基礎的な研究能力
  - 高度な学識と専門性を活かして地域と国際社会の発展に貢献できる能力
2. 博士(博士後期)課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与します。
  - 研究倫理を基盤とした専門分野における独創的な研究能力
  - 専門分野で指導的な役割を担い、地域と国際社会の発展に貢献できる能力

### 専門職大学院課程

鹿児島大学専門職大学院は、教育目標に鑑み、以下に挙げる能力を身につけた者に専門職の学位を授与します。

1. 高度専門職業人として求められる責任感、職業倫理観、及び実務能力
2. 専門分野で指導的な役割を担うことのできる能力



## 国立大学法人鹿児島大学の基本的な目標 第2期中期目標(平成22～27年度)

鹿児島大学は、「鹿児島大学憲章」に基づき、我が国の変革と近代化の過程で活躍した先人の意志を受け継ぎ、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成し、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、『進取の気風にあふれる総合大学』をめざす。その実現のため、以下の基本目標を掲げる。

### 「進取の精神」を有する学士の育成

鹿児島大学は、幅広い教養の厚みに裏打ちされた倫理観と生涯学習力を備え、「進取の精神」を有する人材を育成するため、学士課程の基盤となる共通教育の改善を図るとともに、専門教育の質を保証するシステムを確立する。

### 大学の特色を活かした研究活動

鹿児島大学は、独創的・先端的な研究を積極的に推進するとともに、総合大学の特色を活かし、島嶼、環境、食と健康等の全人类的課題の解決に果敢に挑戦する。

### 地域社会の活性化に貢献

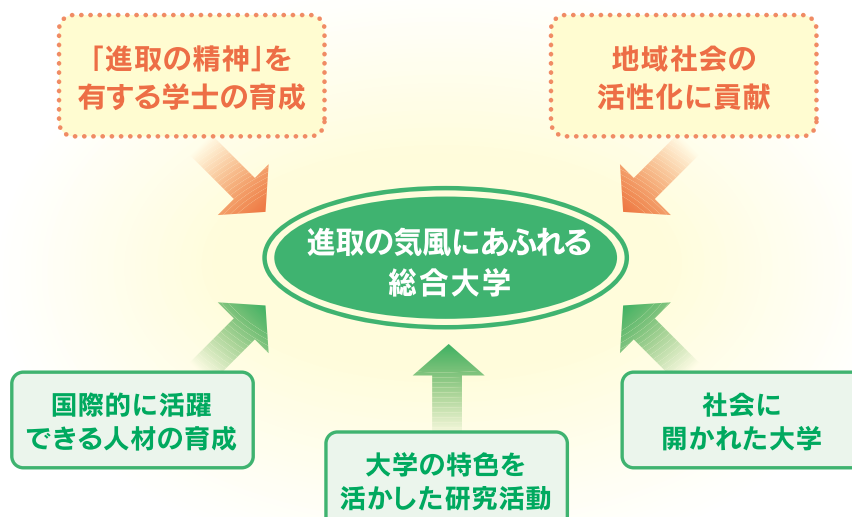
鹿児島大学は、知的・文化的な生涯学習の拠点として、地域との連携を重視するとともに、各学部等の特色を活かした社会貢献を推進し、地域社会の活性化に貢献する。

### 国際的に活躍できる人材の育成

鹿児島大学は、アジア・太平洋諸地域との学術交流・教育交流を通じて、国際交流拠点としての機能を高め、国際的課題の解決に貢献し、グローバル化時代に活躍できる人材を育成する。

### 社会に開かれた大学

鹿児島大学は、地域に開かれたキャンパス環境を整備するとともに、社会への積極的な情報提供に努め、透明性の高い公正な大学運営とその改革を図ることにより、社会への責任を果たす。



## ◆重点領域研究

### 概要

鹿児島大学は、平成19年に「鹿児島大学憲章」を制定し、「研究者の連携」や「地域の要請に応える研究」を研究活動の方針として掲げている。なかでも、南北600kmに及ぶ南西諸島をかかえる鹿児島県にあって、活火山の桜島や霧島、世界自然遺産の屋久島、生物多様性の豊富な奄美大島のような優れた自然環境に恵まれた地を、地元擁する総合大学として、独創的かつ先端的な研究を積極的に推進している。

この総合大学の特色を活かした、島嶼、環境、食と健康等の全人類的課題の解決に果敢に挑戦するために、平成22年度に「島嶼」、「環境」、「食と健康」の3研究プロジェクトを立ち上げ、平成25年度には、「水」、「エネルギー」の2研究プロジェクトを加えた。5つのプロジェクトは、地域貢献型研究であり相互に関連も深い。部局の枠を超えた全学横断的な研究活動を推進しつつ、各プロジェクトのより一層の相互連携を目指す。

このような研究活動は、大学の地域貢献として重要であるのみならず、研究者の知的な好奇心をかきたてるものであり、さらに掘り下げて研究をすることにより、鹿児島大学の特徴を生かした独自の研究に発展することを目指している。

### ①島嶼

国内外島嶼地域における自立的発展に寄与する研究の推進：

鹿児島大学はその創立以来、鹿児島県下の島嶼域はもちろんのこと東南アジアや南太平洋の島々をフィールドとした研究が各学部で独自に行われてきた。

このような歴史的伝統を踏まえ、南九州からアジア・太平洋諸地域などの産業振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化・情報環境の改善や向上など、地域や国際社会の発展に貢献するとともに、世界水準の教育・研究拠点となることを目指し、次の3プロジェクトとデータベース作成が行われている。

#### 【環境変動に適応する「国際島嶼教育研究拠点」形成プロジェクト】

自然や社会の環境変化の影響を受けやすい島嶼域の教育研究機関や行政と連携し、国際的な島嶼教育研究拠点を形成する。

#### 【島に生きる「島嶼社会」生活力向上プロジェクト】

人々の生活に関わる社会、歴史、文化、医療、情報等の研究テーマを調査分析し、その相互関係も含めた総合的な生活力向上の改善策を構築する。

#### 【島嶼地域発展のための適応策構築プロジェクト】

県内島嶼域の農林畜産水産資源の探索、機能性成分の分析などを通じて地域産業の発展や振興策を構築し、そのための人材養成を行う。



▲鹿児島から連なる島々は社会・文化・生物学的に多様性の高い地域である。平成26年度は大隅諸島において学術総合調査を行った。大隅諸島における魚類相調査の結果、未記載種の可能性が高いアゴアマダイ科アゴアマダイ属の1種が採集された。2015年2月23日に研究成果報告会を開催した。



▲国内外島嶼での調査では地元関係者との協働を大切にしている。成果討論会も島人を招致したり、島で開催したり、映像配信で結んだりして公開している。平成26年度は「島を結ぶ学びと連携－地元学と島嶼学の同時展開－」を開催した。当初は種子島において行う予定だったが、台風が種子島を直撃する可能性が高くなり、急遽鹿児島大学を中心に動画サイトを利用して口永良部島や奄美大島等とつなぎ、将来の島嶼の発展について各島の方々と議論を行った。

## ②環境

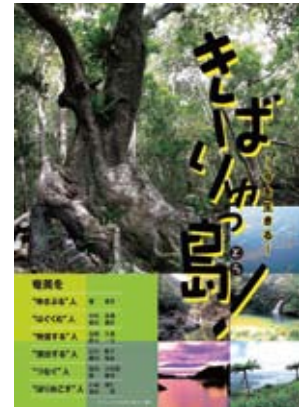
本プロジェクトは、次のプロジェクトで構成されている。

**鹿児島環境学プロジェクト**は、環境問題を地域から問い直し、屋久島や奄美という地域の諸課題を分析して現場において具体的な解決の道を探ろうとする学際的な研究の試みである。平成26年度は、年間を通じて多様な分野で活躍する奄美の実践家と共同研究を進めることで、現場と学問を接近させる方法開発に取り組み、次につながる研究シーズや研究体制の獲得が可能となった。また、これまでの市販本に代わって、一般のより多くの方に環境学の取り組みを知ってもらい、地域に還元する方法として、新たにパンフレット冊子の作製に着手した。

**生物多様性プロジェクト**では、奄美大島と徳之島で、魚類相調査、海岸の底生生物調査、約40河川の陸水産甲殻類調査、魚類仔稚魚相の調査、哺乳類の分布調査、野生植物の遺伝特性の解析、アリ相の調査、海岸植生調査等を行った。368頁の「トカラ列島植物目録」を出版した。成果の一部は、国際シンポジウム1件、国内学会で4件発表した。本プロジェクトが基礎となって文科省に概算要求を行い「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点形成」が、H27年度に始まった。また、鹿児島大学において開催した日本生態学会では、「南西諸島の生物多様性、その成立と保全」の公開講演会を行った。



▲奄美大島の森の中で調査区を設定するため巻尺を引く学生



▲パンフレット冊子「キバリユ島! (頑張るぞ!島)」



▲自動撮影装置がとらえたアマミノクロウサギ

## ③食と健康

南九州、鹿児島を中心とした地域は、温帯から亜熱帯の気候と島嶼圏を擁する豊かな自然に恵まれ、農畜水産業を主産業とし日本における食料供給の重要拠点である。同時に、アジアにおける食料生産や食文化において、歴史的に重要な関係が構築されてきている地理的特徴を有した地域である。日本では少子高齢化社会が急速に進行中で食料の需要量の減少が見込まれるが、世界ではアジア圏などで急激に人口が増加することが明らかであり、食料供給は今後の大きな課題である。さらに、食による健康的な生活を実現することは、現代社会において重要な課題である。

「食と健康」プロジェクトでは、南九州に特徴のある農水産食品の健康機能性について科学的な研究により生活習慣病予防や老年症候群等との関連を明確にし、同時に、農畜水産業の技術課題の解決とこれら事業を取り巻く社会環境の変化に対応する資源循環型持続的農漁村の再構築および安全な食生活を可能とする食育教育を推進する。これら地域と連携して行う学術研究の成果を応用し、アジア圏や地域の食を通じた健康的な生活基盤の構築や農畜水産業に関わる地域食産業の振興に貢献すると同時に、国際的な研究拠点となることを目標とする。農学・水産学・理工学・教育・医歯学など各研究科を連携した全学的研究・教育プロジェクトである。平成26年度には2件の公開シンポジウム「鹿児島の食～新たな成長戦略～」、「地域特産から学ぶ食品の機能性」を共催した。また、専門研究者による「食と健康」研究プロジェクト結成を目指したシンポジウム「鹿児島の黒豚 機能性食と健康シンポジウム」を開催した。



▲食と健康に関する公開シンポジウム「鹿児島の食～新たな成長戦略～」(平成26年11月18日)の様子



▲食と健康に関する専門家シンポジウム「鹿児島の黒豚 機能性食と健康シンポジウム」(平成27年1月29日)で紹介した黒豚弁当



## ④水

鹿児島大学の水に関する研究プロジェクトでは、「水の未来を考える～地域における人と自然と水の関わり～」の視点から、地域の水利用や水源開発・保全、火山地域の水の流れ、豪雨地域の土砂・洪水災害、および南九州における水環境汚染など、鹿児島特有の水に関わる課題に対して、学内の学際的共同研究のもと研究を推進し、地域の課題解決に貢献することを目的としている。

**課題「水資源と利水」**では、鹿児島の特徴的な水資源である池田湖および島嶼域の地下水に関して、質と量の地域課題を把握し、水文科学的検討を加えている。また、小規模溜池の農業用利用に関して、奄美群島における過去の経験をフィリピンの稲作利用に応用する可能性について社会経済的考察を加えている。

**課題「水と災害」**では、近年の気候変化に伴い、記録的な豪雨が各地で発生しており、大規模な土砂・洪水災害が目立っている。そこで、降水の流出機構を明らかにするとともに、大規模な土砂災害を引き起こす深層崩壊の発生箇所の予測、警戒対応等に関する理工学的研究を推進し、地域防災力の向上を図っている。

**課題「水と生活」**では、山川湾における赤潮の基礎調査および輝北ダムでのアオコの実態調査を行い、水環境保全のための基礎データの収集を行うとともに、対策について検討を加えている。



▲湧水センサーによる深層崩壊警戒対応に関する現地試験（熊本県五木村）



▲アオコ対策法：筏設置状況と空心菜によるダム湖内栄養塩回収実験

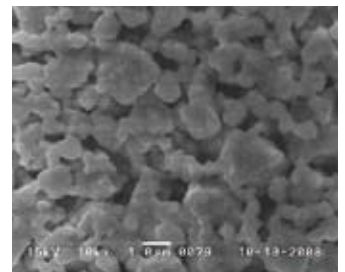
## ⑤エネルギー

エネルギー資源と利用の多様化および再生可能資源の活用に向けた技術開発と社会基盤の創出をめざし、以下の重点分野で研究を推進している。

**【バイオリファイナリー技術開発】**NEDOの技術開発事業として、バガス（サトウキビの搾りかす）等から高品質バイオ燃料油を製造するプロセス技術の確立をめざし、鹿児島大学を中心に、国および県の研究機関やエンジニアリング会社と共同でプロジェクトを実施している。また、畜産廃棄物のメタン発酵残渣を用いたエネルギー作物を原料とするモデルを提案し、農工連携により推進する予定である。



▲バガスの水熱処理分解物質から燃料を合成するための実験装置



▲電気化学セルに使用される多孔質ドリニウム固体溶セリア膜の電子顕微鏡写真

**【電気化学セルを用いるバイオガスからの水素製造とCO2分解】**多孔質酸化物イオン導電体からなる電気化学反応器を用い、いちき串木野市の焼酎滓処理工場で生産されるバイオガスから水素を製造し、副生する一酸化炭素を固体炭素と酸素へ分解する。この実証試験を平成26-27年度科学技術振興機構スーパーハイウエイ事業として進めている。

**【太陽光発電システムの高度利用・高効率化】**太陽電池モジュールメーカーや国および県の研究機関との間で、火山降灰・微粉塵等対策用太陽電池モジュールに関する意見交換会を実施すると共に、積灰の抑制と発電量最大化の実現を目的として、降灰による太陽電池モジュールの発電量低下特性を明らかにするための実験などを共同研究の一環として行っている。

**【海流・潮流エネルギーポテンシャルの調査】**NEDOのプロジェクトのもとに、トカラ海峡の海流と長島海峡の潮流のエネルギーポテンシャルを調査すると共に、これらの海域での実証実験の適地を調査した。今後は、適地で抽出可能なエネルギー量の算定と発電装置が適地周辺海域にもたらす影響に関する研究に展開する。

**【再生可能エネルギーによる地域防災システム構築】**再生可能エネルギーによる地域防災機能強化に関する共同研究に参画し、災害時に分散設置された再生可能エネルギーを活用する際の課題について検討した。幾つかの災害シナリオに基づいて避難状況を予測し、長期電力喪失時に行政機関や避難施設、医療機関などの主要施設へ電力を供給するための課題を整理した。



▲潮流計測器の設置作業（かごしま丸にて）

## ◆かごしまルネッサンスアカデミー

### 地域を創り地域を興す人材育成

鹿児島大学では、平成18年度から22年度の間、文部科学省科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」による補助事業として、「食の安全管理コース」、「経営管理コース」、「健康・環境・文化コース」の3コースによる人材育成プログラム「かごしまルネッサンスアカデミー」を実施し、総計250名の修了者を地域に送り出してきた。

平成24年度からは、この成果を受け、本アカデミーの後継事業として、部局等が企画・実施する「履修証明制度」に基づく社会人向け人材養成プログラム（焼酎マイスター養成コース、林業生産専門技術者養成プログラム、稲盛経営哲学プログラム）を、新しい「かごしまルネッサンスアカデミー」として継続して実施し、プログラムの内容と質を保証している。



▲実習（焼酎マイスター養成コース）

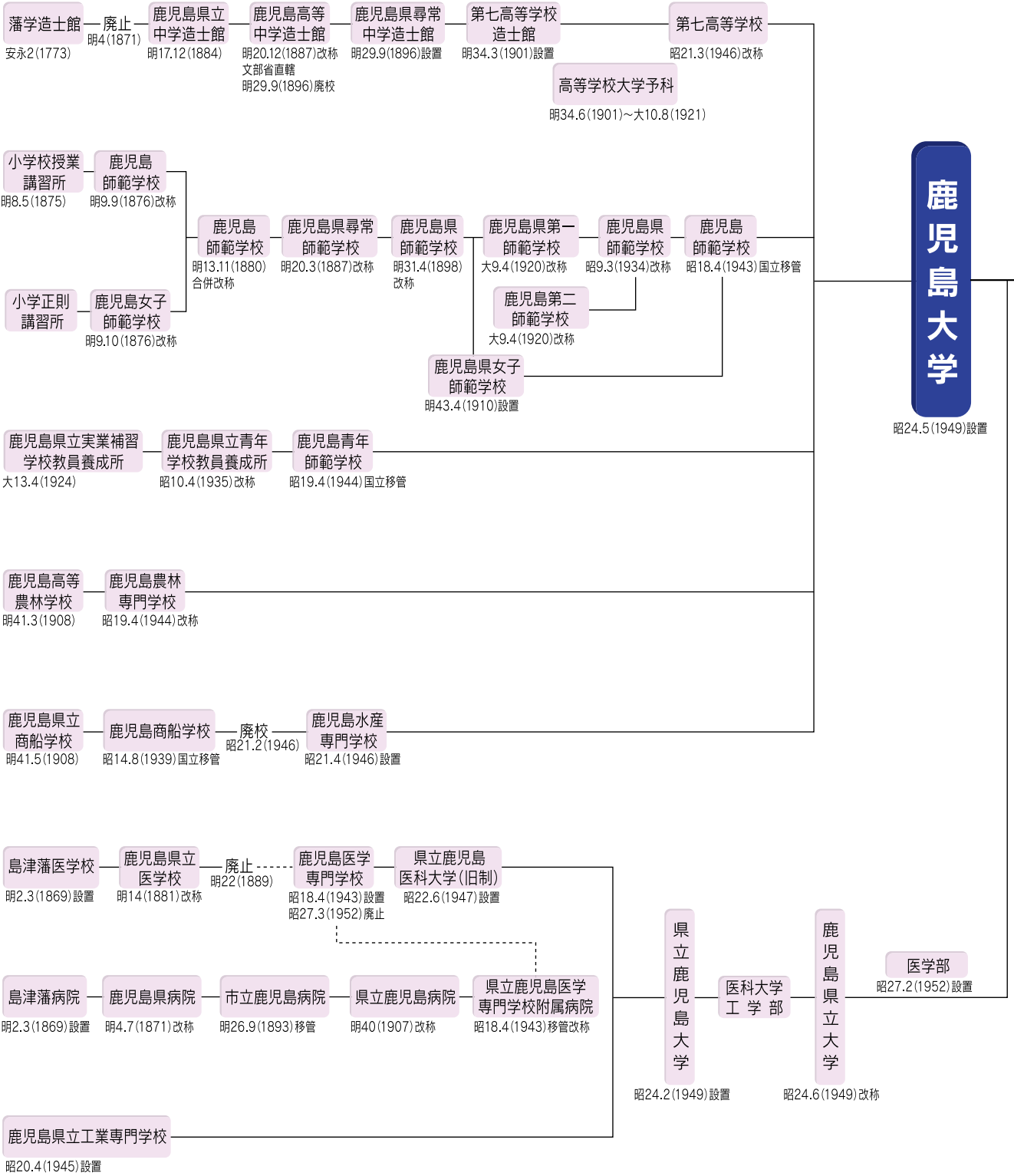


▲実習（林業生産専門技術者養成プログラム）



▲講義（稲盛経営哲学プログラム）

鹿児島大学



藩学造士館「三国名勝図会」(附属図書館「玉里文庫」所蔵)



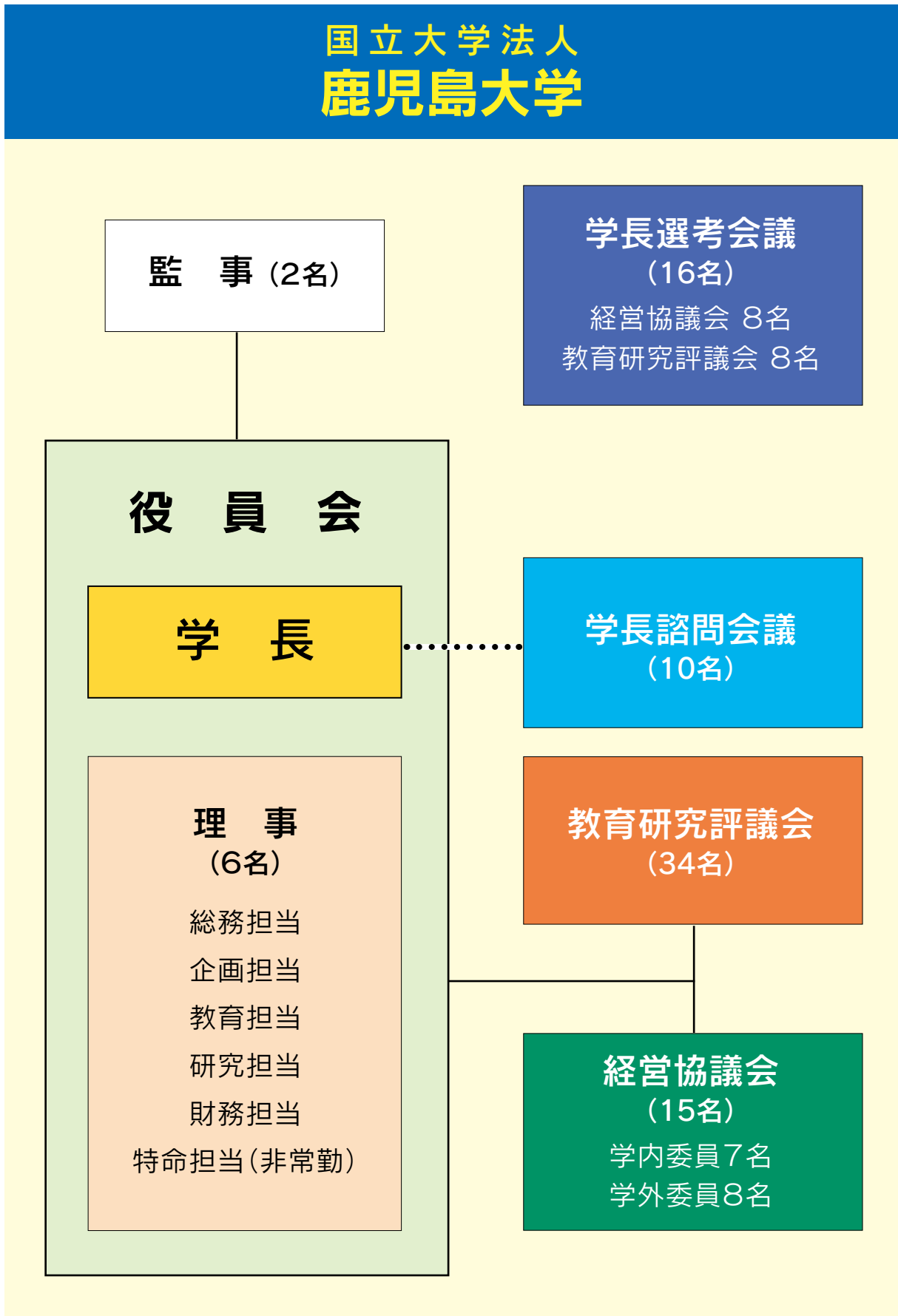
第七高等学校造士館前景



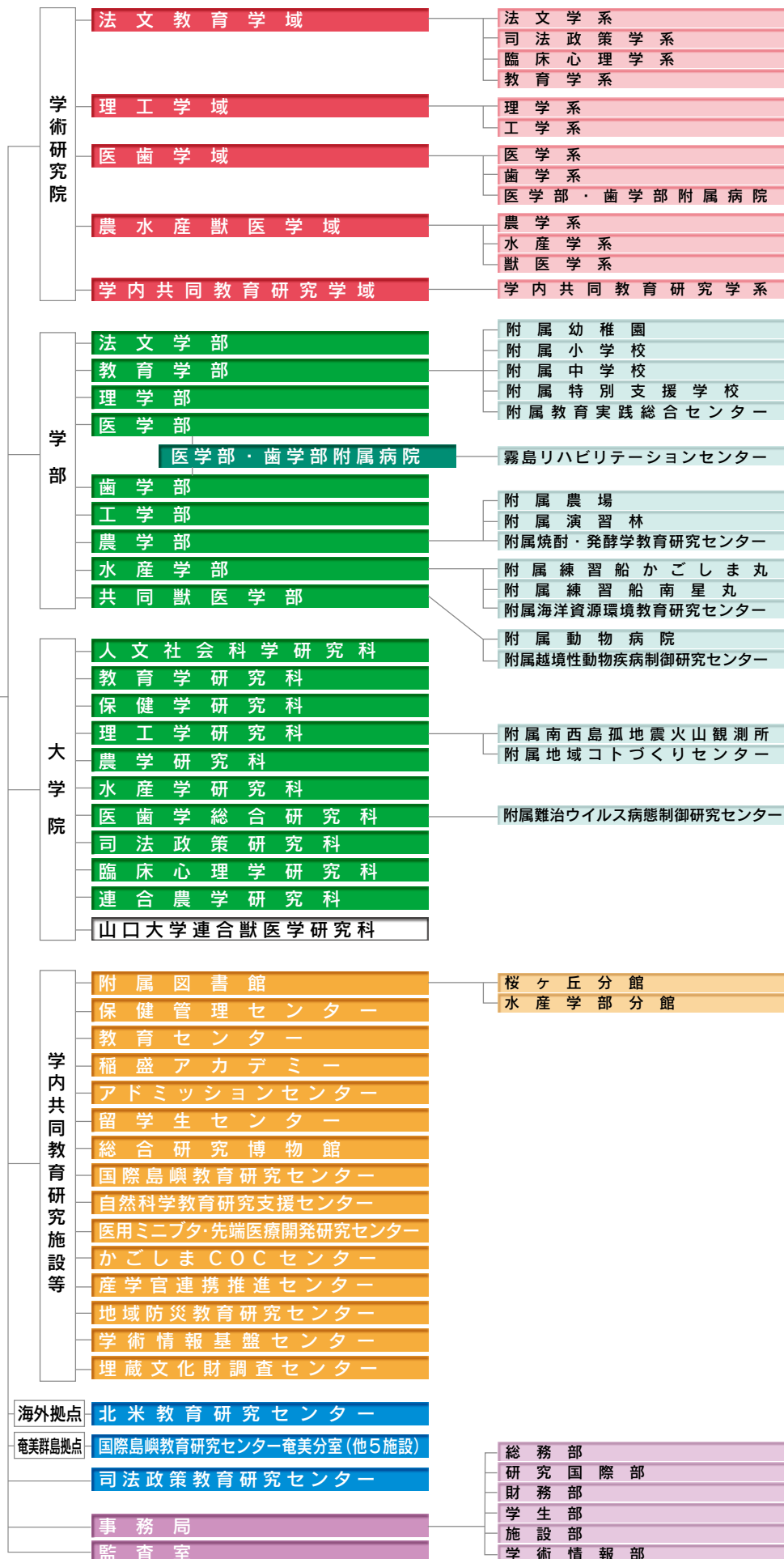
学 部	文学部 昭47.3(1972)廃止	法文学部 昭40.4(1965)文学部を改組	附属幼稚園 昭26.4(1951)設置
	第七高等学校 昭25.3(1950)廃止	教育学部 昭24.5(1949)設置	附属小学校 昭24.9(1949)設置
	鹿児島師範学校 昭26.3(1951)廃止	理学部 昭40.4(1965)文学部を改組	附属中学校 昭26.5(1951)設置
	鹿児島青年師範学校 昭26.3(1951)廃止	医学部 昭30.7(1955)国立移管	附属特別支援学校 昭55.4(1980)設置、平19.4(2007)改称
		歯学部 昭52.10(1977)設置	附属教育実践総合センター 平14.4(2002)設置
		工学部 昭30.7(1955)国立移管	附属教育実践研究指導センター 平元.5(1989)設置、平14.3(2002)廃止
	鹿児島立大学医学部 昭33.4(1958)廃止	農学部 昭24.5(1949)設置	医学部・歯学部附属病院 平15.10(2003)設置
	県立鹿児島医科大学(旧制) 昭36.3(1961)廃止	水産学部 昭24.5(1949)設置	医学部附属病院 昭33.5(1958)設置、平15.9(2003)廃止
	附属熱帯医学研究施設 昭35.4(1960)設置、昭57.3(1982)廃止	共同獣医学部 平24.4(2012)設置	歯学部附属病院 昭55.4(1980)設置、平15.9(2003)廃止
	附属霧島分院 昭33.5(1958)設置、昭63.3(1988)廃止	教養部 昭40.4(1965)設置、平9.3(1997)廃止	霧島リハビリテーションセンター 医学部附属病院分院 昭33.5(1958)設置、平15.10(2003)改称
附属看護学校 昭33.5(1958)設置、昭63.3(1988)廃止	一般教養部 昭24.6(1949)学内措置、昭40.3(1965)廃止		
附属助産婦学校 昭33.5(1958)設置、平元.3(1989)廃止		附属農場 附属演習林(高隈演習林 平26.7(2014)教育関係共同利用拠点認定)	
附属保健婦学校 昭36.4(1961)設置、平元.3(1989)廃止		附属焼酎・発酵学教育研究センター 平23.4(2011)設置	
附属離島研究施設 昭42.6(1967)設置、平15.3(2003)廃止		附属練習船かごしま丸 平24.3(2012)建造	
		附属練習船南星丸 平14.11(2002)建造	
鹿児島立大学工学部 昭33.4(1958)廃止		附属海洋資源環境教育研究センター 平12.4(2000)設置	
鹿児島農林専門学校 昭27.3(1952)廃止		附属水産実験所 昭47.5(1972)設置、平12.4(2000)廃止	
鹿児島水産専門学校 昭26.3(1951)廃止		附属動物病院 鹿児島高等農林学校附属家畜病院 昭16.8(1941)設置 鹿児島農林専門学校附属家畜病院 昭19.4(1944)改称 農学部附属家畜病院 昭24.5(1949)移管 農学部附属動物病院 平17.4(2005)改称、平24.4(2012)共同獣医学部へ移管 附属越境性動物疾病制御研究センター 農学部附属越境性動物疾病制御研究センター 平23.4(2011)設置、平24.4(2012)共同獣医学部へ移管	
教養部			
一般教養部 昭24.6(1949)学内措置、昭40.3(1965)廃止			
共同獣医学部 平24.4(2012)設置			
教養部 昭40.4(1965)設置、平9.3(1997)廃止			
大学院	法学研究科 昭54.4(1979)設置、平10.3(1998)廃止	人文社会科学研究科(博・前) 平10.4(1998)設置	
人文科学研究科 昭61.4(1986)設置、平10.3(1998)廃止	人文社会科学研究科(博・後) 平15.4(2003)設置	教育学研究科(修) 平6.4(1994)設置	
県立鹿児島医科大学研究科(旧制) 昭29.5(1954)設置、昭36.3(1961)廃止	保健学研究科(博・前) 平15.4(2003)設置	保健学研究科(博・後) 平17.4(2005)設置	附属南西島孤地震火山観測所 平3.4(1991)設置
理学研究科 昭52.4(1977)設置、平10.3(1998)廃止	理工学研究科(博・前) 昭43.4(1968)工学研究科修士設置	理工学研究科(博・後) 平6.4(1994)(修)を改組、平10.4(1998)改称	
医学研究科 昭34.4(1959)設置、平15.3(2003)廃止	農学研究科(修) 昭41.4(1966)設置	農学研究科(修) 昭44.4(1969)設置	附属地域コトづくりセンター 平27.4(2015)設置
歯学研究科 昭59.4(1984)設置、平15.3(2003)廃止	水産学研究科(修) 昭44.4(1969)設置	医歯学総合研究科(博) 平15.4(2003)設置	附属難治ウイルス病態制御研究センター 平16.4(2004)設置
教育専攻科 昭34.4(1959)設置、平6.3(1994)廃止	医歯学総合研究科(修) 平16.4(2004)設置	司法政策研究科(専) 平16.4(2004)設置	医学部附属難治性ウイルス疾患研究センター 平5.4(1993)設置、平15.3(2003)廃止
理学専攻科 昭44.4(1969)設置、昭52.3(1977)廃止	臨床心理学研究科(専) 平19.4(2007)設置	連合農学研究科(博) 昭63.4(1988)設置	医学部附属難治性ウイルス病態制御研究センター 平15.4(2003)設置、平16.3(2004)廃止
工学専攻科 昭34.4(1959)設置、昭43.3(1968)廃止	山口大学大学院連合獣医学研究科(博) 平2.4(1990)構成大学として参加		
農学専攻科 昭29.4(1954)設置、昭41.3(1966)廃止			
水産専攻科 昭34.4(1959)設置、昭44.3(1969)廃止			
遠洋漁業学特設専攻科 昭28.4(1953)設置			
水産専攻科 昭49.4(1974)			
(遠洋漁業学特設専攻科を改称) 平15.3(2003)廃止			
附属図書館 昭24.5(1949)設置	桜ヶ丘分館 昭33.5(1958)設置、昭54.4(1979)改称、平4.4(1992)改称	水産学部分館 昭24.7(1949)設置	
文理部分館 昭40.3(1965)廃止 農学部分館 昭40.3(1965)廃止	教育学部分館 昭40.3(1965)廃止 工学部分館 昭40.3(1965)廃止		
保健管理センター 昭47.5(1972)設置			
教育センター 平15.10(2003)設置			
稲盛アカデミー 平17.4(2005)設置、平20.4(2008)改組			
アドミッションセンター 平26.4(2014)設置			
留学生センター 平12.4(2000)設置			
総合研究博物館 平13.4(2001)設置			
国際島嶼教育研究センター 平22.4(2010)設置	南方海域研究センター 昭56.4(1981)設置、昭63.3(1988)廃止 南大太平洋海域研究センター 昭63.4(1988)設置、平10.3(1998)廃止		
自然科学教育研究支援センター 平24.4(2012)設置	多島圏研究センター 平10.4(1998)設置、平22.4(2010)改組		
医用ミニマ・先端医療開発研究センター 平24.4(2012)設置	遺伝子実験施設 平8.5(1996)設置、平14.3(2002)廃止 医学部附属動物実験施設 昭48.4(1973)設置、平14.3(2002)廃止		
かごしまCOCセンター 平26.10(2014)設置	生命科学資源開発研究センター 平14.4(2002)設置、平17.3(2005)廃止 アイノトープ総合センター 平11.4(1999)設置、平17.3(2005)廃止		
生涯学習教育研究センター 平15.4(2003)設置	機器分析センター 平13.4(2001)設置、平17.3(2005)廃止 フロンティアサイエンス研究推進センター 平17.4(2005)設置、平24.4(2012)改組		
産学官連携推進センター 平24.4(2012)設置	地域共同研究センター 平4.4(1992)設置、平18.3(2006)廃止 知的財産本部 平15.12(2003)設置、平18.3(2006)廃止		
地域防災教育研究センター 平23.6(2011)設置	産学官連携推進機構 平18.4(2006)設置、平24.4(2012)改称		
学術情報基盤センター 平15.4(2003)設置	情報処理センター 昭62.12(1987)設置、平7.3(1995)廃止 総合情報処理センター 平7.4(1995)設置、平15.3(2003)廃止		
埋蔵文化財調査センター 平24.4(2012)設置	〔埋蔵文化財調査室 昭60.6(1985)設置、平24.4(2012)改称〕		
北米教育研究センター 平20.9(2008)設置			
奄美群島拠点 平27.4(2015)設置			
司法政策教育研究センター 平27.3(2015)設置			
医療技術短期大学部 昭60.10(1985)設置、平11.4(1999)医学部保健学科に改組、平14.3(2002)廃止			

# 国立大学法人 鹿児島大学

組  
織



鹿児島大学



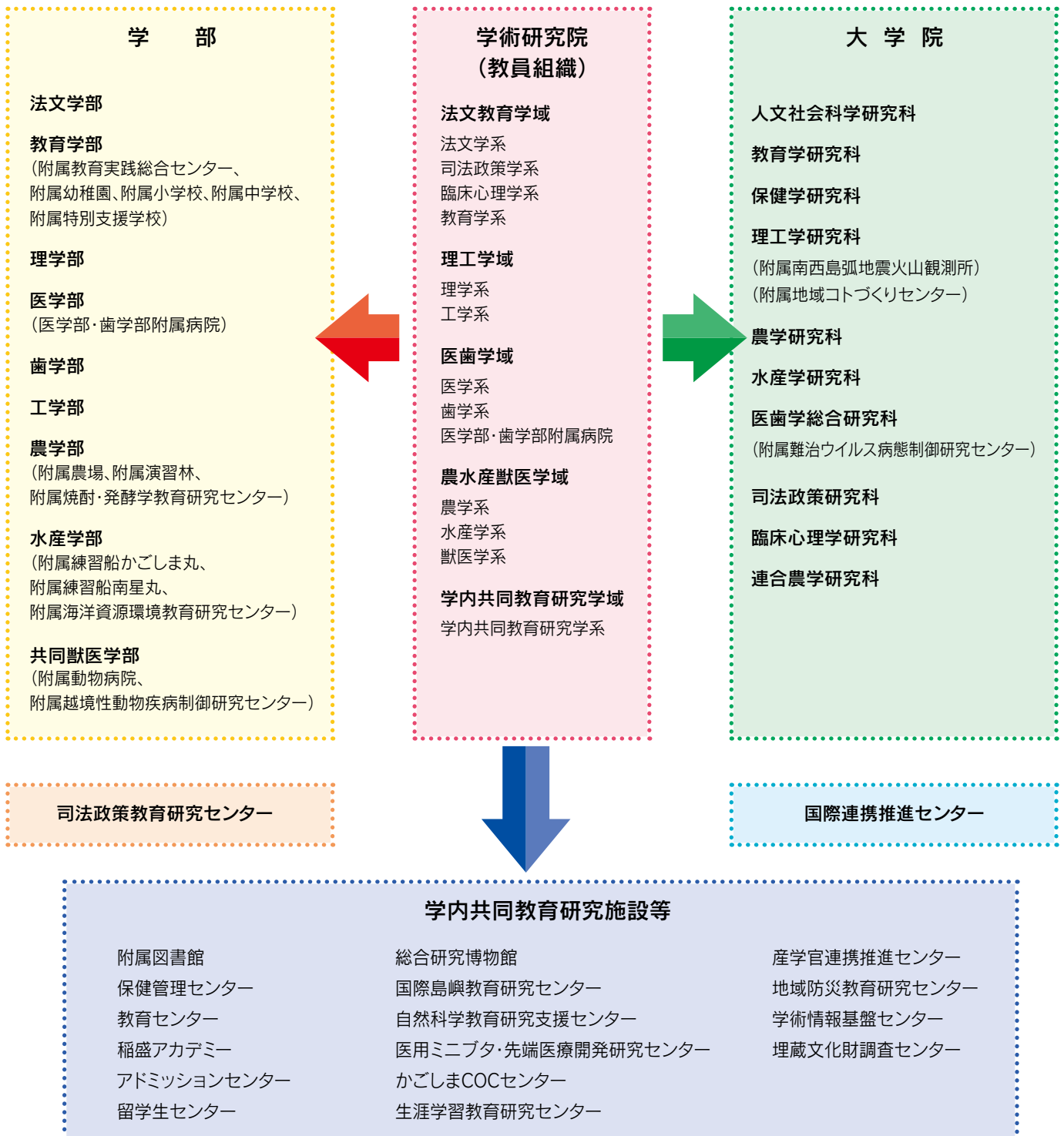
## 【学術研究院】

学長のリーダーシップの下、社会の変化に対応した教育研究組織づくり、教育課程の編成及び学内資源の再配分を全学的な視点で柔軟かつ迅速に進めるため、現行の教育研究組織を教員組織と教育研究組織に分離し、新たに学術研究院(教員組織)を平成27年4月1日に設置しました。

学術研究院は、5つの「学域」と13の「学系」からなり、学域は現在の学部・研究科等の教育研究分野に対応した一定規模の組織を形成し、学系は学域の下に教員の専攻分野に応じた組織となっています。教員は、このいずれかの学系に所属しています。

学術研究院長には学長を充て、今まで学部・研究科等ごとに所属していた教員を一元的に管理し、全学的な視点に基づいた計画的な教員人事を行うこととしています。

### 教育研究組織 (平成27年4月1日)



(平成27年6月1日現在)

## 役員

学長	前田 芳 實
理事・副学長 総務担当	島 秀 典
理事・副学長 企画担当	高松 英 夫
理事・副学長 教育担当	清原 貞 夫
理事・副学長 研究担当	住吉 文 夫
理事・副学長 財務担当	永井 義 美
理事 特命担当	石窪 奈穂美
監事 業務監査	赤坂 裕 彦
監事 会計監査	押越 武 彦

## 副学長

附属図書館担当	野呂 忠 秀
共通教育担当	飯干 明
学生生活担当	武隈 晃
附属病院担当	熊本 一 朗

## 経営協議会委員

学長	前田 芳 實
城山観光株式会社代表取締役社長	伊牟田 均
笹川法律事務所弁護士	笹川 理 子
鹿児島県立短期大学学長	種村 完 司
株式会社丸屋本社代表取締役社長	玉川 患
鹿児島県高等学校長協会会長	豊島 真 臣
鹿児島県立鶴丸高等学校校長	
株式会社新日本科学代表取締役社長	永田 良 一
独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター名誉院長	中村 一 彦
鹿児島市副市長	松木園 富 雄
理事	島 秀 典
理事	高松 英 夫
理事	清原 貞 夫
理事	住吉 文 夫
理事	永井 義 美
医学部・歯学部附属病院長	熊本 一 朗

## 教育研究評議会評議員

学長	前田 芳 實
理事	島 秀 典
理事	高松 英 夫
理事	清原 貞 夫
理事	住吉 文 夫
理事	永井 義 美
副学長	武隈 晃
法文学部	平井 一 臣
教育学部	高津 孝 理
理学部	土田 治 彦
医学部	大坪 昭 淳
歯学部	與倉 協 一
	佐野 輝 彰
	木佐 貴 也
	山口 徹 也
	山崎 要 一

工学部	渡邊 陸 俊 雄
農学部	岩井 文 久 雄
	橋本 文 達 郎 介
水産学部	松岡 越 俊 介
	越塩 月 雅 美
共同獣医学部	望宮 本 一 朗
医学部・歯学部附属病院長	熊本 一 朗
理工学研究科長	近藤 英 二
医歯学総合研究科長	馬場 昌 範
司法政策研究科長	米田 健 一
臨床心理学研究科長	中原 陸 美 志
連合農学研究科長	杉元 康 志
附属図書館長	野呂 忠 秀
学内共同教育施設代表者	森 邦 彦
教育センター長	飯干 明

## 学長諮問会議委員

学長	前田 芳 實
公益社団法人鹿児島県医師会会長	池田 琢 哉
京セラ株式会社名誉会長	
日本航空株式会社名誉会長	稲盛 和 夫
鹿児島大学同窓会連合会会長	江口 正 純
株式会社南日本新聞社代表取締役社長	逆瀬川 尚 文
鹿児島商工会議所名誉顧問	諏訪 秀 治
株式会社南日本放送代表取締役社長	中村 耕 治
日本芸術院会員/鹿児島大学名誉教授	中村 晋 也
株式会社鹿児島銀行相談役	永田 文 治
鹿児島市長	森 博 幸

## 学長補佐

総務担当	坂本 正 幸
人事担当	松田 忠 大
男女共同参画担当	鈴木 廣 志
女性研究者支援担当	橋口 知
危機管理・コンプライアンス担当	小栗 實
法務担当	前田 稔 進
企画・評価・IR担当	洪井 進
法人評価担当	仙波 伊知郎
広報担当	中島 大 輔
情報担当	森 邦 彦
教育担当	有倉 巳 幸
就職・学生支援担当	前田 雅 人
ボランティア支援・ピアサポート担当	西 隆 一郎
入試広報担当	松元 光 春
入試統計担当	新森 修 一
研究推進担当	宮田 篤 郎
研究支援担当	太田 一 郎
産学官連携担当	福島 誠 治
社会貢献担当	木村 郁 夫
国際担当	竹内 勝 徳
留学生担当	畝田 谷 桂 子
財務担当	田代 正 一
キャンパス計画担当	木方 十 根

## 事務局

総務部長	外間 尹 隆
総務課長	松野下 繁 文
企画評価課長	中村 智 子
人事課長	通山 裕 樹
情報企画課長	中園 康 弘
労務調査室長	内山 保 一
研究国際部長	野田 潔
研究協力課長	安武 博 隆
社会連携課長	松浦 洋 人
国際事業課長	横枕 健 児
財務部長	大園 利 則
財務課長	落合 祐 二
経理課長	西 信 博
学生部長	内山 修 一
教務課長	湊 哲 郎
学生生活課長	上 菌 和 郎
入試課長	増 間 芳 雄
施設部長	廻 正 弘
企画課長	壽 福 初 美
建築課長	田 鍋 和 仁
設備課長	淵 上 清 久
学術情報部長	渡 邊 俊 彦
情報管理課長	二 石 章
情報サービス課長	高 木 貞 治

## 監査室

監査室長	荒 武 祐 宏
------	---------

## 学術研究院

### 学域長

理工学域長	近 藤 英 二
医歯学域長	馬 場 昌 範

### 学系長

法文学系長	平 井 一 臣
司法政策学系長	米 田 健 一
臨床心理学系長	中 原 睦 美
教育学系長	土 田 理
理学系長	與 倉 昭 治
工学系長	渡 邊 睦
医学系長	佐 野 輝
歯学系長	松 口 徹 也
農学系長	岩 井 久
水産学系長	松 岡 達 郎
獣医学系長	望 月 雅 美

## 学 部 等

### 法文学部

学部長	平 井 一 臣
副学部長	高 津 孝
副学部長	大 前 慶 和
事務長	上國料 宏

## 教育学部

学部長	土 田 理
副学部長	大 坪 治 彦
副学部長	上 谷 順三郎
事務長	安 永 政 喜
附属教育実践総合センター長	武 隈 晃
附属幼稚園長	小 江 和 樹
附属小学校長	小 江 和 樹
附属中学校長	樋 口 晶 彦
附属特別支援学校長	今 林 俊 一

## 理学部

学部長	與 倉 昭 治
副学部長	藏 脇 淳 一
副学部長	仲 谷 英 夫
副学部長	藤 井 伸 平

## 医学部

学部長	佐 野 輝
副学部長	木佐貫 彰
副学部長	河 野 嘉 文
副学部長	古 川 龍 彦
副学部長	米 和 徳

## 歯学部

学部長	松 口 徹 也
副学部長	山 崎 要 一
副学部長	小松澤 均
副学部長	於 保 孝 彦

## 医学部・歯学部附属病院

病院長	熊 本 一 朗
副病院長(医科担当)	有 田 和 徳
副病院長(歯科担当)	山 崎 要 一
薬剤部長	武 田 泰 生
看護部長	向 窪 世知子
臨床技術部長	弓 場 裕 之
事務部長	平 原 安 昭
総務課長	島 森 俊 光
経営企画課長	脇 野 龍 也
管理課長	田 淵 善 昭
医務課長	馬場園 誠

## 工学部

学部長	渡 邊 睦
副学部長	本 間 俊 雄
副学部長	甲 斐 敬 美
副学部長	川 畑 秋 馬

## 農学部

学部長	岩 井 久
副学部長	橋 本 文 雄
副学部長	岩 崎 浩 一
副学部長	境 雅 夫
附属農場長	津 田 勝 男
附属演習林長	西 野 吉 彦
附属焼酎・発酵学教育研究センター長	高 峯 和 則



## 水産学部

学部長	松岡達郎
副学部長	越塩俊介
副学部長	佐野雅昭
副学部長	佐久間美明
附属練習船かごしま丸船長	内山正樹
附属練習船南星丸船長	幅野明正
附属海洋資源環境教育研究センター長	小山次朗
事務長	有川博幸

## 共同獣医学部

学部長	望月雅美
副学部長	宮本篤
副学部長	三角一浩
附属動物病院長	川崎安亮
附属越境性動物疾病制御研究センター長	小原恭子

## 農学部・共同獣医学部等事務部

事務部長	稲葉成人
総務課長	鮎川秋徳
学務課長	西郷豊

# 大 学 院

## 人文社会科学研究科

研究科長	平井一臣
副研究科長	桑原季雄

## 教育学研究科

研究科長	土田理
------	-----

## 保健学研究科

研究科長	木佐貫 彰
副研究科長	米 和 徳

## 理工学研究科

研究科長	近藤英二
副研究科長	與倉昭治
副研究科長	渡邊 睦
副研究科長	武若耕司
副研究科長	木方十根
附属南西島弧地震火山観測所長	後藤和彦
附属地域コトづくりセンター長	武若耕司

## 理工学研究科等事務部

事務部長	山本高師
研究科・工学系総務課長	白坂義浩
研究科・工学系学務課長	坂口智子
理学系事務課長	野頭俊明

## 農学研究科

研究科長	岩井久
------	-----

## 水産学研究科

研究科長	松岡達郎
------	------

## 医歯学総合研究科

研究科長	馬場昌範
副研究科長	宮田篤郎
副研究科長	宮脇正一
附属難治ウイルス病態制御研究センター長	出雲周二

## 医歯学総合研究科等事務部

事務部長	神之門 悟
総務課長	小澤結花
学務課長	本 忠 夫

## 司法政策研究科

研究科長	米田健一
副研究科長	志田惣一

## 臨床心理学研究科

研究科長	中原睦美
副研究科長	稲谷ふみ枝

## 連合農学研究科

研究科長	杉元康志
副研究科長	大富 潤

## 学内共同教育研究施設等

附属図書館	
附属図書館長	野呂忠秀
桜ヶ丘分館長	小片 守
水産学部分館長	山本 淳
保健管理センター所長	伊地知 信二
教育センター長	飯干 明
副センター長	富原 一哉
稲盛アカデミー長	吉田 浩己
アドミッションセンター長	清原 貞夫
留学生センター長	畝田谷 桂子
総合研究博物館長	鈴木 英治
国際島嶼教育研究センター長	河合 溪
自然科学教育研究支援センター長	藏 脇 淳一
医用ミニプラ・先端医療開発研究センター長	山田 和彦
かごしまCOCセンター長	木村 郁夫
生涯学習教育研究センター長	上谷 順三郎
産学官連携推進センター長	福島 誠治
地域防災教育研究センター長	浅野 敏之
学術情報基盤センター長	森 邦彦
埋蔵文化財調査センター長	中村 直子

## 海外拠点

北米教育研究センター長	竹内勝徳
-------------	------

## 奄美群島拠点

奄美群島拠点長	住吉文夫
---------	------

## 司法政策教育研究センター

司法政策教育研究センター長	米田健一
---------------	------

■現員

(平成27年5月1日現在)

部 局 等 名	学 長		役 員		教 授		准教授		講 師		助 教		助 手		小 計		教 諭		事務・技術・その他						合 計	
																			事務		技術		その他			
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
事 務 局	1		7	1											9				133	60	13	1	2		218	
保 健 管 理 セ ン タ ー																								2	156	62
自然科学教育研究支援センター																						7			0	2
法 文 学 部																			12	5					7	0
教 育 学 部																			11	7	1	1			17	
附 属 幼 稚 園																									12	5
附 属 小 学 校																					1	3			4	
附 属 中 学 校																			30	7	1	2			1	1
附 属 特 別 支 援 学 校																			15	13	1	1			33	
医学部・歯学部附属病院							3		2	1					6				50	31	9	1	190	729	24	9
農 学 部															5	1									16	14
附 属 農 場																					2				2	0
附 属 演 習 林																						2			14	
共 同 獣 医 学 部																									13	1
附 属 動 物 病 院																						5			5	0
農学部・共同獣医学部等事務部																									0	0
水 産 学 部																						1			2	
附 属 練 習 船 か ご し ま 丸																									1	1
附 属 練 習 船 南 星 丸																									28	
附 属 海 洋 資 源 環 境 教 育 研 究 セ ン タ ー																			18	10					18	10
大学院理工学研究科(工学系)																									17	
大学院理工学研究科(理学系)																			6	6	3	2			9	8
附 属 南 西 島 弧 地 震 火 山 観 測 所																									22	
理 工 学 研 究 科 等 事 務 部																									21	1
医 歯 学 総 合 研 究 科																									12	
医歯学総合研究科等事務部																									12	0
法 文 教 育 学 域 法 文 学 系					41	4	28	9	1				2		85										5	
法 文 教 育 学 域 司 法 政 策 学 系					9		2								11										5	0
法 文 教 育 学 域 臨 床 心 理 学 系					3	2	3		1						9										26	
法 文 教 育 学 域 教 育 学 系					34	4	36	13	4	1					92										20	6
理 工 学 域 理 学 系					25		24	1	1	1	12	3			67										0	0
理 工 学 域 工 学 系					47		43				28	3			121										1	0
医 歯 学 域 医 学 系					58	8	24	7	19	4	47	32			199										33	15
医 歯 学 域 歯 学 系					17		13	2	2	1	40	14			89										18	
医歯学域医学部・歯学部附属病院					1		4		35	5	80	17			142										9	3
農 水 産 獣 医 学 域 農 学 系					33		32	3	1	5	1				75										6	3
農 水 産 獣 医 学 域 水 産 学 系					19		21	2	2	7	3				54										3	
農 水 産 獣 医 学 域 獣 医 学 系					15	1	12	2		3					33										3	3
学 内 共 同 教 育 研 究 学 域 学 内 共 同 教 育 研 究 学 系					13	4	17	3	1	1	3	2	1		45										11	
計	1		8		338		304		83		300		3		1,037				100						1,504	
	1	0	7	1	315	23	262	42	67	16	225	75	0	3	877	160			69	31	288	152	87	15	226	736
																									1,547	1,094

組  
織

## 法文学部



法文学部は、藩学造士館、旧制第七高等学校造士館の系譜を引く学部で、現在、法政策学科、経済情報学科、人文学科の3学科から構成される文系総合学部となっている。本学部では、社会や文化に関する確かな知識と幅広い教養を有し、現代社会の諸問題に適切に対処できる能力をもつ学生の育成を目指している。

法政策学科では、多方面に応用できる法的思考能力と政策立案能力を育成する現代型法学教育の展開、経済情報学科では、少人数教育、情報教育を基礎に3つの履修モデルによる問題解決型教育の推進、人文学科では、人間と社会の相互作用の認識や心のケア、多文化社会やメディア文化、地域の理解と文化の育成、国際交流など多方面の教育の充実を図っている。また、3つの学科の個性を生かしながら、キャリア教育やメディア教育など、今日的な課題に積極的に対応した教育を展開している。

### 学科・講座

#### 法政策学科

- 政策科学
- 市民法
- 法交渉

#### 経済情報学科

- 経済システム
- 経営情報
- 地域計画
- 国際協力

#### 人文学科

- 人間科学
- 地域環境
- 日本・アジア総合文化
- ヨーロッパ・アメリカ総合文化

## 教育学部



教育学部は、明治初期に源をもつ各師範学校等、教員養成機関としての長い歴史を通じて、鹿児島県はもとより、全国の教育界など広く社会に有為の人材を送り出してきた。現在は、主に小・中学校、高等学校の教員を育成する学校教育教員養成課程、特別支援学校等で活躍する人材を育成する特別支援教育教員養成課程、社会教育分野などの指導者養成に当たる生涯教育総合課程の3課程で構成されており、教育に関する深い理解と指導力、そして豊かな人間性の形成を目指している。

### 課程・講座(専修等)

#### 学校教育教員養成課程

- |        |      |       |
|--------|------|-------|
| ■ 国語   | ■ 社会 |       |
| ■ 数学   | ■ 理科 |       |
| ■ 音楽   | ■ 美術 |       |
| ■ 保健体育 | ■ 技術 | ■ 教育学 |
| ■ 家政   | ■ 英語 | ■ 心理学 |

#### 特別支援教育教員養成課程

- 障害児教育

#### 生涯教育総合課程

- 地域社会教育
- 国際理解教育
- 健康教育

### 附属教育研究施設等

- 幼稚園
- 小学校
- 中学校
- 特別支援学校
- 教育実践総合センター
- 寺山自然教育研究施設

## 理学部



「理学」は、自然現象の中に潜む真理を探究する学問であり、そこで明らかにされた自然法則は人類の英知や文化の中に蓄積され、科学技術の発展を支えてきた。こうして現代社会は豊かなものになったが、豊かさの裏では環境やエネルギーなどに関する新たな課題も生じた。このような問題を解決するためにも、真理の探究と共に、物事の原理を基礎から理解する「理学」のさらなる進展は不可欠である。鹿児島大学理学部は、南九州という自然に恵まれた地理的特色を生かしながら、基礎科学を中心とする自然科学の最新の教育・研究を進める。

〈育成する人材像〉

- \* 自然科学の専門知識と幅広い教養を併せもち、論理的科学的思考力を身につけた人
- \* 学問の高度化や多様化に柔軟に対応できる、創造力のある人
- \* 社会性、国際性、学際性が豊かで、先端科学の知識と問題解決能力を身につけた人
- \* 高い倫理観をもって人類の幸福と福祉に貢献できる人

### 学科

数理情報科学科

物理科学科

生命化学科

地球環境科学科

## 医学部



医学部は、明治2(1869)年にウィリアム・ウィリスを校長として設立された島津藩医学校を前身とし、昭和18(1943)年に医学科の母体となる県立鹿児島医学専門学校が開校された。その後幾多の変遷をたどり、昭和30(1955)年に鹿児島大学医学部に改称された。また、平成10(1998)年には保健学科が設置され、現在では医学科と保健学科の2学科で構成されている。この間、多くの人材を輩出し、日本各地で医学・医療の進歩と国民の健康と福祉のため多大な貢献をしている。本学部では、人間性豊かな、地域に貢献する、研究心旺盛な、国際的視野に立つ医学・医療を担う人を育成することを目指している。

### 学科・講座

#### 医学科

■ 看護学専攻  
総合基礎看護学  
臨床看護学  
母性・小児看護学  
地域看護・看護情報学

#### 保健学科

■ 理学療法学専攻  
基礎理学療法学  
臨床理学療法学

■ 作業療法学専攻  
基礎作業療法学  
臨床作業療法学



## 歯学部



歯学部は、沖縄を含む南九州地域における唯一の歯科医学教育・研究施設として、歯科医療の中心的役割を果たすべく、昭和52(1977)年10月に設置された。

本学部では、生命科学の原理を理解し、科学的探究心と解決能力を身につけるとともに、各種口腔・顎顔面領域の疾患の診断、予防、および治療に関わる知識と技能を修得することを、教育目標としている。また、県内離島の歯科巡回診療実習などを通して地域医療の重要性を理解させると共に、コミュニケーション能力を備えた国際的視野を養育することで、ローカルにもグローバルにも活躍しうる人材を育成している。同時に、良識ある人間形成に繋がる教育を心がけ、全人的歯科医療の実践者としての歯科医師及び歯科医学教育者・研究者の育成を目指している。

### 学科

歯 学 科

## 工学部



工学部の母体である鹿児島県立工業専門学校は、工業専門の理科系学徒の教育を目的として昭和20(1945)年4月に設置され、同30(1955)年に国立移管された。

本学部は、工学の面白さを学びたい、ものづくりに取組みたい、技術開発に挑戦したい等の夢をもつ一人一人の学生に、幅広い教養と高度な専門能力を授け、獲得した知識や技術等を統合的に活用することにより、実社会における課題解決のために応用できる知恵として身につけることができる教育に心がけている。今日まで連綿と国際的な通用性を踏まえた教育改革を進め、グローバルに活躍できる工学系人材として必要な基礎的能力を育む教育を実践している。

また、本学部は、我が国のものづくりの主要な分野を網羅する7学科編成で、社会の変革を担う人材育成、知的基盤の形成やイノベーションの創出などに寄与する「知の拠点」としての展開に取り組んでいる。

### 学科

機 械 工 学 科  
電 気 電 子 工 学 科  
建 築 学 科

環 境 化 学 プ ロ セ ス 工 学 科  
海 洋 土 木 工 学 科  
情 報 生 体 シ ス テ ム 工 学 科

化 学 生 命 工 学 科

## 農学部



農学部は、明治41(1908)年開設の鹿児島高等農林学校に始まり、昭和24(1949)年鹿児島大学農学部となった。日本有数の食料生産基地に位置する本学部は、生物生産学科(5講座)、生物資源化学科(3講座+焼酎学コース)、生物環境学科(4講座)および獣医学科(平成23年度入学生まで所属)の4学科ならびに特別コース(農・水産分野からなる国際食料資源学特別コース)から構成され、附属施設として、附属農場、附属演習林および附属焼酎・発酵学教育研究センターを有している。温帯から亜熱帯へ南北数百kmに及ぶ多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を生かして、食、農、地域資源、環境、生命に関する教育を行っている。また、フィールドでの教育、地域産業と連動したキャリア教育を重視し、豊かな人間性、現場での実践力、優れた応用力、広い視野と国際性を備え、地域社会と発展途上国に貢献できる技術者・指導者を養成している。

### 学科・講座 等

#### 生物生産学科

- 作物生産学
- 園芸生産学
- 病虫害制御学
- 家畜生産学
- 農業経営経済学

#### 生物資源化学科

- 生命機能化学
- 食品機能化学
- 食糧生産化学
- 焼酎学

#### 生物環境学科

- 森林管理学
- 地域資源環境学
- 環境システム学
- 生産環境工学

#### 獣医学科(平成23年度入学生まで)

- 基礎獣医学
- 病態予防獣医学
- 臨床獣医学

#### 国際食料資源学特別コース

### 附属教育研究施設

- 附属農場
- 附属演習林
- 附属焼酎・発酵学教育研究センター

## 水産学部



水産学部は、鹿児島水産専門学校を母体として昭和24(1949)年に誕生した。「海を怖れず、海を愛し、海を拓け」をモットーに、鹿児島から東南アジア・南太平洋を含む海洋や陸水域をフィールドとし、水産資源の持続的生産とその合理的利用、水圏環境の保全、生活文化の創出の分野で、地域社会と国際社会に貢献する人材を育成することを教育の目的としている。食料生産の確保と海洋環境の保全といった時代の要請に応えるため、高度で先端的な教育を受けた技術者を養成し、水産海洋科学の分野から、鹿児島は勿論のこと、熱帯・亜熱帯水域の発展途上国で活躍できる、国際的視野を持った卒業生を送り出している。平成15年には大学教育の分野では初めて、国際的な品質基準であるISO9001認証を取得した。また、平成27年には、カリキュラム改革に伴い、教育分野を再編成した。また、農学部と連携した国際食料資源学特別コースを設置、グローバル人材の育成を強化している。

### 学科等・教育分野

#### 水産学科

- 水圏科学分野
- 水産資源科学分野
- 食品生命科学分野
- 水産経済学分野
- 水圏環境保全学分野

#### 国際食料資源学特別コース

### 附属教育研究施設

- 附属練習船かごしま丸:1,284トン(国際トン数)
- 附属練習船南星丸:280トン(国際トン数)
- 附属海洋資源環境教育研究センター
- 東町ステーション
- 錦江湾ステーション
- 食品・資源利用学実習工場
- 回流水槽実験室



## 共同獣医学部



共同獣医学部は、昭和14年に鹿児島高等農林学校に創立された獣医学科を前身とし、農学部獣医学科を経て、平成24年に鹿児島大学9番目の学部として設置された。本学部では欧米水準を目指した獣医学教育を山口大学との共同教育課程により行う。豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、行動規範に従って職務を遂行し、国際社会に貢献できる専門性の高い獣医師の養成を目指している。教育病院である附属動物病院には軽種馬診療センターが併設され、伴侶動物だけでなく、産業動物の中核動物診療施設としても地域に貢献する。また、我が国屈指の畜産地帯を背景に、高病原性鳥インフルエンザや狂犬病などの越境性動物疾病の研究を行う附属越境性動物疾病制御研究センターも設置されている。

### 学科・講座

#### 獣医学科

■基礎獣医学

■病態予防獣医学

■臨床獣医学

### 附属教育研究施設

■附属動物病院

■軽種馬診療センター

■附属越境性動物疾病制御研究センター

## 人文社会科学研究科

人文社会科学研究科は、平成10年、既に開設されていた法学研究科〔昭和54(1979)年設置〕、人文科学研究科〔昭和61(1986)年設置〕を発展的に解消して設置された。現在は博士前期課程4専攻(法学専攻、経済社会システム専攻、人間環境文化論専攻、国際総合文化論専攻)および博士後期課程1専攻(地域政策科学専攻)からなっている。

本研究科では、各専門分野における高度な研究・教育を行うとともに、プロジェクト研究を中心とする地域に密着した実践的な研究に取り組んでいる。また、昼夜開講制による社会人学生の積極的な受け入れや、奄美サテライト教室〔奄美大島、徳之島分室〕を通じた離島地域での授業開講、外国人留学生特別選抜指定校推薦入試(秋入学)による留学生の受け入れなど、社会のニーズに積極的に応えている。さらに、博士前期課程では中学校および高等学校教諭専修免許の資格を取得することができる。

### 課程・専攻

#### 博士前期課程

法学 ■ 経済社会システム ■ 人間環境文化論 ■ 国際総合文化論

#### 博士後期課程

■ 地域政策科学

## 教育学研究科

教育学研究科は、平成21年4月に「学校教育専攻」と「教科教育専攻」の2専攻から「教育実践総合専攻」の1専攻に改組された。すなわち、教科や学問分野に細分化されたコース・専修を融合し、より広範な単位である学修コースを設置することによって、現実の課題に即した総合的な講義や研究方法の指導が可能となり、視野の広い高度の専門的知識・技能を背景に、広く教育の分野において優れた指導力を有する高度専門職業人の養成を図ることとした。

さらに、小学校以外の教員免許状を取得している人においては「小学校教員免許取得プログラム(長期在学履修)」も選択できるようになった。なお、現職教員をはじめとする社会人が夜間でも受講可能で修士の学位を取得することのできる昼夜開講制を実施している。

本研究科「教育実践総合専攻」は、「学校臨床系」、「人間発達系」、「生活・健康系」、「言語・社会系」、「理数・環境系」、「芸術・スポーツ系」の6つの学修コースから構成され、各教科に関する専門的知識に加えて学際的知識も修め、教育・研究能力を高めることをめざしている。

### 課程・専攻

#### 修士課程

■ 教育実践総合専攻

## 保健学研究科

保健学研究科は、看護学・理学療法学・作業療法学に関する高度な専門知識・技術をもつ専門職者ならびに優れた教育や研究のできる指導・管理者および離島や国際的な保健・医療に貢献できる人材を養成し、併せて教育研究の成果および情報を社会に広く提供し貢献することを理念として、平成15年4月に博士前期課程、平成17年4月に博士後期課程が設置された。

本研究科では、(1)高度な専門知識・技術を身につけた専門職者、指導・管理者の育成、(2)医療専門職としての質の高い教育・研究者の育成、(3)学生の能力開発に効果的な教育や独自の研究のできる人材の育成、(4)地域の保健・医療において指導・管理者として実践できる人材の育成、(5)離島・へき地の保健・医療の指導者として実践できる人材の育成、(6)国際保健医療活動を推進できる人材の育成、を教育目標としている。

なお、平成24年度には放射線看護専門コース(定員2名)を、平成26年度には助産学コース(定員7名)を博士前期課程(看護学領域)に設置した。

### 課程・領域・分野

#### 博士前期課程

##### 看護学領域

■ 基礎看護・地域看護学分野  
■ 臨床看護学分野

##### 理学療法・作業療法学領域

■ 理学療法学分野  
■ 作業療法学分野

#### 博士後期課程

##### ■ 保健看護学分野

■ 神経運動障害基礎学分野  
■ 臨床精神神経障害学分野

## 理工学研究科

理工学研究科では、「真理を愛し、高い倫理観を備え、自ら困難に挑戦する人格を育成し、時代の要請に対応できる教育研究の体系と枠組みを創成することによって、地域ならびに国際社会の進展に寄与する」という教育研究理念のもとに、理工学の基礎から応用にわたる学術の真理と理論を教授研究し、その深奥を極めて文化の進展に寄与する人材育成を目的とする。

そのために、今日の諸課題に対応できる倫理的判断力および人間生活を取り巻く自然についての総合的知識を有し、自然科学に関する学問の高度化と多様化に幅広く柔軟に対応可能な次世代を担う技術者、研究者、高度専門職業人を養成しつつ、地域社会との連携と世界に開かれた研究科であるように努めている。

博士前期課程に10専攻、博士後期課程に3専攻を設置し、自然科学の深化および理学と工学の融合により科学創成をリードする教育研究活動を展開している。

### 課程・専攻・コースワーク

博士前期課程					博士後期課程
<b>機械工学専攻</b> 生産工学 エネルギー工学 機械システム工学	<b>電気電子工学専攻</b> 電子物性デバイス工学 電気エネルギー工学 通信システム工学	<b>建築学専攻</b> 建築設計 環境設計 構造設計	<b>化学生命・化学工学専攻</b> 化学工学 応用化学 生命工学	<b>海洋土木工学専攻</b> 環境システム工学 建設システム工学	<b>博士後期課程</b> 物質生産科学専攻 システム情報科学専攻 生命環境科学専攻
<b>情報システム工学専攻</b> 情報システム工学 認知システム工学	<b>数理情報科学専攻</b> 数理構造 現象数理 情報数理	<b>物理・宇宙専攻</b> 物理 宇宙	<b>生命化学専攻</b> 分子機能化学 有機生化学 生命機能	<b>地球環境科学専攻</b> 地球科学 環境解析 多様性生物学	<b>附属教育研究施設</b> 南西島弧地震火山観測所 地域コトづくセンター

## 農学研究科

農学研究科は、昭和41(1966)年に開設され、現在、生物生産学専攻、生物資源化学専攻および生物環境学専攻の3専攻が設置されている。わが国有数の食料生産基地を抱え、かつ温帯から亜熱帯に分布する多様な生物資源と自然環境などを生かし、自然環境に調和した食料生産技術の開発、生物機能の解明と応用、自然生態系の保全と修復、農山村社会の活性化などに関する研究に取り組んでいる。また、バイオテクノロジーや先端技術を導入し、農林食産業分野における新技術の開発を中心にした教育研究を行っている。農林・食産業を取り巻く状況を把握し、広い視野と倫理観を持って科学技術を応用し、豊かな専門性と実践力・創造力、地域が抱える特色や課題に積極的に取り組む高度専門技術者の養成、さらに博士後期課程へ進学する発展的研究者を養成している。

### 課程・専攻

修士課程		
生物生産学専攻	生物資源化学専攻	生物環境学専攻

## 水産学研究科

水産学研究科では、水圏科学、水産資源科学、食品生命科学、水産経済学、水圏環境保全学の分野で高度技術者・研究者を養成するための研究と教育が行われており、修了者は水産企業や食品企業、研究機関などで専門的な仕事についている。中国、東南アジアや中東、アフリカ、中南米からの留学生も多く、留学生の多い講義の中では英語が用いられることもある。

フィリピン大学ピサヤス校との大学院生レベルでの交流事業も活発に行われており、グローバルな視野を有する国際的に通用性の高い人材の育成を図っている。この修士課程を修了した大学院生の中には、引き続き大学院連合農学研究科(博士課程)に進学する者もいる。平成27年度からはアジアの4大学研究科と共同運営する「熱帯水産学特別コース」がスタートし、グローバル人材の育成強化に努めている。

### 課程・専攻・講座

修士課程
水産学専攻

## 医歯学総合研究科

医歯学総合研究科は、疾病の予防と治療を使命とする医学と歯学を有機的に結合して、生命医療科学領域における先端的研究と高度の教育を遂行し、多様な社会的要請に迅速に対応することを目指しており、平成15年4月に大学院博士課程(健康科学専攻および先進治療科学専攻)、平成16年4月には修士課程(医科学専攻)が設置された。本研究科は、(1)生命科学領域の教育研究のリーダーの育成、(2)地域の特性を生かした生命医療科学領域の教育研究拠点の創出、(3)専門性を備えながら医の倫理観を備えた生命医療人の育成を目標としている。

本研究科には、現在、11講座、3プロジェクト講座、3連携講座のほか、HTLV-1をはじめとしたウイルス性疾患の病態制御をめざした難治ウイルス病態制御研究センター(平成16年4月)、鹿児島県に多い離島やへき地の医療に携わる人材育成を目指した離島へき地医療人育成センター(平成19年4月)を含む7研究センター、5寄附講座が設置されている。



桜ヶ丘キャンパス全景

### 課程・専攻・講座

#### 博士課程

- 健康科学専攻
- 人間環境学
- 社会・行動医学
- 感染防御学
- 発生発達成育学
- 国際島嶼医療学(プロジェクト講座)
- 宇宙環境医学(連携講座)
- 長寿口腔科学(連携講座)

- 先進治療科学専攻
- 神経病学
- 感覚器病学
- 運動機能修復学
- 循環器・呼吸器病学
- 生体機能制御学
- 顎顔面機能再建学
- 腫瘍学
- 再生・移植医療学(プロジェクト講座)
- 臨床腫瘍学(プロジェクト講座)
- 先端医療学(連携講座)

#### 修士課程

- 医科学専攻

### 附属教育研究施設

- 難治ウイルス病態制御研究センター

### センター

- 離島へき地医療人育成センター
- 先進的がん診断治療研究センター
- 医歯学教育開発センター
- 口腔先端科学教育研究センター
- 国際統合生命科学センター
- 革新的治療開発研究センター

### 寄附講座

- 医療関節材料開発講座(京セラメディカル)
- システム血栓制御学講座
- 近未来運動器医療創生学講座((医)くすのき会)
- 分子応用外科学講座
- HGF組織修復・再生医療学講座

## 司法政策研究科

司法政策研究科(法科大学院)は、平成16年4月設置の、3年を標準年限とする専門職大学院である。司法過疎と呼ばれる南九州に位置する法科大学院として、これからの司法を構想、実現していく活動的な法曹を養成することを目的とし、修了者には「法務博士(専門職)」の学位と司法試験の受験資格が授与される。専任教員14名(研究者教員10名、実務家教員4名)のほか、非常勤講師30人の教員のもとで徹底した少人数教育を行い、法律実務家を目指す問題意識や関心を育てつつ、21世紀の我が国社会を支える法曹としての能力を涵養している。

なお、当研究科は、平成27年度より学生募集を停止し、法科大学院の課程で展開した高度な教育ノウハウをはじめ、遠隔講義システムや各種データベースなどの教育研究環境などを、新たに設けられた司法政策教育研究センターで継承することとしており、今後も鹿児島大学として、南九州の法律系人材養成とその充実の拠点としての役割を果たすこととなっている。



### 課程・専攻

- 専門職学位課程(法務博士)(平成26年度入学生まで)
- 法曹実務



## 臨床心理学研究科

臨床心理学研究科は、高度職業専門人である臨床心理士養成を目的とする国立大学で初めての独立研究科として、平成19年4月に設置認可された専門職大学院である。本研究科の教育理念は、(1)個別支援、集団支援、地域支援、危機介入支援のできる人材、(2)地域文化を視野に入れた心理臨床ができる人材を育成することにある。この理念達成のために、実習を充実・強化した教育課程を設定し、個人・少人数による指導を行っている。第1期～第VII期生までの就職率は100%で、教育・福祉・医療・司法・矯正の各領域で臨床心理士として活躍している。

また、本研究科は、文部科学省より平成20年～21年度には「臨床心理実習における客観的評価方法の構築」、平成22年～24年度には、「地域支援プロジェクト」の事業支援を受けた。現在、「地域支援プロジェクト」は臨床実務実践、地域貢献を主眼においた教育実践研究の柱となっている。



### 課程・専攻

専門職学位課程(臨床心理修士)

臨床心理学

## 連合農学研究科

連合農学研究科は佐賀大学、琉球大学、鹿児島大学が連合し、それぞれの地域特性を生かした農学・水産学が学べる博士課程の大学院である。最先端のバイオテクノロジー技術を駆使して安全・安心な食料生産と生物資源の環境保全を目指す、農林水産学分野における高度な専門教育と研究を行っている。3つの専攻の中には農学・林学・農業工学・水産学を融合した農水圏資源環境科学専攻や、民間企業(タカラバイオ(株))との連携大学院を持つ先端応用生命科学連合講座など、特徴ある分野が設置されている。修了者には農学・水産学・学術のいずれかの博士号が付与される。学位修得者は、日本人以外に多くの留学生が含まれ、国内外の幅広い分野で、研究者、教育者、高度技術者として活躍している。

(注)連合農学研究科は、3大学(佐賀、琉球、鹿児島)で構成



### 課程・専攻・連合講座

#### 博士課程

#### 生物生産科学専攻

熱帯資源・植物生産科学  
動物資源生産科学  
地域・国際資源経済学

#### 応用生命科学専攻

生物機能化学  
食品機能科学  
先端応用生命科学

#### 農水圏資源環境科学専攻

生物環境保全科学  
地域資源環境工学  
水産資源環境科学

## 山口大学連合獣医学研究科

山口大学連合獣医学研究科は、鹿児島大学、鳥取大学、山口大学が連合して設置している修業年限4年の博士課程で、基幹校は山口大学である。

本研究科は、1専攻(獣医学専攻)で、基礎獣医学、病態予防獣医学および臨床獣医学の3連合講座から成る。学生の入学定員は12人で創造性豊かで高度の専門知識と能力を有する人材を養成する。学生1人につき、主指導教員1人、副指導教員2人が指導に当たる一方、他大学の教員ならびに学生相互の討論を通して、相互の親睦と連携感の形成に役立っている。毎年、海外からの留学生も多く受入れている。

独立行政法人農業生物資源研究所、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所、国立感染症研究所、日本中央競馬会との連携協力により、教育研究交流活動の活性化が図られている。



### 課程・専攻・連合講座

#### 博士課程

#### 獣医学専攻

基礎獣医学 病態・予防獣医学 臨床獣医学

(注)山口大学連合獣医学研究科は3大学(鹿児島、鳥取、山口)で構成

## 医学部・歯学部附属病院

医学部・歯学部附属病院は、平成15年10月に医学附属病院と歯学部附属病院を統合し、診療科を疾患機能別に17センターとし、診療体制を再編成した。また、病院再開発計画として、平成19年から約16年間の予定で建物の増築・改修を行い、病院機能や建物を統合・集中化し、病院運営の合理化・省力化、患者サービスの向上、先進医療の積極的導入、地域医療の充実を目指している。

平成18年には「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、鹿児島県におけるがん医療に中心的な役割を果たしている。

また、平成14年に、医療提供の質が多面的に評価され、九州の国立大学病院として初めて日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定を取得し、さらに、平成20年には病院機能評価Ver.5の認定取得、平成24年度にはVer.6が認定され、また、平成26年4月には、県より救命救急センターとしての指定を受け、平成26年1月にC棟に整備した屋上ヘリポートを有効活用し、救急患者の受入態勢の充実を目指している。

教育面では、平成25年度に「総合臨床研修センター」が設置され、センターが中心となり、協力病院と共同で「卒後臨床研修プログラム」を実施し、優れた医師・歯科医師の人材育成に努めている。

診療センター	部門科	中央診療施設等
循環器センター	心臓血管内科 心臓血管外科	■検査部 ■手術部 ■放射線部 ■救命救急センター(救急科) ■集中治療部 ■輸血・細胞治療部 ■周産母子センター ■全身管理歯科治療部 ■血液浄化療法部 ■病理部(病理診断科) ■光学医療診療部 ■歯科技工室 ■リハビリテーション部 ■中央採液室 ■臨床心理室 ■歯科総合診療部 ■遺伝カウンセリング室 ■外来化学療法室 ■腫瘍センター ■肝疾患相談センター ■漢方診療センター ■てんかんセンター ■HIV対策室 ■緩和ケアセンター ■歯科口腔ケアセンター ■超音波センター ■医療器材管理部 ■医療情報部 ■総合臨床研修センター ■医療環境安全部 ■地域医療連携センター ■医療相談室 ■地域医療支援センター ■女性医師等支援センター ■栄養管理室 ■臨床研究管理センター
消化器センター	消化器内科 消化器外科	■薬剤部
脳・神経センター	神経内科 脳神経外科	■看護部
呼吸器・ストレスケアセンター	呼吸器内科 呼吸器外科 心身医療科	■臨床技術部
腎臓・泌尿器センター	腎臓内科 泌尿器科	■事務部
血液・内分泌・糖尿病センター	血液・膠原病内科 糖尿病・内分泌内科 乳腺・甲状腺外科	
メンタルケアセンター	神経科精神科	
小児診療センター	小児科 小児外科	
女性診療センター	産科、婦人科	
整形・運動機能センター	整形外科・リウマチ外科	
感覚器センター	皮膚科 眼科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
放射線診療センター	放射線科 顎顔面放射線科	
麻酔全身管理センター	麻酔科 歯科麻酔科	
リハビリテーションセンター	リハビリテーション科	
発達系歯科センター	口腔保健科 矯正歯科 小児歯科	
成人系歯科センター	保存科 歯周病科 冠・ブリッジ科 義歯補綴科	
口腔顎顔面センター	口腔外科 口腔顎顔面外科	



医学部・歯学部附属病院患者数

(平成26年度)

医科部門			歯科部門			
部門科名	患者数		部門科名	患者数		
	入院	外来		入院	外来	
内科	心臓血管内科	9,793	12,038	口腔保健科	-	5,862
	消化器内科	11,417	11,156	矯正歯科	-	6,372
	神経内科	8,424	7,838	小児歯科	0	8,538
	呼吸器内科	8,272	6,108	保存科	-	11,372
	腎臓内科	2,032	2,390	歯周病科	-	11,878
	血液・膠原病内科	8,662	9,894	冠・ブリッジ科	-	13,262
	糖尿病・内分泌内科	3,196	9,770	義歯補綴科	-	11,037
外科	心臓血管外科	10,566	2,443	口腔外科	3,978	8,378
	消化器外科	21,892	6,645	口腔顎顔面外科	6,125	11,185
	呼吸器外科	5,964	3,298	顎顔面放射線科	-	3,924
	乳腺・甲状腺外科	2,262	4,559	歯科麻酔科	-	549
脳神経外科	10,315	7,196	全身管理歯科治療部	-	1,627	
心身医療科	1,008	3,045	歯科総合診療部	-	2,964	
泌尿器科	8,900	9,198	<b>計</b>	<b>10,103</b>	<b>96,948</b>	
神経科精神科	11,978	12,510				
小児科	12,511	8,350				
小児外科	3,654	2,922				
産科	7,711	2,777				
婦人科	8,401	11,250				
整形外科・リウマチ外科	16,196	10,191				
皮膚科	7,086	11,590				
眼科	10,840	24,331				
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	10,316	9,088				
放射線科	1,600	8,590				
麻酔科	371	4,705				
救急科	972	1,260				
リハビリテーション科	14,576	4,660				
放射線治療室	/					
集中治療室						
特別室						
感染室						
共通						
休床(病院再開発のため)						
<b>計</b>	<b>218,915</b>	<b>207,802</b>				

※文部科学省方式で記載

病床数

	床
一般病床	662
精神病床	40
霧島リハビリテーションセンター	50
休床(病院再開発のため)	13
<b>医学部・歯学部附属病院合計</b>	<b>765</b>

学部・大学院等



▲医科診療棟



▲歯科診療棟



▲霧島リハビリテーションセンター

## 附属図書館

附属図書館は、中央図書館(郡元地区)、桜ヶ丘分館(桜ヶ丘地区)および水産学部分館(下荒田地区)の3館で組織されており、教育・研究に必要な学術資料を広い分野にわたり収集し、利用に供している。3館とも、本学の学生・教職員はもとより、地域住民に対しても開放されている。

近年は、ラーニングcommonsとしての機能強化を図るとともに、文献情報データベース、電子ジャーナル等の電子情報資料の整備充実に努めるほか、本学で作成された電子的学術研究成果を無償で国内外に発信する鹿児島大学リポジトリを運用している。

なお、島津久光および玉里島津家の旧蔵書である「玉里文庫」等の貴重書や古書籍等のコレクションも所蔵し、毎年その一部を公開している。

### 【中央図書館】

#### 開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

#### 休館日

- 国民の祝日
- 年末年始等(12月27日～1月3日)

#### 施設

鉄筋地上5階地下2階建 (平成8年12月竣工)	
延床面積	12,697m <sup>2</sup>
閲覧スペース	4,459m <sup>2</sup>
サービススペース	2,044m <sup>2</sup>
収蔵スペース	2,359m <sup>2</sup>
歴史資料展示室	140m <sup>2</sup>
事務室等	775m <sup>2</sup>
その他	2,920m <sup>2</sup>
総座席数	910席
収容可能冊数	972,000冊



### 【桜ヶ丘分館】

#### 開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

(偶数月の第1土曜日は14:00～18:00)

#### 休館日

- 国民の祝日
- 年末年始等(12月27日～1月3日)

#### 施設

鉄筋3階建 (昭和52年4月竣工、昭和56年5月増築)	
延床面積	1,980m <sup>2</sup>
閲覧スペース	1,229m <sup>2</sup>
サービススペース	208m <sup>2</sup>
収蔵スペース	189m <sup>2</sup>
事務室等	211m <sup>2</sup>
その他	143m <sup>2</sup>
総座席数	158席
収容可能冊数	192,000冊



### 【水産学部分館】

#### 開館時間

月～金曜日	土曜日
8:30～20:00	10:00～17:00

#### 休館日

- 日曜日、国民の祝日
- 年末年始等(12月27日～1月3日)

#### 施設

鉄筋2階建 (昭和45年2月竣工・平成26年3月改修)	
延床面積	795m <sup>2</sup>
閲覧スペース	176m <sup>2</sup>
サービススペース	137m <sup>2</sup>
収蔵スペース	280m <sup>2</sup>
事務室等	34m <sup>2</sup>
その他	168m <sup>2</sup>
総座席数	123席
収容可能冊数	63,500冊



【平成26年度利用状況】

区 分	開館日数	総 入 館 者 数				
		平 日			土・日 及び祝日	合 計
		17:15まで	17:15以降	計		
中央図書館	303	226,897	84,656	311,553	41,579	353,132
桜ヶ丘分館	339	55,098	26,401	81,499	13,032	94,531
水産学部分館	228	20,168	3,769	23,937	1,637	25,574
合 計		302,163	114,826	416,989	56,248	473,237

【蔵 書】

図書(冊)

(平成27年4月1日現在)

区 分	総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	技 術	産 業	芸 術	言 語	文 学	合 計	
和漢書	中央図書館	66,713	42,300	79,049	206,043	109,075	71,183	52,371	30,293	28,433	70,897	756,357
	桜ヶ丘分館	884	1,854	713	5,128	94,126	1,132	360	645	1,666	1,466	107,974
	水産学部分館	1,800	425	1,386	9,536	13,343	6,911	13,360	844	1,196	708	49,509
	小 計	69,397	44,579	81,148	220,707	216,544	79,226	66,091	31,782	31,295	73,071	913,840
洋書	中央図書館	15,020	18,123	17,031	53,117	84,772	19,313	19,844	5,013	13,627	32,750	278,610
	桜ヶ丘分館	739	368	117	678	78,664	93	75	83	407	427	81,651
	水産学部分館	402	102	246	697	5,709	2,245	4,156	235	279	67	14,138
	小 計	16,161	18,593	17,394	54,492	169,145	21,651	24,075	5,331	14,313	33,244	374,399
合 計	85,558	63,172	98,542	275,199	385,689	100,877	90,166	37,113	45,608	106,315	1,288,239	

学部・大学院等

雑誌(種類数)

区 分	和雑誌	洋雑誌	合 計
中央図書館	18,593	8,330	26,923
桜ヶ丘分館	3,483	2,276	5,759
水産学部分館	2,564	1,176	3,740
合 計	24,640	11,782	36,422



▲玉里文庫所蔵資料

【貴重書・古書籍等コレクション】

文庫名	内 容 等					
玉里文庫	島津久光及び玉里島津家の旧蔵書 久光の直筆本、島津家編輯本、和漢書の写本類、薩摩藩関係史誌、幕末洋学関係翻訳書の写本等 18,730冊					
岩元文庫	旧制第一高等学校教授であった岩元禎氏の旧蔵書 漢籍と文学・哲学関係の洋書 漢籍4,515冊、洋書826冊					
松本文庫	旧制第八高等学校漢文学教授であった松本亦一氏の旧蔵書 漢籍と和書、医書を多く含む 2,186冊					
小北文庫	旧制鹿児島高等農林学校長小出満二氏が渡豪中に実業家北村寅之助氏の助力を得て収集し、後に同校図書館に寄贈したオーストラリア、太平洋諸島関係洋書 686冊					
小野文庫	元法政大学教授小野武夫博士の旧蔵書 農業経済、農業史、地方史を中心とするコレクション 4,127冊					
鹿児島県地券台帳	明治15年鹿児島県における地券発行原簿のコレクション 出水、川辺、揖宿、肝属、大隅、熊本、馱謨、臼杵の各郡が比較的まとまっている。附属資料として共有地台帳、地価修正一筆限帳等が含まれる 2,944冊					
諸家文書	市来家文書	105点	川田家文書	116点	木脇家文書	18点
	山田家文書	30点	寺尾家文書	387点	伊集院家文書	17点
	有馬家文書	61点	志々目家文書	37点	長野家文書	141点
	斑目家文書	17点	伊勢家文書	695点	新納家文書	122点
	肝付家文書	65冊	八田家文書	2巻(13点)		



## 教育学部附属学校

### 附属幼稚園

明治12(1879)年4月創立の附属幼稚園は、全国で2番目に古い歴史をもつ幼稚園である。今年度は、3歳児20人、4歳児35人、5歳児35人、計3学級90人が在籍している。研究主題に「協同性を育む保育の在り方～遊びにおける協同性の育ち～」を掲げて、本県の幼稚園教育の向上の役割を果たしている。また、学部と連携し研究を深めるとともに、親子が共に育つ場としての幼稚園をめざしている。



### 附属小学校

附属小学校は創立138周年を迎え、児童数895名(学級数27)で国立大学法人の附属小学校の中でも大規模を誇る学校である。小学校教育に関する理論的・実践的な研究の推進、教育実習生の指導の充実、研究や実践の公開による本県の小学校教育向上への貢献という3つの使命を持ち、複式教育や外国語教育における先進的な研究、実践でも高い評価を得ている。平成23年度から二学期制を導入しており、平成24年度の入学児童からは、1学級35名の定員としている。



### 附属中学校

附属中学校は、創立64年目を迎え、595名(学級数15)の生徒が在籍している。平成21年度には校舎改修工事、平成23年度にはグラウンド改修工事が完了し施設・設備も一新された。校舎に沿うように並ぶ七本の銀杏の木は、その1本1本に校訓である「真理・理想・自律・誠実・友愛・剛健・雄飛」の名をもつシンボルツリーでもある。本校は、「学部と一体となり中学校教育に関する理論的・実践的研究を行う。」「学部の計画に従い、学生の教育実習の場として、その指導に当たる。」「研究会並びに共同研究、教育交流を行い、現職教育の振興に寄与する。」という三つの使命を果たすべく日々前進する学校である。



### 附属特別支援学校

附属特別支援学校は、知的障害を主な障害とする小学部・中学部・高等部の児童生徒61人が在籍している。特別支援教育の理念の下、「明るく、仲よく、がんばる児童生徒」の育成のため、大学をはじめとする関係機関との連携を図りながら、「一人一人の子供の成長と自立を支え、共に向上し続ける学校」、「附属学校として質の高い研究と教育実習を追求し続ける学校」、「保護者や教育関係者、地域のニーズに丁寧に応え続ける学校」を目指している。



## 保健管理センター

保健管理センターは、学生および教職員の心身の健康の保持ならびにその増進を図ることを目的としている。

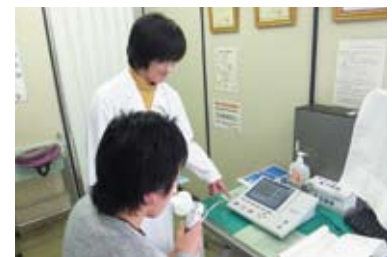
センターでは、専任の医師4名、保健師4名のほか、学医として学内の各科の専門医（内科、精神神経科、整形外科、眼科、耳鼻科、皮膚科、歯科）による健康相談業務を行い、さらにカウンセラーとして法文学部と教育学部の心理学の教員および非常勤の臨床心理士が心理相談にあたっており、ソーシャルワーカーによる学生支援も年々充実している。

また、禁煙サポートプログラムの開発、定期健康診断の予約システムの確立や診断結果のデータのデジタル化およびその結果解析など、調査研究も活発に行っている。

平成25年8月より、桜ヶ丘分室への保健師1名の配置を開始した。

### 【業務内容】

- 定期健康診断ならびに臨時健康診断と事後指導
- 心理相談ならびに学生支援・職員支援
- 一般診療、急性疾患に対する短期的投薬、他医療施設への紹介・受診指導
- 健康診断証明書発行
- 健康教育活動（学生・教職員への健康啓発講演会開催など）
- 環境衛生および感染症予防に関する指導
- 禁煙サポート
- 心肺蘇生法講習会



学部・大学院等

## 稲盛アカデミー

工学部の卒業生である稲盛和夫氏（京セラ株式会社名誉会長）および京セラ株式会社からの寄附により、平成17年に、全学共同教育研究施設『稲盛経営技術アカデミー』として設置し、平成20年4月に、『稲盛アカデミー』へ改組した。

稲盛アカデミーは、「世のため、人のために尽くす高い倫理観と進取の精神を持った『21世紀型市民』の輩出を目標に掲げ、地域社会から望まれるリーダーを育成する」を基本理念とした全学共通教育体験型授業科目等を提供している。様々な体験学習の中で学生が自らの理念やビジョンを模索し、真のリーダーのあるべき姿を探求しつつ、実行力と責任感を体得させることで、人間力の総合的育成をめざしている。



### 開講科目

基本理念として、「稲盛アカデミー」における開講科目は、全て、稲盛和夫氏の「豊かな人間力をもった次世代を担う若者」を育てたいという思いを、全学および共通教育の教育・学習目標に整合させて、開講されている。

体験学習による「人間力」「進取の精神」の育成と、「地域」や「国際社会」への貢献をキーワードとする本アカデミーの特色を活かした科目構成となっている。

### 教育目標

進取の精神を有する人材の育成を目指し、

1. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度を養う。
2. 地域社会の活性化に貢献できる行動力を養う。
3. グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育む。

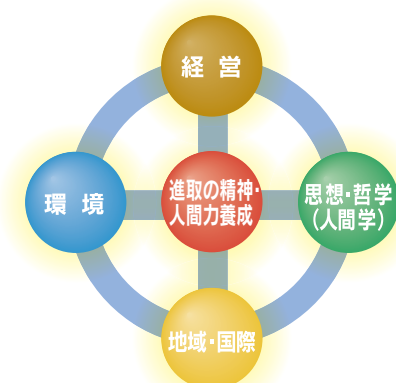
### 〈主な共通教育開講科目〉

- 稲盛和夫のリーダー論
- 稲盛和夫の経営哲学
- 働き方－稲盛和夫の労働観－
- 進取の精神体験学習in鹿児島
- 進取の精神海外研修inベトナム
- 稲盛和夫のベンチャー企業論
- 人材育成論－稲盛和夫の人材論－
- 生き方－稲盛和夫の人生観－
- 進取の精神（世界平和と人類福祉）

### 〈「履修証明制度」に基づく社会人向け人材育成プログラム〉

- 稲盛経営哲学プログラム（土曜日・6時間・20回）

〈教育目標の構成〉





## 教育センター（共通教育）

教育センターは、平成15年10月に設置され、その任務は「鹿児島大学の教育の充実・発展」と「共通教育の実施」である。

共通教育は、旧制第七高等学校時代以来、連綿と引き継がれてきた学士課程教育で、幅広い知識・教養・技能等を有するとともに、進取の精神、自主自律の精神に富み、深い歴史感覚、鋭い現実感覚、高い公共意識に裏付けられた判断力と構想力を有する個性豊かな人材の育成を目指しており、どの学部 of 学生にも必要な大学教育の大きな柱の一つとなっている。

教育センターは、全学共通教育（基礎教育を含む）と外国語教育の企画・運営、学士課程教育の充実・推進と全学的ファカルティ・ディベロップメント（FD）の企画・促進、さらには大学院共通科目・特別コースの企画・推進を目的としている。

### 教育センターの組織構成

#### 【共通教育企画実施部】

共通教育科目・人間力養成プログラムと、基礎教育科目・専門基礎力養成プログラムの研究開発・実施

#### 【高等教育研究開発部】

高等教育の教育方法・教育支援・FDの研究開発、授業改善・教育評価・自己点検などの研究開発

#### 【外国語教育推進部】

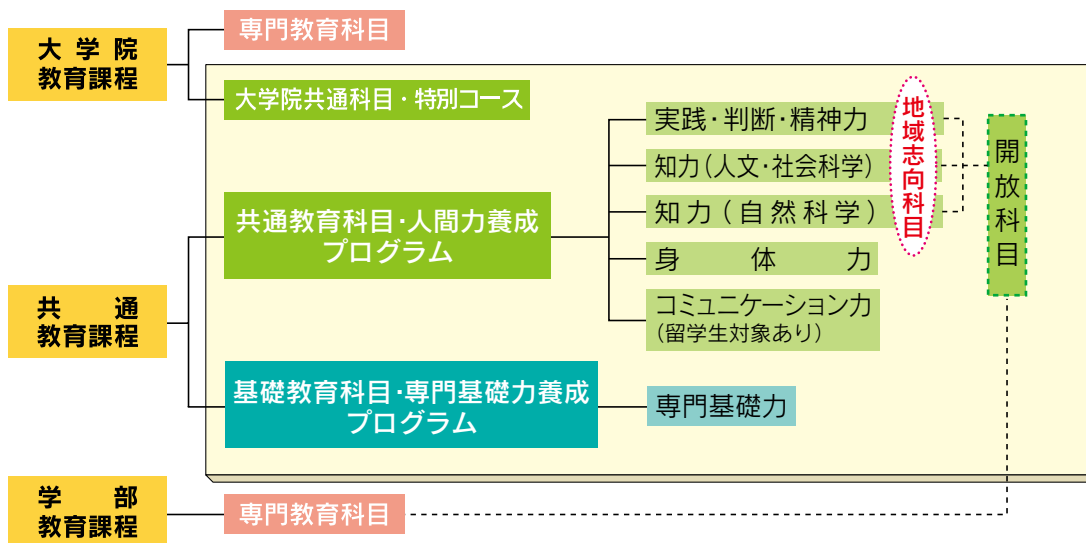
全学の外国語教育の研究・改善・提言およびカリキュラム開発

#### 【大学院共通科目・特別コース推進部】

大学院共通科目教育の企画・立案・実施

### 鹿児島大学教育課程

（大きな枠内が教育センターの教育）



▲共通教育科目「屋久島の環境文化Ⅱ - 生き物 -」授業風景



▲共通教育棟1号館

## アドミッションセンター

アドミッションセンターは、入学者選抜方法等の調査・研究、入学試験データの分析・評価等を行うとともに、各学部と共同し、入学者選抜方法の改善、中長期的な入学者選抜方法の在り方の策定、入学者選抜機能の検証、入学後の学業成績の追跡調査、学生確保に係る広報活動及び全国的な志願者動向を踏まえた志願状況の分析等を行うことにより、継続的に優秀な学生を確保することを目的として平成26年度に設置された。



▲平成26年度鹿児島大学トップセミナー「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」の様子

## 国際島嶼教育研究センター

国際島嶼教育研究センターは鹿児島県からアジア・太平洋までを含む島嶼域を対象とした教育・研究を推進している。学内の兼務教員と協力して島嶼域の諸問題について先進的な教育・研究をおこなうとともに、英文学術誌『South Pacific Studies』を発行して世界の島嶼学研究を牽引し、研究会やシンポジウム、公開市民講座を通して研究成果を地域に還元している。平成26年度は大隅諸島やミクロネシア、メラネシアにおいて兼務教員とともに総合学術調査をおこない、学術報告会を1回、研究会を11回、国際シンポジウムを1回、シンポジウムを2回開催した。鹿児島の島嶼地域における研究成果については、高校生・大学生など将来の人材への育成や一般の方への知の還元のために『島嶼研ブックレット』を新たに発刊するとともに、英文書籍『The Islands of Kagoshima 2ed』（平成26年度出版）や『The Amami Islands』（平成27年度出版予定）を出版して海外にも成果を発信している。また「島における教育」を積極的に実施しており、共通教育科目「島のしくみ」では与論島、大学院全学横断型教育プログラム・島嶼学教育コースの「島嶼学概論Ⅰ」では三島村硫黄島、「島嶼学概論Ⅱ」では十島村中之島、「太平洋島嶼学特論」ではミクロネシア連邦・グアムにおいて一部講義をおこなっている。さらに、文化・社会・生物の多様な地域としてグローバルに発展してきている奄美群島で急務とされる多様性維持機構の解明と保全のため、平成27年4月1日に奄美市に国際島嶼教育研究センター奄美分室を設置した。



▲大学院全学横断型教育プログラム・島嶼学教育コースのオープン科目「太平洋島嶼学特論」の様子（ミクロネシア連邦チューク州）

## 埋蔵文化財調査センター

鹿児島大学の郡元キャンパスと桜ヶ丘キャンパス、唐湊学生寮と入来牧場には埋蔵文化財が包蔵されていることが確認されている。埋蔵文化財調査センターは、施設整備事業等にもなつて影響を受けるこれらキャンパス内遺跡の保護対策を講ずることを目的としている。事業としては、校舎建設等工事に伴い発掘調査などの調査を実施し、そこから得られた埋蔵文化財の整理、研究、報告書作成等を行っている。また調査時には、一般市民向けの体験発掘や、遺跡見学会を開催している。



▲発掘調査の様子



## 総合研究博物館

総合研究博物館は、平成13年4月に旧国立大学では7番目の大学総合博物館として設置された。鹿児島大学とその前身である明治以降の複数の学校で教育や研究に使用された貴重な学術資料を一元的に保存・管理・調査・公開し、これからの教育や研究に資するとともに、鹿児島大学の文化遺産・知的財産に関する情報を社会に広く発信すべく活動を行っている。常設展示のほか、毎年様々なテーマで特別展を開催している。また、ニューズレター・モノグラフ・研究報告の発行など、学内外に向けた出版広報活動と並行して、年に数回、市民講座・研究交流会・公開講座を開き、自然体験ツアーなども行っている。本館が保管している学術標本・資料は、これまでに学内にとどまらず外国も含めて多数の利用があり、これらを利用して得られた成果は学術論文として報告されているほか、学生の卒業論文などにも活用されている。



▲自然体験ツアー

## 生涯学習教育研究センター

※平成27年7月1日より、かごしまCOCセンター社会貢献・生涯学習部門へ改組

生涯学習教育研究センターは、生涯学習に関する教育及び研究を行うとともに、学内及び学外における生涯学習活動の発展に寄与することを目的に平成15年に設置された。平成25年には、鹿児島大学生涯学習憲章を制定し、大学と地域をつなぐ営みとして生涯学習の理念と方針を定めた。センターは、生涯学習憲章の実施を推進する組織として、公開講座・公開授業など大学と地域が相互に学びあう仕組みづくりの開拓とその充実、生涯学習を推進するための情報提供や支援を学内外に向けて行っている。また、大学と地域を結びつけるための研究開発や県や市町村と連携しながら地域の発展を支える人材育成を担う社会教育・生涯学習の指導者養成など成人教育プログラムの開発と体制整備にも取り組んでいる。



▲公開授業のポスター



▲鹿児島大学生涯学習憲章策定ワークショップ

## 学術情報基盤センター

学術情報基盤センターは、鹿児島大学の情報基盤を担う中核的組織として、教育研究用計算機システムおよびキャンパス情報ネットワークの運用管理、大学全体の情報セキュリティ対策支援、情報システムの企画・開発・ホスティング・運用、IT相談等、教育研究全般の情報化支援に積極的に取り組んでいる。

センターには、情報メディア基盤部門、学術情報処理研究部門、情報システム開発部門の3部門がおかれ、それぞれの部門に属する専任教員が情報通信技術に関する研究開発、情報通信技術を生かした地域との連携、マルチメディア教材の研究開発、情報教育支援体制の整備による学内局との連携、学術情報データの蓄積と発信に関する研究開発を推進すると共に、学内の教育研究の高度情報化に指導的な役割を果たしている。



学部・大学院等

## 自然科学教育研究支援センター

自然科学教育研究支援センターは、4施設から構成されており、高度先端研究機器・設備、遺伝子実験、動物実験及びRIを活用した教育研究を支援し、先端的な生命科学・自然科学の教育・研究・開発の進展に資することを目的としている。

機器分析施設は、大型・高性能機器の計画的導入および集中管理による各種計測・分析機器の有効かつ円滑な共同利用を図っている。遺伝子実験施設は、遺伝子に関連する教育研究を行うための実験室、設備および解析機器類を整備している。動物実験施設は、実験動物および動物実験に関する教育研究、実験動物の品質管理および安全管理を行い、動物実験の適正化を図っている。アイソトープ実験施設は、放射性同位元素および放射線を利用する教育研究を推進するとともに、本学の放射線施設の安全管理を担っている。



▲走査型X線光電子分析装置(島津AXIS-ULTRA DLD)

## 医用ミニブタ・先端医療開発研究センター

医用ミニブタ・先端医療開発研究センターは、鹿児島大学における前臨床研究(トランスレーショナルリサーチ)を主眼とした重点的研究課題を推進するセンターである。

生命科学における重点の先端研究課題を遂行するために、三つの研究分野が設置されている。

臓器置換・異種移植外科分野(山田和彦教授)では、先進医用ミニブタの開発と前臨床研究拠点形成を主たるプロジェクトとし、国内外における大動物(ミニブタ・サル)を用いた前臨床移植研究(Translational Transplantation Research)の中核拠点としての地位を確立し、特に「同種移植での免疫寛容誘導方法の確立と異種臓器移植の臨床応用を目指す」ことを最終的な研究目標として掲げ、臓器・細胞移植(同種・異種)および再生医療を中心とした研究課題を進めている。

遺伝子発現制御学分野(佐藤正宏教授)では、遺伝子工学及び細胞工学的な方法を用いて、ブタ細胞のゲノム改変(遺伝子の強発現、標的遺伝子の破壊など)に関する新規技術の開発を展開している。この細胞を起点にブタからヒトへの異種移植が可能な医用ブタの開発を目指している。他方、マウスを用い臓器や生殖細胞への生体内遺伝子導入法の開発も行い、発生工学の基盤技術開拓も手掛けている。

先端医療開発分野(松原修一郎准教授)では、癌幹細胞プロジェクトとして、浸潤・転移・薬剤耐性など癌の特性を担う癌幹細胞に対する治療戦略の開発研究、腫場内微小環境で癌細胞を取り巻く宿主の細胞群と癌細胞との相互作用における癌幹細胞の役割についての基礎研究およびミニブタを用いた内視鏡手術の教育と開発を研究課題の中心としている。

また産学官および一般市民を対象とした公開シンポジウムを積極的に開催することによって、研究プロジェクトに対する幅広い理解を得る機会を設けている。



▲国内初となる異種移植抗原をノックアウトしたGalT-KOブタ腎のサルへの異種移植の成功例(臓器置換・異種移植外科分野)



▲先進医用ブタの開発と前臨床拠点形成プロジェクト第3回公開シンポジウム「ブタの医用動物への展開」の開催(2015年3月24日)



## 産学官連携推進センター

産学官連携推進センターは、鹿児島大学が地域とともに社会に貢献するために、産業界や地方公共団体などと鹿児島大学の教員の連携活動を計画・推進・支援することを目的とした組織である。

### 産学官連携部門

地域社会、地方公共団体や民間企業等外部機関との共同研究、技術開発、技術教育などに関する要請に対して、地域の拠点である鹿児島大学のさまざまな「知」を広く社会に提供するための基盤とネットワークの整備、企画、コーディネートをを行っている。

### 知的財産部門

教育研究活動の中で生まれた知的財産を一元的に管理するとともに、知的財産の創出、権利化、維持及び活用の戦略的な推進を図っている。特許の活用については、企業への技術移転を拡充し、社会貢献を推進する。また、知的財産に係る教育・啓発活動、知的財産関係契約業務と支援を行っている。

### 事業化支援部門

ベンチャー企業や産学官連携事業のためのインキュベーション機能を有する教育研究施設。インキュベーションプロジェクトとしては、ナノテクノロジー・バイオテクノロジー関連および社会科学関連の研究テーマも受け入れている。

ベンチャー創業時に必要な実践ビジネス教育プログラムとして、「知的財産戦略構築実務論」や「技術経営と社会連携」を大学院科目として開講している。

### 管理部門

センターの学内外総合窓口、センターの会議および各種事務業務等を担う管理部門を置き、研究国際部社会連携課が担当している。



▲ラボツアー（農学部）



◀研究シーズ集2015

## 地域防災教育研究センター

南九州から南西諸島にかけては、豪雨、台風、火山噴火、地震・津波などに起因する様々な自然災害が発生している。地域防災教育研究センターは、それら自然災害の防止と軽減を図るため、災害の実態解明、予測、防災教育、災害応急対応、災害復旧復興等の課題に地域と連携して取り組み、地域防災力の向上に貢献することを目指している。

なお本センターでは上記した自然災害だけでなく、原子力発電所の立地県であることも考慮して、以下のような部門・分野を置き、地域防災に関する様々な活動を行っている。

### 調査研究部門

**総合防災分野:** 災害時の応急対応、災害心理・心のケア、医療・福祉、ライフライン、復旧復興策、防災対策、警戒避難等に関する調査研究

**水害・土砂災害分野:** 台風、大雨によって引き起こされる洪水害、山崩れ、土石流などによる土砂災害に関する調査研究

**火山災害分野:** 桜島や霧島等の噴火に伴う災害に関する調査研究

**地震・津波災害分野:** 地震・津波によって引き起こされる災害に関する調査研究

**放射線災害分野:** 放射線によって引き起こされる災害に関する調査研究

### 教育部門

- 本学の共通教育、小・中・高等学校、市民講座等における防災教育の企画・運営
- 地域防災の核となる防災リーダーの養成支援

### 地域連携部門

- 地方公共団体、地域住民と連携した地域防災に係る課題の解決
- 市民、マスコミ等からの防災に関する問い合わせの対応



▲鹿大防災セミナー



▲平成26年度 防災・日本再生シンポジウム（鹿児島市）





# かごしま COC センター

かごしまCOCセンターは、平成26年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択された「火山と島嶼を有する鹿児島島の地域再生プログラム」(COC事業)を推進する地域活性化の中核拠点として平成26年10月に設置された。

本事業は、鹿児島大学が地域とともに社会の発展に貢献する総合大学となるために、鹿児島県域の火山と島嶼を有する特徴的な地域課題(防災、災害時医療、農林畜産業・水産業、水、エネルギー、離島医療、流通輸送、地域教育、観光等)を自治体とともに解決し、地域志向の人材養成や地域の再生・活性化に繋がる教育・研究・社会貢献を強化した大学改革を推進すること目的としている。

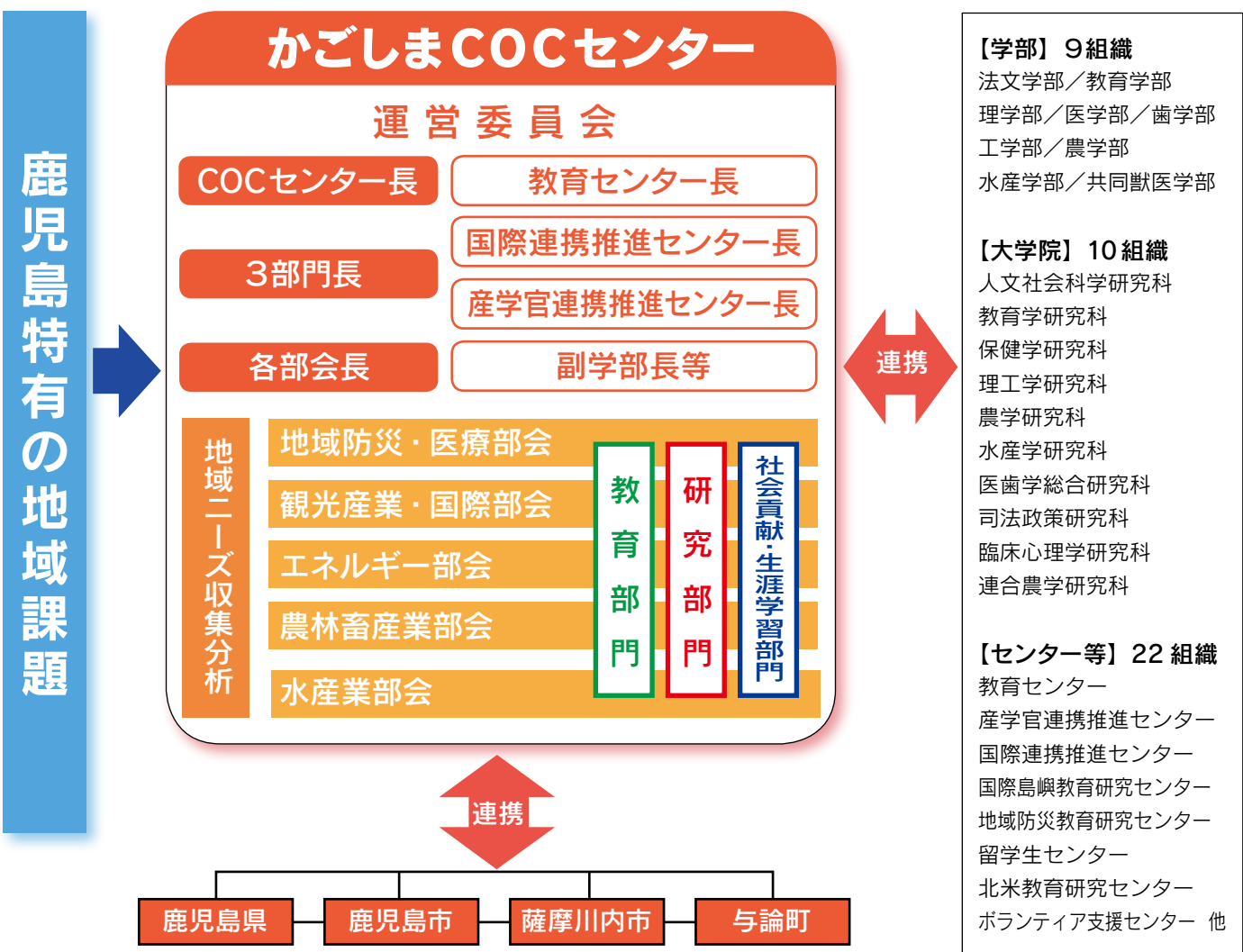
本事業では、鹿児島市、薩摩川内市、与論町の事業連携自治体を重点モデル地域とし、センター内に設置した学内教員と自治体職員で構成される5つの部会(地域防災・医療、観光産業・国際、エネルギー、農林畜産業、水産業)において本学と自治体間の連携・情報共有体制を整備し地域の課題を収集、分析しその成果を学内外の教育・研究・社会貢献活動に発展させることを目指す。

※COC=Center of Community

## 事業コンセプト

- 鹿児島大学と地方自治体の密接な組織間の協働・連携と地域課題解決への積極的な取り組み
- 活動成果を活用した地域社会に貢献する総合大学にふさわしい教育カリキュラムの構築
- 持続的な地域再生・活性化に繋がる生涯学習の場の充実と地域貢献を志向する人材養成

## センター運営体制



学部・大学院等

## 国際連携推進センター (KUCIP)

国際連携推進センター(Kagoshima University Center for International Planning)は、国際企画推進室を支える中核組織である。国際担当の学長補佐をセンター長とし、専任教員3名を配置している。留学生センターや北米教育研究センターと連携を図りながら、国際化推進に必要な以下の業務をおこなっている。

- 1) 国際教育プログラム(P-SEG)の企画及び運営
- 2) 国際研究プロジェクトの支援
- 3) 海外の大学・研究機関との連携強化
- 4) 国際社会に向けた情報発信

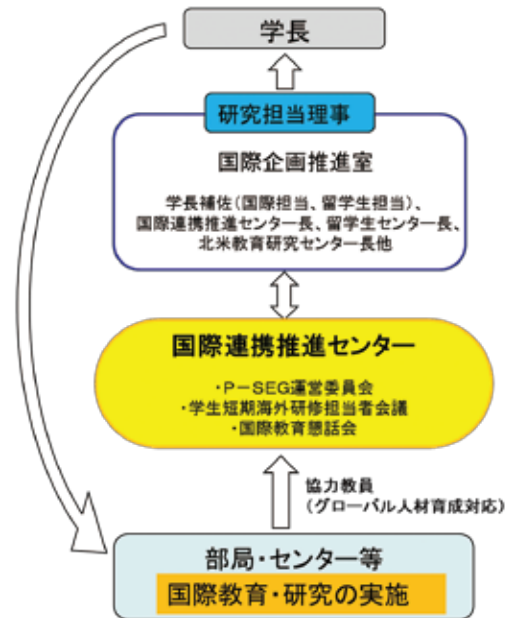
センターは、本学の国際教育(グローバル人材育成)に関わる必要な会議を運営するために、部局から協力教員の支援を得ている。



▲ バングラデシュ学生海外研修の様子



▲ P-SEGパンフレット



## 留学生センター

留学生センターは、外国人留学生および海外留学を希望する日本人学生に、必要な教育および指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的として、平成12年4月に設置された。この目的のために、外国人留学生に対する日本語日本文化教育、学習カウンセリング、留学生・日本人学生・地域社会の交流推進や、海外留学を希望する日本人学生への情報提供および相談指導などを行っている。

### 【業務内容】

- 全学留学生向け日本語、異文化理解、日本文化教育
- 研究者、留学生の配偶者向け日本語教育
- 実地見学旅行等、学外学習の企画実施
- 留学関連相談指導(外国人留学生への生活・学習相談、履修指導、就職情報提供、日本人学生への留学説明会、留学相談指導等)
- 留学生個人チューターへの相談指導
- 学術交流協定校との短期交換留学生受入・派遣業務
- 日本人学生と外国人留学生の交流、学び合いの機会提供
- 留学生と地域との交流支援



▲ 留学生のポスターセッション。日本語で母国等を紹介



▲ 留学生対象の日本語・日本文化授業 (Study Japan Program)

## 男女共同参画推進センター

男女共同参画推進センター(愛称:“muse篤姫”)は、鹿児島大学男女共同参画基本理念に基づき、「一人ひとりが伸びやかに自分らしく輝くために」をモットーに、男女共同参画に係る広報・意識啓発、教職員のワーク・ライフ・バランス支援、女性研究者支援及び次世代女性研究者支援育成などを通して、鹿児島大学の男女共同参画を推進しています。



男女共同参画推進センター  
シンボルマーク

※muse(むぜ)

ギリシャ神話の女神「ムーサ」の英語名であるとともに、鹿児島弁の「むぜ(かわいい)」を掛けた表現。



▲「研究支援員制度」を利用するライフイベント期にある女性研究者とその支援の様子

## 就職支援センター

就職支援センターは、鹿児島大学の全学的な就職支援に関する企画立案及び実施の充実を図ることを目的として、平成18年4月に設置された。

同センターは、学部や研究科、学年を問わず、学生のキャリア観を育成し、主体的かつ適切な進路選択を支援するため、主に次のような業務に取り組んでいる。

- (1) 就職支援戦略に関すること
- (2) 就職支援に関すること
- (3) キャリア教育支援に関すること
- (4) 就職支援に係る広報に関すること
- (5) その他本学における就職に関すること



## ボランティア支援センター

ボランティア支援センターは、学生のボランティア活動の推進およびその支援を図ることを目的として、平成20年7月に設置された。

同センターは、学生が様々なボランティア活動に参加し、地域との関わりを持つことで人間力を高め、学生による地域貢献や地域の活性化を図るため、ボランティア教育への支援や災害発生時の復旧支援活動、ボランティアに関する情報の収集・提供、ボランティア関係機関・団体との連絡調整などの業務を行っている。

また、同センターでは、平成23年4月から災害支援ボランティア活動を行う学生に対する経済的支援として活動費の一部助成を行っており、学生がボランティア活動に参加しやすい環境を設けて支援している。





## 障害学生支援センター

障害を有する学生への支援を円滑に実施するため平成25年7月に障害学生支援室が設置され、平成26年4月に障害学生支援センターに改組された。専任教員および事務職員が常駐し、つまずきを感じている学生や障害を有する学生および保護者・教員からの修学に関わる相談に応じている。障害学生支援センターでは、障害を有する学生が自分らしく豊かな学生生活を送ることができるように、面談を行い、一人一人のニーズに応じた支援計画を立て、保健管理センター及び部局などと連携を取りながら、支援を行っている。

### 【業務内容】

- (1)障害を有する学生の入学前相談に関すること
- (2)障害を有する学生のニーズの把握に関すること
- (3)障害を有する学生の支援方法・支援制度に関すること
- (4)障害を有する学生の施設等の整備に関すること
- (5)関連する教育・学生支援委員会等との連携調整に関すること
- (6)その他障害を有する学生の支援に関すること



## 東京リエゾンオフィス

東京リエゾンオフィスは、首都圏における活動、情報の収集および発信等を活発に行うため、平成16年12月に東京都港区芝浦のキャンパス・イノベーションセンター(CIC)内に設置された。

主に、鹿児島大学の各種情報(大学概要・広報誌等)の提供、入試情報(各学部・研究科案内および募集要項等)の提供、首都圏における学生の就職支援および企業との技術相談・共同研究等に関する連絡調整、各同窓会との連絡調整を行っている。

また、CIC入居大学との合同イベント(大学説明会・新技術説明会等)に参画している。

## 教育関係共同利用拠点：水産学部附属練習船かごしま丸

平成24年3月30日に新しい「かごしま丸(4代目)」が竣工し、平成24年度から運航を開始している。この船は、斜め移動やその場回頭などが可能な特殊操船能力を持った新鋭船である。今まで出来なかった荒海中での実験・観測をはじめ、最新の観測機器の導入による新しい研究・教育の充実が可能となった。この船は前かごしま丸(3代目)に引き続き、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点としての認定を受けている。この認定制度は、練習船ばかりでなく、留学生センターや農場などさまざまな教育関係施設の中から、我が国の高等教育の重点分野ごとに、施設を保有する大学以外の大学の学生・大学院生にも質の高い教育を提供する拠点を形成していくために、新たに設けられたものである。具体的には、かごしま丸は、「熱帯・亜熱帯水域における洋上教育のための共同利用拠点」として



認定された。これは、我が国南方の熱帯・亜熱帯水域が、水産資源や地球環境に大きな影響を及ぼすことと、この水域で長年活動してきたかごしま丸及び本学の実績が認められたものである。このため、本学学生ばかりでなく他大学の学生も、本船を利用して充実した乗船実習教育を受け単位を取得できるようになった。今後は、我が国ばかりでなく東南アジア・南太平洋水域も含めた、洋上教育の拠点としての活動が期待されている。



## 教育関係共同利用拠点：農学部附属高隈演習林

高隈演習林(垂水市)は、森林・林業に関する教育研究のための附属施設として旧制鹿児島高等農林学校時代の明治42(1909)年に開設された。総面積3061ヘクタール(垂水市の19%、本学が所有する土地の84%を占める)の広大な森林は、100年余り前から先人達が築き上げてきた人工林(屋久杉を起源とするスギやヒノキなど)がおよそ3分の1を占め、残りは南九州を代表する豊かな照葉樹の天然林に覆われている。演習林は主に農学部森林科学コースの学生によって、専門課程の実習や研究等で利用してきたが、2000年ごろから専門課程以外の共通教育や他大学の授業で、あるいは地域貢献として児童生徒を対象とした森林環境教育や社会人を対象とした林業技術者教育など、利用の幅が大きく広がるようになってきた。

そこでこれまでの実績を基に、演習林のさらなる有効活用を図るため、平成26年度より高隈演習林は「鹿児島島の自然環境と100年の森林から学ぶ森林・環境・防災教育拠点」として文部科学省より教育関係共同利用拠点到に認定された。昨年度は14大学から延べ247人の利用があり、27年度は林業教育、環境教育、防災教育、動植物教育など多様な分野でさらに多くの利用が計画されている。



## 鹿児島大学奄美群島拠点

奄美群島拠点は、鹿児島大学の機能強化の一環として、奄美群島における地域活性化の中核的拠点として教育、研究及び社会貢献活動を推進し、地域課題を解決することを目的として設置された。この拠点は、(1)国際島嶼教育研究センター奄美分室、(2)奄美島嶼実験室、(3)奄美サテライト教室、(4)徳之島サテライト教室、(5)与論活性化センター、(6)与論水産実験室の6つの施設から構成されている。

### 国際島嶼教育研究センター奄美分室(奄美市)

国際島嶼教育研究センター奄美分室は、奄美群島拠点の6つの施設の中で唯一教職員が常駐しており、奄美群島拠点の中核的施設である。平成27年4月に奄美市名瀬の旧名瀬保健所跡に設置された奄美分室内には、教職員スペースのほかに、中学生・高校生に鹿児島大学や大学生活を紹介するスペースも準備し、地域貢献や地域との連携を図ることも目的の一つとしている。また、この施設の近くには、奄美島嶼実験室(名瀬公民館金久分館内)や教職員・学生が利用できる宿泊所(名瀬長浜町)がある。



## 司法政策教育研究センター

鹿児島大学司法政策教育研究センターは、平成27年3月に、司法政策研究科による法科大学院での法曹養成の経験とノウハウを継承し、法学分野の教育研究の高度化や法律系人材の養成・充実を実現する基盤を確保することや、法科大学院修了後の司法試験受験のサポートを含む法曹志願者の支援、地域で活躍している法律系人材や各種専門職のニーズに応えるリカレントや職能高度化の場の提供、臨床法学教育の推進とともに地域貢献活動の一層の充実を図ることなどを目的として設置された。

法律系総合情報データベースの提供や、センター相談室での無料法律相談、司法修習生や若手弁護士向けのロイヤリング実践セミナー、離島等司法過疎地における法律相談実習等の事業をはじめ、若手弁護士をチューターとする法務学修生や法科大学院生向けの学修支援を実施している。

これまでの「地域に学び、地域に貢献する」という理念を継承し、今後も、鹿児島大学が南九州における法学系の知の拠点として相応しいものとなるような事業を企画・整備し、実施して行く予定である。



■学 部

(平成27年5月1日現在)

学 部	学科・課程	入学定員	3年次編入学員	収容定員	現 員						
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
法文学部	法政策学科	95	10	380	102 (37)	102 (37)	101 (48)	116 (41)	-	-	421 (163)
	経済情報学科	145		580	147 (69)	150 (72)	153 (67)	187 (96)	-	-	637 (304)
	人文学科	155		620	158 (122)	159 (110)	164 (116)	199 (150)	-	-	680 (498)
	小 計	395		1,600	407 (228)	411 (219)	418 (231)	502 (287)	-	-	1,738 (965)
教育学部	学校教育教員養成課程	225	10	900	229 (110)	233 (129)	232 (117)	271 (135)	-	-	965 (491)
	特別支援教育教員養成課程	15		60	15 (14)	16 (13)	17 (12)	18 (14)	-	-	66 (53)
	生涯教育総合課程	35		140	36 (22)	39 (32)	39 (26)	48 (25)	-	-	162 (105)
	小 計	275		1,100	280 (146)	288 (174)	288 (155)	337 (174)	-	-	1,193 (649)
理学部	数理情報科学科	40	10	160	42 (4)	40 (7)	63 (3)	34 (5)	-	-	179 (19)
	物理科学科	45		180	47 (8)	46 (10)	66 (9)	42 (13)	-	-	201 (40)
	生命化学科	50		200	52 (20)	50 (19)	60 (20)	53 (22)	-	-	215 (81)
	地球環境科学科	50		200	53 (19)	51 (22)	62 (21)	50 (18)	-	-	216 (80)
	小 計	185		740	194 (51)	187 (58)	251 (53)	179 (58)	-	-	811 (220)
医学部	医 学 科	107	10	692	108 (34)	111 (43)	126 (43)	121 (32)	125 (57)	106 (31)	697 (240)
	保健学科	120	20	520	120 (99)	124 (94)	126 (95)	134 (105)	-	-	504 (393)
	小 計	227	30	1,212	228 (133)	235 (137)	252 (138)	255 (137)	125 (57)	106 (31)	1,201 (633)
歯学部	歯 学 科	53		318	56 (34)	55 (29)	47 (27)	52 (25)	56 (21)	53 (19)	319 (155)
工学部	機械工学科	94	20	376	111 (6)	114 (4)	125 (2)	87 (2)	-	-	437 (14)
	電気電子工学科	78		312	98 (2)	100 (5)	90 (1)	83 (1)	-	-	371 (9)
	建築学科	55		220	73 (13)	60 (16)	69 (21)	59 (14)	-	-	261 (64)
	環境化学プロセス工学科	35		140	39 (8)	41 (12)	37 (10)	46 (6)	-	-	163 (36)
	海洋土木工学科	48		192	51 (7)	57 (8)	55 (5)	38 (5)	-	-	201 (25)
	情報生体システム工学科	80		320	96 (16)	101 (8)	88 (11)	84 (14)	-	-	369 (49)
	化学生命工学科	50		200	59 (15)	50 (9)	53 (16)	51 (15)	-	-	213 (55)
	生体工学科※							1 (0)	-	-	1 (0)
	小 計	440		1,800	527 (67)	523 (62)	517 (66)	449 (57)	-	-	2,016 (252)
農学部	生物生産学科	80	10	320	85 (34)	85 (37)	84 (39)	107 (47)	-	-	361 (157)
	生物資源化学科	60		240	65 (32)	63 (32)	63 (28)	74 (43)	-	-	265 (135)
	生物環境学科	65		260	65 (18)	64 (27)	68 (21)	80 (29)	-	-	277 (95)
	獣医学科※								31 (20)	35 (15)	66 (35)
	小 計	205		820	215 (84)	212 (96)	215 (88)	261 (119)	31 (20)	35 (15)	969 (422)
水産学部	水産学科	140	10	560	144 (39)	129 (37)	146 (30)	127 (49)	-	-	546 (155)
	水産教員養成課程※					10 (4)	11 (4)	12 (4)	-	-	33 (12)
	小 計	140		560	144 (39)	139 (41)	157 (34)	139 (53)	-	-	579 (167)
共同獣医学部	獣医学科	30		180	32 (16)	36 (14)	30 (11)	29 (11)			127 (52)
合 計		1,950	60	8,330	2,083 (798)	2,086 (830)	2,175 (803)	2,203 (921)	212 (98)	194 (65)	8,953 (3,515)

- (注) 1. ( ) は女子で内数。現員には外国人留学生を含む。  
 2. 医学部医学科の編入学定員は2年次後期の編入学定員。  
 3. ※は旧学科、旧課程を表す。  
 4. 農学部及び水産学部の国際食料資源学特別コースの現員は学科に含まれる。

<東京海洋大学水産専攻科>

入学定員	現 員
10	10

- (注) 1. 水産学部の学生は連携により東京海洋大学水産専攻科に進学することができる。  
 2. この専攻科を修了した者は、海技士として船舶運航に従事するために必要な資格を得ることができる。

■大学院

(平成27年5月1日現在)

研究科	入学定員	収容定員	現 員								合 計
			修士課程(博士前期)			博士課程(博士後期)又は専門職学位課程					
			1年	2年	計	1年	2年	3年	4年	計	
人文社会科学研究科	28	56	22 (16)	39 (21)	61 (37)	-	-	-	-	-	61 (37)
	6	18	-	-	-	3 (2)	8 (3)	9 (2)	-	20 (7)	20 (7)
教育学研究科	38	76	38 (22)	39 (18)	77 (40)	-	-	-	-	-	77 (40)
保健学研究科	22	44	22 (13)	22 (12)	44 (25)	-	-	-	-	-	44 (25)
	6	18	-	-	-	4 (3)	1 (1)	15 (8)	-	20 (12)	20 (12)
理工学研究科	286	572	296 (50)	301 (37)	597 (87)	-	-	-	-	-	597 (87)
	24	72	-	-	-	19 (4)	17 (2)	31 (9)	-	67 (15)	67 (15)
農学研究科	69	138	42 (19)	59 (23)	101 (42)	-	-	-	-	-	101 (42)
水産学研究科	32	64	32 (9)	41 (15)	73 (24)	-	-	-	-	-	73 (24)
医歯学総合研究科	10	20	10 (4)	10 (4)	20 (8)	-	-	-	-	-	20 (8)
	50	200	-	-	-	40 (13)	53 (14)	48 (12)	179 (41)	320 (80)	320 (80)
医学研究科※			-	-	-	-	-	-	3 (0)	3 (0)	3 (0)
司法政策研究科※			-	-	-	-	3 (2)	6 (4)	-	9 (6)	9 (6)
臨床心理学研究科	15	30	-	-	-	14 (10)	17 (15)	-	-	31 (25)	31 (25)
連合農学研究科	23	69	-	-	-	27 (8)	28 (6)	47 (14)	-	102 (28)	102 (28)
計	609	1,377	462 (133)	511 (130)	973 (263)	107 (40)	127 (43)	156 (49)	182 (41)	572 (173)	1,545 (436)
山口大学大学院連合獣医学研究科	12		-	-	-	6 (1)	5 (2)	7 (0)	6 (4)	24 (7)	24 (7)

- (注) 1. ( )は女子で内数。現員には外国人留学生を含む。  
 2. 司法政策研究科(法科大学院)、臨床心理学研究科は専門職学位課程である。  
 3. 司法政策研究科(法科大学院)は平成27年度より募集停止。  
 4. 連合農学研究科は鹿児島・佐賀・琉球の3大学の構成によるものである。  
 5. 山口大学大学院連合獣医学研究科の現員数は、鹿児島大学(指導教員)に属する学生数である。  
 6. ※印は旧研究科である。

学生等

■大学院の社会人選抜入学者数

(平成27年5月1日現在)

研究科	平成27年度	
人文社会科学研究科	博士前期	2
	博士後期	1
教育学研究科		12
保健学研究科	博士前期	11
	博士後期	3
理工学研究科	博士前期	-
	博士後期	7
農学研究科		-
水産学研究科		-
医歯学総合研究科	修士課程	6
	博士課程	17
臨床心理学研究科		-
連合農学研究科		-
計		59

(注) 現職教員を含む。

学部

(平成27年度)

学 部	入学定員	志 願 者 数	入 学 者 数	入学者の出身地別割合(%)	
				県 内	県 外
法 文 学 部	395	1,420 (747)	407 (228)	48.2	51.8
教 育 学 部	275	998 (497)	280 (146)	61.1	38.9
理 学 部	185	623 (177)	193 (50)	42.0	58.0
医 学 部	227	1,083 (519)	227 (133)	59.0	41.0
歯 学 部	53	390 (178)	53 (32)	30.2	69.8
工 学 部	440	1,152 (177)	469 (66)	39.2	60.8
農 学 部	205	563 (232)	215 (84)	40.9	59.1
水 産 学 部	140	455 (119)	144 (39)	26.4	73.6
共同獣医学部	30	128 (62)	32 (16)	37.5	62.5
合 計	1,950	6,812 (2,708)	2,020 (794)	45.5	54.5

※( )内は女子を内数で表す。

○入学者出身地別内訳(出身高校等所在地による)

(注) その他は、高等学校卒業程度認定試験合格(従前の大学入学資格検定合格を含む)の入学者を表す。

九州地区

	法	教	理	医	歯	工	農	水	獣	合計
鹿児島	196	171	81	134	16	184	88	38	12	920
沖縄	1	0	1	1	0	1	0	1	0	5
宮崎	28	26	27	24	4	44	13	5	1	172
大分	17	10	8	0	1	20	9	3	2	70
熊本	52	22	18	15	5	67	34	3	0	216
長崎	22	10	8	6	1	35	7	4	0	93
佐賀	10	3	4	1	0	20	1	5	0	44
福岡	56	21	29	23	2	58	32	11	5	237
合計	382	263	176	204	29	429	184	70	20	1,757

北海道地区

法	0
教	0
理	1
医	0
歯	0
工	1
農	1
水	4
獣	1

中部地区

法	4
教	1
理	1
医	3
歯	6
工	6
農	6
水	18
獣	1

東北地区

法	1
教	0
理	0
医	0
歯	0
工	0
農	0
水	5
獣	0

中国地区

法	6
教	6
理	6
医	5
歯	2
工	11
農	9
水	10
獣	2

関東地区

法	1
教	4
理	2
医	5
歯	7
工	6
農	4
水	14
獣	2

近畿地区

法	5
教	5
理	4
医	8
歯	7
工	7
農	8
水	20
獣	3

四国地区

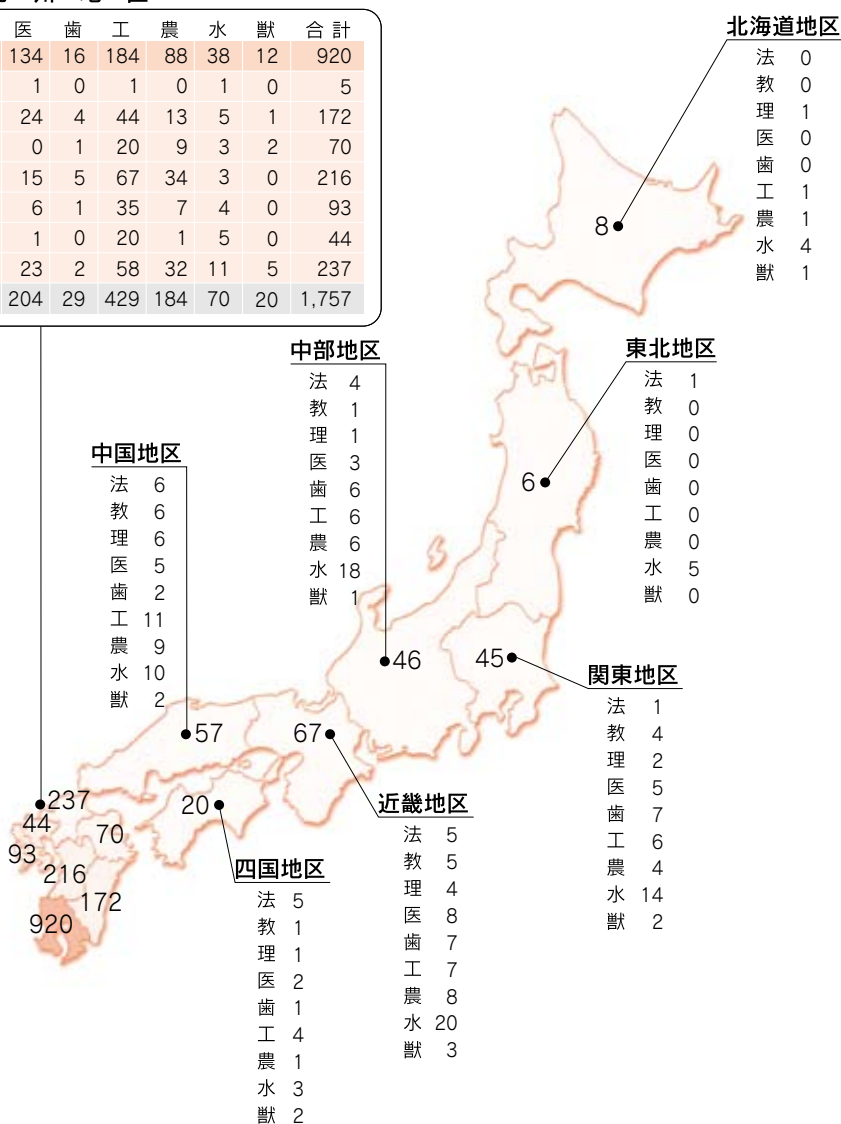
法	5
教	1
理	1
医	2
歯	1
工	4
農	1
水	3
獣	2

外国の学校 その他

法	2	法	1
教	0	教	0
理	0	理	2
医	0	医	0
歯	1	歯	0
工	5	工	0
農	2	農	0
水	0	水	0
獣	1	獣	0

沖縄

5





■大学院(志願者・受験者・合格者状況)

【修士課程・博士前期課程】

(平成27年度)

研究科	専攻等	入学定員	志願者数					受験者数					合格者数					入学者数
			一般	社会人	留学生	推薦	計	一般	社会人	留学生	推薦	計	一般	社会人	留学生	推薦	計	
人文社会科学研究科	法学	5	2	0	2	-	4	2	0	2	-	4	1	0	2	-	3	3
	経済社会システム	10	4	3	5	-	12	4	3	5	-	12	3	3	4	-	10	9
	人間環境文化論	5	5	0	2	-	7	4	0	2	-	6	4	0	2	-	6	5
	国際総合文化論	8	3	1	1	-	5	3	1	1	-	5	2	0	1	-	3	3
	計	28	14	4	10	-	28	13	4	10	-	27	10	3	9	-	22	20
教育学研究科	教育実践総合	38	23	13	5	-	41	23	13	5	-	41	23	12	4	-	39	38
保健学研究科	看護学	12	5	9	0	-	14	5	9	0	-	14	5	7	0	-	12	12
	理学療法・作業療法	10	6	4	0	-	10	6	4	0	-	10	6	4	0	-	10	10
	計	22	11	13	0	-	24	11	13	0	-	24	11	11	0	-	22	22
理工学研究科	機械工学	50	75	0	1	-	76	72	0	1	-	73	58	0	1	-	59	57
	電気電子工学	45	69	0	2	-	71	69	0	2	-	71	54	0	1	-	55	54
	建築学	25	38	0	2	-	40	36	0	2	-	38	35	0	1	-	36	32
	化学生命・化学工学	42	47	0	1	-	48	47	0	1	-	48	40	0	1	-	41	39
	海洋土木工学	18	14	0	1	-	15	14	0	1	-	15	6	0	1	-	7	5
	情報生体システム工学	42	62	0	0	-	62	61	0	0	-	61	48	0	0	-	48	45
	数理情報科学	14	8	0	0	-	8	8	0	0	-	8	8	0	0	-	8	3
	物理・宇宙	15	60	0	0	-	60	59	0	0	-	59	26	0	0	-	26	22
	生命化学	18	49	0	0	-	49	47	0	0	-	47	26	0	0	-	26	24
	地球環境科学	17	18	0	1	-	19	18	0	1	-	19	17	0	1	-	18	15
	計	286	440	0	8	-	448	431	0	8	-	439	318	0	6	-	324	296
農学研究科	生物生産学	26	18	0	1	-	19	17	0	1	-	18	17	0	1	-	18	15
	生物資源化学	21	15	0	2	4	21	14	0	2	4	20	13	0	2	4	19	16
	生物環境学	22	13	0	0	1	14	13	0	0	1	14	12	0	0	1	13	11
	計	69	46	0	3	5	54	44	0	3	5	52	42	0	3	5	50	42
水産学研究科	水産学	32	36	0	7	-	43	34	0	7	-	41	27	0	7	-	34	32
医歯学総合研究科	医科学	10	4	6	0	-	10	4	6	0	-	10	4	6	0	-	10	10
合計		485	574	36	33	5	648	560	36	33	5	634	435	32	29	5	501	460

※教育学研究科の「社会人」は、「現職教員等」を表す。

【博士課程・博士後期課程】

(平成27年度)

研究科	専攻	入学定員	志願者数				受験者数				合格者数				入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
人文社会科学研究科	地域政策科学	6	0	3	1	5	0	2	1	4	0	2	1	4	3
			1		1		1								
保健学研究科	保健学	6	1	3	0	4	1	3	0	4	1	3	0	4	4
理工学研究科	物質生産科学	8	3	2	3	8	2	2	3	7	2	2	3	7	7
	システム情報科学	8	0	2	1	3	0	2	1	3	0	2	1	3	3
	生命環境科学	8	6	1	0	7	6	1	0	7	6	1	0	7	6
	計	24	9	5	4	18	8	5	4	17	8	5	4	17	16
医歯学総合研究科	健康科学	19	10	5	0	15	10	5	0	15	10	5	0	15	14
	先進治療科学	31	12	9	2	23	12	9	2	23	12	9	2	23	22
	計	50	22	14	2	38	22	14	2	38	22	14	2	38	36
連合農学研究科	生物生産科学	7	2	2	4	8	2	2	4	8	2	2	4	8	8
	応用生命科学	8	1	0	4	5	1	0	3	4	1	0	3	4	4
	農水圏資源環境科学	8	10	1	3	14	9	1	3	13	9	1	3	13	13
	計	23	13	3	11	27	12	3	10	25	12	3	10	25	25
合計		109	-	-	-	92	-	-	-	88	-	-	-	88	84

※人文社会科学研究科の下段は、進学者選考の数を表す。

【専門職学位課程】

(平成27年度)

研究科	専攻	入学定員	志願者数				受験者数				合格者数				入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
臨床心理学研究科	臨床心理学	15	27	0	0	27	27	0	0	27	18	0	0	18	14
合計		15	27	0	0	27	27	0	0	27	18	0	0	18	14

■卒業生数・就職状況

(平成27年5月1日現在)

学部	卒業生数 (累計)	平成26年度 卒業生数	就職状況																
			就職希望者数	就職者数	就職率(%)	業種別						地区別							
						農林業 漁業	建設業 電気ガス水道 情報通信運輸 卸売・小売	金融保険 医療福祉 教育学習 サービス	公務員	教員	その他	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	鹿児島 県内	その他
法文学部	15,849	407	347	322	92.8		134	101	69	7	11	48	5	10		2	97	158	2
教育学部	18,703	279	214	199	93.0		29	47	21	99	3	19	3	4	3		49	117	4
理学部	6,870	183	90	86	95.6	2	31	22	15	14	2	12	2	7	1		32	31	1
医学部	6,888	241	118	115	97.5			102	13			17		9			32	57	
歯学部	1,955	51																	
工学部	17,885	455	196	193	98.5		135	25	29	2	2	62	8	24	1	2	55	41	
農学部	12,540	225	171	163	95.3	9	64	46	37	2	5	44	5	7	4	1	62	39	1
水産学部	7,574	137	93	88	94.6	3	62	14	6	2	1	29	2	11	5	1	20	18	2
(文理学部)	2,651																		
合計	90,915	1,978	1,229	1,166	94.9	14	455	357	190	126	24	231	25	72	14	6	347	461	10

(注) 1. 卒業生数(累計)は昭和24年5月本学設置以降の全数を計上した。ただし、医・工学部については昭和30年国立移管以降について計上した。  
 2. 卒業生数は9月卒業生を含む。  
 3. 医学部の就職状況は保健学科を表す。

■大学院修了生数

(平成27年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程		専門職学位課程	
	修了生数 (累計)	平成26年度 修了生数	修了生数 (累計)	平成26年度 修了生数	修了生数 (累計)	平成26年度 修了生数
人文社会科学研究科	525	18	16	2	-	-
教育学研究科	735	36	-	-	-	-
保健学研究科	222	14	4	1	-	-
医学研究科*	-	-	581	1	-	-
理工学研究科	6,007	247	369	12	-	-
農学研究科	2,038	48	-	-	-	-
水産学研究科	1,153	30	-	-	-	-
医歯学総合研究科	155	13	299	41	-	-
司法政策研究科	-	-	-	-	135	5
臨床心理学研究科	-	-	-	-	102	15
連合農学研究科	-	-	681	19	-	-
法学研究科*	123	-	-	-	-	-
人文科学研究科*	120	-	-	-	-	-
理学研究科*	539	-	-	-	-	-
歯学研究科*	-	-	112	-	-	-
計	11,617	406	2,062	76	237	20

(注) 1. 博士課程については、単位修得後退学した者は含まない。  
 2. \*印は旧研究科である。

■学位授与状況

(平成27年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程				専門職学位課程	
	累計	平成26年度 授与	課程		論文		累計	平成26年度 授与
			累計	平成26年度授与	累計	平成26年度授与		
人文社会科学研究科	525	18	25	3	1	1	-	-
教育学研究科	735	36	-	-	-	-	-	-
保健学研究科	222	14	8	1	1	-	-	-
医学研究科	-	-	700	2	1,484	-	-	-
歯学研究科	-	-	136	-	71	-	-	-
理工学研究科	6,007	247	418	17	72	5	-	-
農学研究科	2,038	48	-	-	-	-	-	-
水産学研究科	1,153	30	-	-	-	-	-	-
医歯学総合研究科	155	13	324	46	20	7	-	-
司法政策研究科	-	-	-	-	-	-	135	5
臨床心理学研究科	-	-	-	-	-	-	102	15
連合農学研究科	-	-	838	28	133	-	-	-
(法学研究科)	123	-	-	-	-	-	-	-
(人文科学研究科)	120	-	-	-	-	-	-	-
(理学研究科)	539	-	-	-	-	-	-	-
計	11,617	406	2,449	97	1,782	13	237	20

(注) 医学研究科については、昭和30年国立移管後の数を計上した。

■奨学生状況

(平成27年5月1日現在)

学部・研究科等	在学生数	日本学生支援機構		各種団体 育英会	計	在学生に対する 百分率	
		第一種奨学生	第二種奨学生				
学部	法文学部	1,738	486	476	36	998	57.4
	教育学部	1,193	321	310	23	654	54.8
	理学部	811	226	228	10	464	57.2
	医学部	1,201	238	258	18	514	42.8
	歯学部	319	49	75	2	126	39.5
	工学部	2,016	534	598	28	1,160	57.5
	農学部	969	231	227	13	471	48.6
	水産学部	579	107	137	3	247	42.7
共同獣医学部	127	27	19	0	46	36.2	
計	8,953	2,219	2,328	133	4,680	52.3	
大学院 (修士課程・ 博士前期課程)	人文社会科学研究科	61	9	3	0	12	19.7
	教育学研究科	77	15	2	0	17	22.1
	保健学研究科	44	3		0	3	6.8
	理工学研究科	597	174		1	175	29.3
	農学研究科	101	28	2	1	31	30.7
	水産学研究科	73	13	3	1	17	23.3
	医歯学総合研究科	20	2	1	0	3	15.0
	計	973	244	11	3	258	26.5
大学院 (博士課程・ 博士後期課程)	人文社会科学研究科	20	2		2	4	20.0
	保健学研究科	20	1		0	1	5.0
	理工学研究科	67	15	19	1	35	52.2
	医歯学総合研究科	320	15		3	18	5.6
	医学研究科	3			0	0	0.0
	連合農学研究科	102	10		3	13	12.7
計	532	43	19	9	71	13.3	
大学院 (専門職学位課程)	司法政策研究科	9	5	1	0	6	66.7
	臨床心理学研究科	31	4	1	0	5	16.1
	計	40	9	2	0	11	27.5

<備考:日本学生支援機構奨学金月額(平成27年度入学者)>

- 第一種奨学生
  - 学部生:自宅通学30,000・45,000円/自宅外通学 30,000・45,000円・51,000円
  - 大学院生:修士・博士前期課程 50,000・88,000円/博士後期課程80,000・122,000円
- 第二種奨学生
  - 学部生:30,000・50,000・80,000・100,000円・120,000円
  - 大学院生:50,000・80,000・100,000・130,000円・150,000円

■大学独自の経済支援制度

(1)鹿兒島大学学業成績優秀学生奨学金

学部学生の勉学意欲及び修学環境の向上並びに優秀な人材の輩出を図ることを目的として、平成23年度に設立されたもので、各学部において選考の上、推薦された、学業成績が特に優秀であり、かつ、人物的にも優れた学生(外国人留学生を含む)85名に対し、毎年度奨学金を給付している。

(2)種村完司私費外国人留学生奨学金

鹿兒島大学名誉教授で、元教育学生担当理事の種村完司氏からの寄付金を原資として、本学に在籍するアジア諸国からの私費外国人留学生を支援するために、平成22年7月に設立されたもの。出入国管理及び難民認定法別表第1の4の表に規定する「留学」の在留資格を有する者で、本学の学部及び大学院の正規課程に在籍する私費外国人留学生を対象として、毎年度5名の学生に支給している。

■附属学校

【教育学部附属幼稚園】

(平成27年5月1日現在)

附属幼稚園	入園定員	現 員				学 級 数
		3歳児	4歳児	5歳児	計	
	3年保育 20	20	35	35	90	3歳児、4歳児、5歳児 各1学級 計3学級
	2年保育 15					

(注)4歳児は3年保育進級児と2年保育入園児、5歳児は4歳児の進級児

【教育学部附属小学校】

(平成27年5月1日現在)

附属小学校	学級区分	入学定員	現 員						学 級 数	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		計
单式学級	1~4年	140	139	140	134	134			848	各学年4学級 計24学級
	5~6年	160					152	149		
複式学級	1年	8	8						47	1・2年で1学級
	2年	8		8						
	3年	8			8					3・4年で1学級 計3学級
	4年	8				7				
	5年	8					8			
6年	8						8	5・6年で1学級		
計	1~4年 148 5~6年 168		147	148	142	141	160	157	895	計27学級

【教育学部附属中学校】

(平成27年5月1日現在)

附属中学校	学級区分	入学定員	現 員				学 級 数
			1年	2年	3年	計	
	普通学級	200	199	198	198	595	各学年5学級 計15学級

【教育学部附属特別支援学校】

(平成27年5月1日現在)

附属特別支援学校	学級区分	入学定員	現 員						学 級 数	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		計
	小学部	3	3	2	3	3	3	3	17	1・2学年で1学級 3・4学年で1学級 計3学級 5・6学年で1学級
	中学部	6	6	7	6	-	-	-	19	各学年1学級 計3学級
	高等部	8	9	8	8	-	-	-	25	各学年1学級 計3学級



## ■特別経費(運営費交付金)

区 分	事 業 名	部局(実施主体)	平成27年度 運営費交付金予算額 (単位:千円)	事 業 期 間
高度な専門職業人の 養成や専門教育機能 の充実	大学院熱帯水産学国際連携プログラム推進のための機能強化	水産学部	14,264	平成27年度
大学の特性を生かした 多様な学術研究機能 の充実	難治性の慢性ウイルス疾患を対象とした医・理工連携による先端的発症予防・治療法確立を目指した基盤構築 －鹿児島県に多発するATL,HAM および、AIDS, ウイルス肝炎に対する新規発症予防・治療法の開発に向けて－	医歯学総合研究科	16,160	平成25～27年度
	高度動物発生工学・生物学を駆使した先進ミニブタを用いた前臨床研究開発・研究者養成拠点形成 －鹿児島大学発信トランスレーショナル先端研究推進プロジェクト－	医用ミニブタ・先端医療開発研究センター	32,329	平成26～27年度
地域貢献機能の充実	南九州から南西諸島における総合的防災研究の推進と地域防災体制の構築 ※	地域防災教育研究センター	0	平成24～27年度
	薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点形成	理工学研究科	27,400	平成27年度
	増養殖環境保全のための赤潮モニタリングおよび対策法の高度化 －南九州における赤潮研究拠点の構築－	水産学部	20,400	平成25～27年度
教育研究組織の再編 成等を見据えた構想 プロジェクト	地域再生の中核的人材の養成とグローバル化に対応した教育研究体制の構築 －新法文学部への改編と新専攻を核とした研究科の改編－	法文学部	10,192	平成27年度
教育関係共同実施分	鹿児島の自然環境と100年の森林から学ぶ森林・環境・防災教育拠点機能の充実	農学部附属演習林	10,165	平成27～30年度
	かごしま丸の熱帯・亜熱帯水域洋上教育共同利用拠点機能の高度化	水産学部 附属練習船かごしま丸	5,125	平成27～31年度

※ 平成25年度運営費交付金(復興関連事業)追加交付により、90,000千円(平成26～27年度分)が措置されている。

■リポジトリ

(平成27年3月31日現在)

学 部 等	論 文 数
法 文 学 部	945
教 育 学 部	1,885
理 学 部	592
歯 学 部	242
工 学 部	993
農 学 部	2,431
水 産 学 部	1,032
医 学 部	41
共 同 獣 医 学 部	13
人 文 社 会 学 研 究 科	78
理 工 学 研 究 科	716
医 歯 学 総 合 研 究 科	564
保 健 学 研 究 科	8
司 法 政 策 研 究 科 (法 科 大 学 院)	2
臨 床 心 理 学 研 究 科 (専 門 職 大 学 院)	5
連 合 農 学 研 究 科	355
学 内 共 同 教 育 研 究 施 設 等	1,473
連 合 獣 医 学 研 究 科 (基 幹 校: 山 口 大 学)	5
医 学 部 ・ 歯 学 部 附 属 病 院	45
教 養 部 (1965.4-1997.3)	23
関 連 学 会 等	398
計	11,846



■学術刊行物

学 部	刊 行 物	発 行 回 数
法 文 学 部	鹿児島大学法文学部紀要(法学論集、経済学論集、人文学科論集)	年 2 回
	鹿児島大学法文学部国語国文学会誌(国語国文薩摩路)	年 1 回
	鹿大史学会誌(鹿大史学)	年 1 回
	地域政策科学研究	年 1 回
	Discussion Papers In Economics and Sociology	不 定 期
教 育 学 部	鹿児島大学教育学部研究紀要(人文・社会科学編、自然科学編、教育科学編)	年 1 回
	鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属幼稚園研究誌	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属小学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属中学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校研究紀要	隔 年 1 回
理 学 部	鹿児島大学理学部紀要	年 1 回
医 学 部	鹿児島大学医学雑誌	ネット上で随時更新
	鹿児島大学医学部保健学科紀要	年 1 回
歯 学 部	鹿児島大学歯学部紀要	年 1 回
工 学 部	鹿児島大学工学部研究報告	年 1 回
農 学 部	鹿児島大学農学部学術報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場研究報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場技術調査報告書	不 定 期
	鹿児島大学農学部農場年報	年 1 回
	鹿児島大学農学部演習林研究報告	年 1 回
水 産 学 部	鹿児島大学水産学部紀要	年 1 回
国際島嶼教育研究センター	南太平洋研究	年 2 回
	南太平洋海域調査研究報告	不 定 期
	島嶼研だより	年 2 回
	South Pacific Newsletter	年 1 回
保 健 管 理 セ ン タ ー	年報	年 1 回
留 学 生 セ ン タ ー	紀要	年 1 回
総 合 研 究 博 物 館	鹿児島大学総合研究博物館研究報告	不 定 期
	鹿児島大学総合研究博物館モノグラフ	不 定 期
	鹿児島大学総合博物館ニューズレター	年 3 回
	年報	年 1 回
学 術 情 報 基 盤 セ ン タ ー	年報	年 1 回
生 涯 学 習 教 育 研 究 セ ン タ ー	年報	年 1 回
産 学 官 連 携 推 進 セ ン タ ー	鹿児島大学産学官連携推進センター 活動実績報告書	年 1 回
	研究シーズ集	隔 年 1 回
教 育 セ ン タ ー	年報	年 1 回
稲 盛 ア カ デ ミ ー	鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要	年 1 回
自 然 科 学 教 育 研 究 支 援 セ ン タ ー	動物実験施設年報	年 1 回
	遺伝子実験施設年報	年 1 回
	機器分析施設年報	年 1 回

教育・研究・社会貢献活動

■協 定

協 定 名	協 定 締 結 年 月 日
与論町地域再生計画に伴う旧与論町立診療所の施設設備等の活用に係わる施設の賃貸借料に関する協定	平成17年 2月14日
社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携協力協定	平成17年10月21日
鹿児島県酒造組合との包括連携協力協定	平成18年 3月 9日
奄美市との包括連携協定	平成18年 3月13日
日本政策投資銀行との連携協定	平成18年 5月31日
鹿児島市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成19年11月30日
株式会社鹿児島銀行と国立大学法人鹿児島大学との農業経営管理システム開発事業に関する連携協定	平成20年11月28日
社団法人鹿児島青年会議所と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成20年12月26日
垂水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年 1月27日
財団法人横浜企業経営支援財団との産学官連携に関する基本協定	平成21年 5月28日
国立大学法人鹿児島大学と九州森林管理局との九州の林業再生のための必要な人材育成等に関する協定	平成21年10月29日
出水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年12月21日
伊仙町、国立大学法人鹿児島大学及び社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携に関する協定	平成22年 3月30日
平川動物公園及びかごしま水族館を活かした地域活性化プロジェクト推進に係る産学官連携協定	平成22年 8月 9日
大崎ものづくり会館の施設使用に関する協定	平成23年 6月24日
薩摩川内市と国立大学法人鹿児島大学との次世代エネルギーに関する協定	平成24年 5月 7日
南さつま市と国立大学法人鹿児島大学との健康長寿のまちづくり推進事業に関する連携協定	平成24年 7月27日
国立大学法人鹿児島大学と独立行政法人水産総合研究センターとの包括連携に関する協定	平成25年 9月27日
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携協定	平成26年 6月23日
鹿児島県と国立大学法人鹿児島大学の動物疾病制御及び関連分野に係る相互連携に関する協定	平成26年 7月 3日
特定非営利活動法人 NPO 造士館講座と国立大学法人鹿児島大学との連携協定	平成26年 7月 7日
株式会社鹿児島銀行及び野村證券株式会社との産学連携業に関する連携協定	平成26年 9月26日
奄美群島広域事務組合との包括連携協定	平成26年11月28日

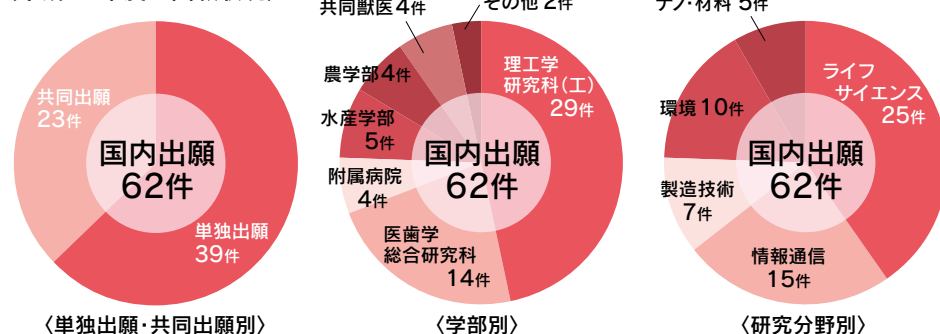
■寄附講座

部 局 名	講 座 名	設 置 期 間	寄 附 者 名	主 な 研 究 内 容 等
医歯学総合研究科	医療関節材料開発講座	平成18年6月1日～平成28年5月31日	京セラメディカル(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人工股関節の開発</li> <li>●人工骨頭手術におけるQOL評価</li> <li>●最小侵襲手術手技(MIS)の確立と器具の開発、間接潤滑、骨吸収、骨形成、軟骨再生</li> <li>●軟骨分化</li> </ul>
	システム血栓制御学講座	平成27年4月1日～平成32年3月31日	(株)バイオメディカルインターフェース 薬糧開発(株) (株)ドクターズチョイス (株)シノテスト 藤森工業(株) (株)メディカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●血栓症の発症機構とその制御法の基礎的、臨床的研究</li> <li>●血栓傾向、血栓症準備状態の診断技術・方法の開発と確立</li> <li>●陽子線治療の総合的研究                             <ol style="list-style-type: none"> <li>1.陽子線治療法により有効な利用法の開発(増感と副作用軽減方策の研究など)</li> </ol> </li> <li>●伝統医学のサイエンス化</li> <li>●糖代謝と炎症・免疫系のクロストロークの研究</li> <li>●創薬に至る前の機能性食品の開発</li> </ul>
	近未来運動器医療創生学講座	平成23年6月1日～平成29年5月31日	医療法人くすのき会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●腫瘍幹細胞の解明と治療への応用</li> <li>●脊髄再生医療</li> </ul>
	分子応用外科学講座	平成23年7月1日～平成29年6月30日	中外製薬(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●消化器癌における血中遊離癌細胞の検出</li> <li>●微小癌細胞の基礎および臨床研究</li> </ul>
	HGF組織修復・再生医療学講座	平成25年4月1日～平成30年3月31日	エーザイ(株) (株)ミノファージェン製薬	<ul style="list-style-type: none"> <li>●HGFによる難治性疾患動物モデルに対する組織修復および再生促進作用に関する研究およびHGFによる難治性疾患の新規治療法の開発</li> </ul>

教育・研究・社会貢献活動

■知的財産管理状況

〈平成26年度 出願状況〉



〈平成26年度末 特許保有件数〉

	登録済	出願中	合計
国内	227	175	402
外国	75	146	221

〈平成26年度 ライセンス・譲渡実績〉

	新規件数	金額(千円)
特許	5	57,266
商標	2	733
ソフトウェア	1	368
ノウハウ	2	108
マテリアル	0	0
<b>合計</b>	<b>10</b>	<b>58,476</b>

※ 千円未満四捨五入により作成

■平成26年度鹿児島大学公開講座

講座名	学部等	開催期間	代表者	受講対象者	開催場所
いまさら聞けない!NISAの基礎知識	法文学部	平成26年8月3日	王 鏡凱 准教授	社会人	かごしま県民交流センター パソコン研修室1
鹿児島・地域研究の最前線	法文学部	平成26年12月13日	丹羽 謙治 教授	一般社会人 (高校生も受講可)	鹿児島大学法文学部1号館101号講義室
楽しい合唱表現一発声法の基礎から学ぶー	教育学部	平成26年5月29日~6月19日	齊藤 祐 教授	県民一般社会人	かごしま県民交流センター県民ホール
授業に活かすコンピュータとインターネット	教育学部	平成26年8月5日	森下 孟 講師	現職教員を中心とした教育関係者	鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター
教育臨床セミナー	教育学部	平成26年8月6日, 8月7日	関山 徹 准教授	現職教員を中心とした教育関係者	鹿児島大学 (都元キャンパス)
ICT活用教育実践セミナー	教育学部	平成26年8月19日	森下 孟 講師	CT活用教育に興味・関心のある教育関係者	鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター
新聞を活かす教育	教育学部	平成26年12月20日	上谷 順三郎 教育学部副学部長	教育関係者等	教育学部第一講義棟103号教室
宇宙艦艦ヤマトに見る物理と天文II	理学部	平成26年6月28日	半田 利弘 教授	一般市民・高校生以下 (希望すれば中学生以下でも可)	かごしま県民交流センター東館3階大研修室2
理学療法士・作業療法士のためのやさしい生体力学	医学部	平成26年6月14日, 28日	大渡 昭彦 助教	理学療法士, 作業療法士など	医学部保健学科 研究棟2階 運動療法実習室
"最期までその人らしく"を支えるケア -ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム-	医学部	平成26年7月19日, 7月20日	清水 佐智子 准教授	看護師	鹿児島大学医学部 鶴陵会館中ホール
看護研究の基礎およびデータ解析入門	医学部	平成26年7月26日	吉留 厚子 教授	看護職	鹿児島大学医学部保健学科研究棟(桜ヶ丘)601教室
Active Aging -リハビリテーションからケアまで-	医学部	平成26年8月3日	富田 隆司 助教	医師, 看護師, 理学療法士, 作業療法士, 言語聴覚士, 介護士など	鹿児島大学病院鶴島リハビリテーションセンター
中堅助産師のためのステップアップ研修	医学部	平成26年8月25日, 9月9日, 9月10日, 9月25日	吉留 厚子 教授	中堅助産師	鹿児島大学医学部保健学科5階 601号室
筋萎縮性側索硬化症(ALS)療養者の在宅支援	医学部	平成26年8月30日	中保 直美 講師	看護師, 保健師, 介護支援専門員等	桜ヶ丘キャンパス 保健学科研究棟601号教室
高齢者に対する運動と介助法について	医学部	平成26年8月30日	吉元 洋一 教授	医療従事者・福祉関係者・一般市民	保健学科2階 運動療法実習室
リハビリテーションを目指すケアー "最期までその人らしく"を支える	医学部	平成26年9月27日	丹羽 さよ子 教授	看護職	鹿児島大学医学部保健学科
すい臓がんでどんな病気?	医学部	平成26年12月7日	新地 洋之 教授	一般市民	かごしま県民交流センター
バイオ研究が切り開く先端医療への道	歯学部総合研究科	平成26年7月19日	小眠 健一郎 教授	高校生から大学生・一般社会人	鶴陵会館ウィリアム・ウィルスホール
歯の欠損を補う口腔インプラント治療の基本	歯学部	平成27年2月8日	西村 正宏 教授	歯科医師, 歯科衛生士, 歯科技工士, 看護師	姶良郡歯科医師会館口腔保健センター
ジュニア陸上教室 1期 (小学生)	工学部	平成26年4月12日~8月末	塗木 淳夫 准教授	基本コース(小学1~6年生), 育成コース(小学5~6年生)	鹿児島大学 グラウンド及び講義室など
ジュニア陸上教室 1期 (中学生)	工学部	平成26年4月1日~8月末	塗木 淳夫 准教授	中学1年生~3年生	鹿児島大学 グラウンド及び講義室など
ジュニア陸上教室 2期 (中学生)	工学部	平成26年9月1日~12月末	塗木 淳夫 准教授	中学1年生~3年生	鹿児島大学 グラウンド及び講義室など
ジュニア陸上教室 2期 (小学生)	工学部	平成26年9月11日~12月20日	塗木 淳夫 准教授	基本コース(小学1~6年生), 育成コース(小学5~6年生)	鹿児島大学 グラウンド及び講義室など
ランニング女性トップアスリート養成講座	工学部	平成26年8月18日~3月末	塗木 淳夫 准教授	ランニング女性トップアスリート(3000mを10分以内のレベルの方, 学生不可)	鹿児島大学 グラウンド及び講義室など
第3期 ランニングの実践と科学	工学部	平成26年10月25日~平成27年3月21日	塗木 淳夫 准教授	健康で週に1回以上のランニング習慣のある方でランニングに関する座学にも興味のある方	鹿児島大学 グラウンド及び講義室など
ジュニア陸上教室 3期 (小学生)	工学部	平成27年1月10日~平成27年3月21日	塗木 淳夫 准教授	基本コース(小学1~6年生), 育成コース(小学5~6年生)	鹿児島大学 グラウンド及び講義室など
ジュニア陸上教室 3期 (中学生)	工学部	平成27年1月5日~平成27年3月末	塗木 淳夫 准教授	中学1年生~3年生	鹿児島大学 グラウンド及び講義室など
森林環境教育ワークショップinたかくま	農学部	平成26年8月2日~8月4日(2泊3日)→延期	井倉 洋二 准教授	教員および森林環境教育に関心のある方	農学部附属高隈演習林
発見!体感!本物の海藻を見てさわって食べて、「海の森」図鑑をつくろう	水産学部	平成26年7月20日, 7月27日	寺田 竜太 准教授	小学校5, 6年生	水産学部5号館学生実験室1-1・1-2
動物の生命(いのち)と人との係わり	共同獣医学部	平成26年11月15日(大学祭に合わせて開催)	高瀬 公三 教授	一般市民	農・獣医共通棟 101 講義室 (予定)
鹿児島の医療を支える看護を考える -シームレスケアを目指して-	附属病院	①平成26年7月12日 ②平成26年10月18日	向 窪 世知子 看護部長	看護職	①鹿児島大学病院医学部 第5講義室 ②鹿児島大学医学部 歯学部附属病院
夏休み体験学習「放射線ってどんなもの?」	自然科学教育研究支援センター	平成26年8月6日	福徳 康雄 准教授	小・中学生・保護者・教員	鹿児島大学自然科学教育研究支援センターアイソトープ実験施設
祭祀遺跡の考古学	埋蔵文化財調査センター	平成26年8月2日	新里 貴之 助教	高校生~一般	鹿児島大学共通教育棟3号館312 講義室
多言語学びあい講座①(ポルトガル語) ー鹿児島市の多文化共生社会を目指してー	生涯学習教育研究センター	平成26年6月3日~8月5日 (毎週火曜日の全10回を予定)	酒井 佑輔 講師	誰でも参加可能	アジア国際図書館 (鹿児島市荒田1-3-18 上野ビル1F)
親子で冒険!かごしまの海2014	生涯学習教育研究センター	平成26年8月9日 → 延期 11/8	小栗 有子 准教授	親子(小学1年生以上, 乳幼児は乗船不可)	鹿児島大学水産学部キャンパス, 錦江湾 (練習船南星丸)
地域振興計画づくり(協和編その1)	生涯学習教育研究センター	平成26年12月16日(火)	小栗 有子 准教授	垂水市民, および県民一般	協和公民館
地域振興計画づくり(境編その1)	生涯学習教育研究センター	平成26年12月15日(月)	小栗 有子 准教授	垂水市民, および県民一般	境公民館
多言語学びあい講座②(ベトナム語) ー鹿児島市の多文化共生社会を目指してー	生涯学習教育研究センター	平成26年6月4日~7月30日 (隔週水曜日の全5回を予定)	酒井 佑輔 講師	誰でも参加可能	アジア国際図書館 (鹿児島市荒田1-3-18 上野ビル1F)
第4回「高校生のための進路相談会」(旧称:高校生のためのシンク相談会)	生涯学習教育研究センター	平成26年12月7日	酒井 佑輔 講師	高校生	サンエールかごしま4F 中研修室
鹿児島大学COC事業 第1回生涯学習公開セミナー 大学と地域の誇り場!島づくりを担う人の育成のために大学ができること・奄美群島を事例に!	生涯学習教育研究センター	平成27年2月22日(日)	小栗 有子 准教授	教育委員会関係者, 行政関係者, 離島関係者, 県民	鹿児島大学都元キャンパス 共通教育棟2号館212-213
第1回「かごしま生涯学習センター研究会」公開セミナー「鹿児島県の社会教育の仕事をする人の育成の現状とこれから」	生涯学習教育研究センター	平成27年2月23日(月)	小栗 有子 准教授	教育委員会関係者, 行政関係者, 県民	鹿児島大学都元キャンパス 共通教育棟2号館212-213
鹿児島大学公開授業特別編 課外活動 ~鹿大で学ぶことは楽しい!~①	生涯学習教育研究センター	平成27年2月24日	酒井 佑輔 講師	誰でも参加可能	鹿児島大学学習交流プラザ
鹿児島大学公開授業特別編 課外活動 ~鹿大で学ぶことは楽しい!~②	生涯学習教育研究センター	平成27年2月27日	酒井 佑輔 講師	誰でも参加可能	鹿児島大学学習交流プラザ
台湾との繋がりから考える鹿児島の多文化共生	生涯学習教育研究センター	平成27年3月23日	酒井 佑輔 講師	誰でも参加可能	鹿児島大学学習交流プラザ
第5回「高校生のための進路相談会」	生涯学習教育研究センター	平成27年3月29日	酒井 佑輔 講師	高校生	Tenon (鹿児島市中央町1-11 三州ビル)

教育・研究・社会貢献活動



## 奄美サテライト教室（奄美市）・徳之島サテライト教室（徳之島町）

平成16年度、全国にも例のない離島でのサテライト教室が奄美市（旧名瀬市）に設置された。離島地区に高度専門教育サービスを提供することを目的として、平成19年度には徳之島町にもサテライト教室が開設された。

科目等履修生を中心にした受講生とサテライト教室出身の正規大学院生が集まり、熱心な授業が継続的に行われている。特に、人文社会科学研究科では、サテライト独自の講義科目「奄美プロジェクト研究」を開設し、離島の受講生のキャリアアップに役立てるような講義テーマを設定している。



▲授業風景

## 大学地域コンソーシアム鹿児島

「大学地域コンソーシアム鹿児島」は、鹿児島県内12の高等教育機関が相互に連携・協力し、高等教育の質的向上を推進することにより、地域の教育および学術研究の充実・発展を図るとともに、魅力ある高等教育づくりと活力ある地域づくりに貢献することを目的として、平成21年1月6日に設立された。現在、「教育連携」「高大連携」「ICT活用」「FD・SD活動」「教員免許状更新講習」「産学官連携」「地域共同リポジトリ」の7事業部会を置き、活動を行っている。

### 〈構成大学等〉

鹿児島大学、鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、鹿児島純心女子大学、志学館大学、第一工業大学  
鹿児島県立短期大学、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学  
第一幼児教育短期大学、鹿児島工業高等専門学校、放送大学鹿児島学習センター



▲かごしまフィールドスクール



▲合同進学ガイダンス（写真の講師は志学館大学教員）

## 北米教育研究センター

アメリカ合衆国カリフォルニア州サンノゼ市に、海外拠点として北米教育研究センターを設置している。平成16年12月に設置されたベンチャービジネスラボラトリーシリコンバレーオフィスが平成20年9月に全学組織である北米教育研究センターへ発展させた。また、平成23年4月には、本学のブランチオフィスとしてカリフォルニア州における法人登記を行い、名実共に本学の米国ベイエリア地区における海外拠点としての体制を整えた。センターは(1)学生および教職員の教育および研修、(2)海外の大学および企業等との共同研究または共同事業の推進、(3)セミナー、フォーラム等に関すること、(4)大学間の連携による国際化推進活動等を主な業務とし、主に北米地区における教育、研究および社会貢献に係る国際活動を推進している。

センターでは、共通教育科目として「海外研修基礎コースinカリフォルニア」と「海外研修基礎コースinハワイ」を、学部向けの科目として「国際プロフェッショナル養成プログラム」を実施している。

一方、ベイエリア地区に拠点を置く日本の大学間のネットワークであるJUNBA(サンフランシスコ・ベイエリア大学間連携ネットワーク)での情報交換や共同事業などにも積極的に参加しており、本学の教育・研究活動の場が更に広がっている。



▲北米教育研究センターのあるビル



▲オフィスの様子

## フィリピン大学ビサヤス校リエゾン・オフィス

鹿児島大学水産学部のキャンパスに、同学部と学術交流協定を締結しているフィリピン大学ビサヤス校(UPV)の日本オフィスが平成18年4月に開設された。水産学部のフィリピン・オフィスは平成18年2月にUPVのミヤガオ・キャンパスに開設されており、平成19年12月には両者の協定は大学間協定に改定された。大学間協定大学とリエゾン・オフィスを相互に開設するのは、鹿児島大学としても初めてである。研究室と実験室を併設したオフィスには、フィリピンから採用された准教授が常駐していた時期もあり、水産資源管理や水圏環境の管理・保全に関する共同研究の拠点となっている。

水産学部は、平成10年度から「フィリピンにおける水産資源と水圏環境の管理と保全に関する研究」をテーマに、UPVと拠点大学方式による研究交流を行ってきた。さらに、平成20年度から「水圏環境の保全と管理」を主なテーマとした、アジア研究教育拠点形成という国際的な事業を行っている。その結果、研究交流が各教員レベルに根付いており大学院生の交流も活発化している。



▲フィリピン大学ビサヤス校



▲ビサヤス校ミヤガオ・キャンパス

## 稲盛アカデミーベトナム事務所

平成19年に鹿児島大学はベトナム社会主義共和国ハノイ市のベトナム社会科学院と学術交流協定を締結し、その後、ベトナムにおける教育研究及び社会貢献に係る国際活動を推進するために、ベトナム社会科学院から施設の提供を受けて、平成21年6月に稲盛アカデミーベトナム事務所が開設された。

ベトナム事務所には客員教授を配置し、(1)ベトナム社会主義共和国における本学の学生及び職員の教育、研究、研修等、(2)ベトナム社会主義共和国内の大学との共同研究、(3)ベトナム社会主義共和国学生の日本への留学支援、(4)その他ベトナム社会主義共和国における教育、研究及び社会貢献に係る国際活動を推進するなど、ベトナム教育研究交流活動を行っている。



▲この建物の11階に事務所が入っている

### 鹿兒島大学若手教員海外研修支援事業

次世代を担う若手教員の海外の教育研究機関等における研修を支援することにより教育研究能力等の向上を図り、本学の教育研究の国際的通用性・共通性の向上に資することを目的とする。(平成21年度より実施)

研修開始年度	部局名	研修先(国名)	研修題目
平成24年度 (研修人数11名)	教育学部	フランス	在欧洲日本古典籍の調査およびヨーロッパにおける古典教育の現状把握とその活用
	医学部	アメリカ	①大学院教育における小児看護教育領域の国際的通用性・共通性のある教授能力の向上 ②博士論文の継続研究「小児がんの子どもへの病名病状説明に対して親が抱く不確かさへの介入研究」に関する研究手法の獲得
	水産学部	スペイン アメリカ	生化学物質を使った動物プランクトン生産力の定量的測定法に関する研究
	理工学研究科(理学系)	イギリス	ボルネオ産植物標本の調査
	理工学研究科(工学系)	アメリカ	飽和や不感帯を有するむだ時間システムに対する最適制御
	歯学総合研究科(医学系)	ドイツ	法医解剖・法医実務の研究に関して多面的な分野からの知識・技術の習得(※平成23年度からの継続支援)
	臨床心理学研究科	スウェーデン	①マウスを用いた神経因性疼痛モデルの行動評価(慢性疼痛の基礎研究) ②慢性疼痛への心理学的介入モデルとしてのSelf-control 理論の国際比較(慢性疼痛の臨床研究)
	医学部・歯学部附属病院	スイス	天然歯およびインプラント周囲の骨欠損における各種生体材料および治療法の効果に関する研究(※平成23年度からの継続支援)
		イギリス	①医学教育の理論と実践に関する研究およびその歯科医学教育へ応用 ②世界医学教育連盟のグローバルスタンダードから鑑みる歯科医学教育のグローバルスタンダード
	国際連携推進センター	イギリス	国際開発研究、グローバル・スタディーズ
平成25年度 (研修人数5名)	教育学部	アメリカ	テクノロジーリテラシー教育の調査と人的ネットワークの構築(※北米教育研究センター募集分)
	教育学部	ドイツ	ドイツにおけるボールゲーム指導の現状と課題に関する研究-Ballschule実践のフィールド調査を通じて-
	医学部	アメリカ	中枢神経障害後のよりよい機能回復を促進する治療法の検討
	理工学研究科(理学系)	ドイツ・フランス	鉱物のナノスケール微細組織解析方法の習得
	理工学研究科(工学系)	オランダ	沿岸域を対象とした凝集性微細懸濁物質輸送モデルの高精度化
歯学総合研究科(歯学系)	アメリカ	酸化ストレス下におけるマンガンスーパーオキシドディスムターゼ(MnSOD)の修飾	
平成26年度 (研修人数5名)	教育学部	イギリス	含鉄長石の結晶構造に関する研究
	理工学研究科(理学系)	フランス	イオン液体の基礎物性・応用に関する共同研究
	理工学研究科(工学系)	イギリス	斜陽産業都市における持続可能な居住地のプランニングとデザインに関する研究
	歯学総合研究科(医学系)	ドイツ・イタリア	神経内視鏡を用いた頭蓋底外科手術・脊椎脊髄外科手術、脳幹の神経モニタリングに関する知識・技術の習得
医学部・歯学部附属病院	カナダ	新生仔ブタモデルを用いた小児腸管不全の病態解明および治療法の研究	

### 鹿兒島大学学生海外研修支援事業

大学憲章に基づき、自主自律と進取の精神を併せ持ち、かつ社会の発展に貢献し、国際社会で活躍できる人材の育成を図るため、本学で実施する学生の海外研修を支援することを目的とする。(平成22年度より実施)

(平成26年度実績)

申請者	期別	授業科目名	授業担当者部局	支援人数	研修期間(自)	研修期間(至)	日数	派遣国
教育センター長	前期	太平洋島嶼学特論	国際島嶼教育研究センター	6	H26.9.7	H26.9.13	7	ミクロネシア連邦・グアム(米国)
教育センター長	前期	進取の精神海外研修 in ベトナム	稲盛アカデミー	11	H26.8.24	H26.8.31	8	ベトナム
教育センター長	前期	南米における進取の気風研修計画	生涯学習教育研究センター	4	H26.8.24	H26.9.10	18	ブラジル
教育センター長	前期	海外研修基礎コース in カリフォルニア	北米教育研究センター	24	H26.9.13	H26.9.23	11	米国
教育センター長	前期	グローバル人材育成(NZ)	国際連携推進センター	12	H26.8.29	H26.9.20	23	ニュージーランド
教育センター長	前期	北米におけるグローバル人材育成	国際連携推進センター	11	H26.9.7	H26.9.27	21	米国
教育センター長	前期	国際協力体験講座-東南アジアファームステイ-	農学部	11	H26.9.3	H26.9.12	10	タイ
				14	H26.9.12	H26.9.21	10	ミャンマー
教育センター長	前期	持続可能な社会を目指す海外実践研修	理工学研究科	4	H26.9.14	H26.9.21	8	インドネシア
教育センター長	後期	共生のためのフェアトレードII バングラデシュ海外研修	国際連携推進センター	8	H26.12.19	H26.12.31	13	バングラデシュ
教育センター長	後期	グローバル人材育成(雲南)	農学部	8	H26.11.14	H26.11.25	12	中国
教育センター長	後期	グローバル人材育成(タイ)	水産学部	5	H27.2.14	H27.2.22	9	タイ
教育センター長	後期	海外研修基礎コース in ハワイ	北米教育研究センター	15	H27.2.12	H27.2.22	11	米国(ハワイ)
教育センター長	後期	海外研修基礎コース in 東南アジア	北米教育研究センター	6	H27.2.26	H27.3.8	11	シンガポール
教育センター長	後期	海外研修基礎コース in バリ島	法文学部	13	H27.3.13	H27.3.23	11	インドネシア
法文学部長	前期	国際プロフェッショナル養成プログラム(海外短期留学1)	法文学部	5	H26.8.30	H26.9.23	25	米国
法文学部長	前期	フィールド学実習(文化人類学)	法文学部	14	H27.8.31	H27.9.4	5	韓国
法文学部長	前期	ヨーロッパ社会・文化研修	法文学部	4	H26.9.9	H26.9.26	18	ドイツ・ベルギー・オーストリア
法文学部長	前期	フィールド実習(インドネシア)	法文学部	7	H26.9.1	H26.9.8	8	インドネシア
法文学部長	後期	フィールド実習(ドイツ)	法文学部	12	H26.10.20	H26.10.31	12	ドイツ
教育学部長	前期	国際理解教育調査研究I	教育学部	8	H26.8.17	H26.8.22	6	韓国
農学部長	前期	臨床獣医学特別研修(米国)	共同獣医学部	6	H26.8.15	H26.9.1	18	米国
農学部長	前期	臨床獣医学特別研修(台湾)	共同獣医学部	1	H26.8.2	H26.8.16	15	台湾
農学研究科長	前期	国際協力農業体験講座特論	農学研究科	1	H26.9.3	H26.9.12	10	タイ
農学部長・農学研究科長	前期	海外森林・林業事情特論・国際森林論・森林科学演習	農学部・農学研究科	11	H26.9.6	H26.9.16	11	ドイツ
水産学部	前期	実用水産英語(海外研修)	水産学部	10	H26.8.11	H26.8.27	17	フィリピン
水産学研究科長	後期	Advanced Lecture(海外 on Tropical Fisheries)	水産学研究科	2	H26.10.11	H26.10.23	13	フィリピン
医学部長	前期	国際看護学	医学部	6	H26.8.30	H26.9.4	6	韓国
保健学研究科長	前期	助産学特論	医学部	2	H26.8.30	H26.9.4	6	韓国
合計				241				



■鹿児島大学学生海外学会発表支援事業

大学憲章に基づき、自主自律と進取の精神を併せ持ち、かつ社会の発展に貢献し、国際社会で活躍できる人材の育成を図るため、海外で研究発表を行う学生を支援することを目的とする。(平成26年度より実施)

(平成26年度実績)

申請者所属部局	学 年	支援人数
工 学 部	電気電子工学科4年	2名
理 工 学 研 究 科	博士前期課程1年	9名
理 工 学 研 究 科	博士前期課程2年	9名
理 工 学 研 究 科	博士後期課程2年	1名
理 工 学 研 究 科	博士後期課程3年	2名
医歯学総合研究科	博士課程3年	1名
医歯学総合研究科	博士課程4年	1名
合 計		25名

■外国へ留学した学生数

		平成24年度	平成25年度	平成26年度
短期派遣留学	大学間学術交流協定校	7	5	11
	部局間学術交流協定校	6	5	4
鹿児島大学学生海外研修支援事業		181	230	241
トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム				6(5)
そ の 他 ( 個 人 留 学 等 )		33	49	49
合 計		227	289	311(310)

※( )内は、トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラムの留學生数のうち学術交流協定校への留學生数を除いた数を示す。

■日本学術振興会採択事業

事業名	課題	事業期間	実施主体部局	概要
頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム	糖鎖に基づくウイルス感染症および癌の検査診断法と治療薬の開発研究による人材育成	平成25～27年度	理工学研究科(工)	本事業は、糖鎖に基づくウイルス感染症や癌に対する検査診断法・治療薬開発の国際共同研究に若手研究者を主体的に参加させることによって、困難に自ら挑戦する「進取の気風」をもった次世代を担う人材を養成するものである。 本研究では(i) Dengue熱ウイルスの検査診断法と抗ウイルス薬の開発;(ii) ウイルスベクターの改良;(iii) HTLV-1感染により起こる成人T細胞白血病(ATL)細胞表面の糖鎖解析とそれに基づくATLの治療薬・検査薬の開発;(iv) 抗HBV(B型肝炎ウイルス)薬の開発を国際共同研究として行っている。なお、すべての派遣若手研究者は、まずインドネシアでの疫学研究に従事し、本事業の重要性を認識し、モチベーションを高く持って各派遣先で最先端研究に従事する。

■留學生交流支援制度(短期派遣・受入れ)

留學生交流支援制度(短期派遣) 日本の大学等と諸外国の高等教育機関との學生交流に関する協定等に基づいて、在籍大学等に在籍したま1年以内の期間、在籍大学等が実施する派遣プログラムに参加する學生に対し、独立行政法人日本學生支援機構が奨学金を支給するもの。

留學生交流支援制度(短期受入れ) 日本の大学等と諸外国の高等教育機関との學生交流に関する協定等に基づいて、諸外国の大学等に在籍したま1年以内の期間、受入れ大学等が実施する受入れプログラムに参加する學生に対し、独立行政法人日本學生支援機構が奨学金を支給するもの。

(平成26年度実績)

プログラム区分	プログラム名	国または地域	人数	プログラム開始日	プログラム終了日
派遣	進取の気風育成派遣留学プログラム	ドイツ、フランス、スウェーデン、オーストラリア、フィリピン、タイ、中国、韓国、台湾	13	H26.4.1	H28.2.28
派遣	ニュージーランドにおけるグローバル人材育成プログラム	ニュージーランド	9	H26.8.29	H26.9.20
派遣	北米におけるグローバル人材育成プログラム	アメリカ合衆国	9	H26.9.7	H26.9.27
派遣	第4回南米における進取の気風研修計画	ブラジル	3	H26.8.24	H26.9.10
派遣	共生のためのフェアトレード、バングラデシュ研修	バングラデシュ	8	H26.12.19	H26.12.31
派遣	鹿児島大学グローバル人材育成(雲南農業大学、派遣)	中国	7	H26.11.15	H26.11.23
派遣	国際水準を満たす臨床獣医学教育のための研修派遣プログラム	アメリカ合衆国	4	H26.8.15	H26.8.31
派遣	水産分野の東南アジアにおける国際連携人材育成プログラムの推進(派遣)	フィリピン	8	H26.8.13	H26.10.22
派遣	海外の森林・林業とフォレスタラー研修プログラム	ドイツ	13	H26.9.6	H26.9.15
派遣	全学的カリキュラムとして実施する国際プロフェッショナル人材育成プログラム	アメリカ合衆国、シンガポール	46	H26.8.30	H27.3.8
派遣	ドイツにおける持続型循環エネルギーシステム研修プログラム	ドイツ	9	H26.10.20	H26.10.31
派遣	海外派遣による渉外的法的思考能力を身につけた學生の育成	カナダ	5	H26.9.9	H26.9.16
派遣	ポーダレス獣医学教育を目指したアジア獣医学教育体験研修プログラム	台湾	1	H26.8.3	H26.8.14
受入	アジアにおける神経科学の共同研究体制形成に向けた人材養成	中国、インドネシア	4	H26.10.1	H27.9.30
受入	水産分野の東南アジアにおける国際連携人材育成プログラムの推進(受入)	タイ	5	H26.5.7	H26.6.15
受入	ポーダレス獣医学を目指したアジア獣医学系大学の學生受け入れ研修プログラム	台湾	2	H26.7.1	H26.7.31
受入	鹿児島大学スタディ・ジャパン・プログラム	中国、韓国、台湾、ラトビア、オーストラリア、ドイツ	38	H26.8.1	H27.9.30
派遣・受入	「地域を学び合う」日仏短期交換プログラム	フランス	4	H26.9.4	H27.9.30

■大学間学術交流協定校(20カ国・地域、66機関)

(平成26年度実績)

国・地域	締結機関名	締結年月日	受入数	派遣数	共同研究
中国	湘潭大学	1986年12月11日	6 (6)		
	雲南農業大学	1989年5月11日	19 (9)	11 (8)	1
	湖南農業大学	1989年6月2日	11 (3)	3 (1)	3
	中南大学	1993年6月15日			2
	中国医科大学	1993年9月13日	4 (4)		3
	湖南大学	1995年8月23日	1 (1)		
	南京工業大学	1999年9月14日	1 (1)		
	東北師範大学	2001年11月13日	1 (1)		
	中国人民大学	2002年7月1日		2	
	東北大学	2004年12月3日	5 (5)		
	重慶大学	2006年5月22日			
	中国社会科学院日本研究所	2006年7月4日			
	首都経済貿易大学	2013年3月1日		1 (1)	
韓国	華東政法大学	2013年10月10日	2 (2)		
	山東師範大学	2009年12月24日	2 (2)	2 (1)	
	釜慶大学	1995年7月6日	4 (4)	7 (6)	
	全北大学	1997年4月22日	2 (2)	27 (25)	
	群山大学	2002年1月23日	2 (2)		
	済州大学	1998年1月30日	4 (4)	4 (2)	
	群山看護大学	2000年8月30日			
	江陵原州大学	2001年2月8日	30 (22)	11 (10)	
	江原大学	2002年4月5日	3 (3)		2
	公州大学	2004年10月18日	1 (1)		
インド	木浦大学	2012年8月7日	3	4	
	祥明大学	2013年5月13日	5 (4)	1 (1)	
インドネシア	カルナタカ国立工科大学	2005年3月23日	4	6 (3)	1
	アングララ農科大学	2003年12月1日	8		1
	ボゴール農科大学	2010年6月4日		2 (1)	1
	テイボネゴロ大学	2010年6月30日	6 (6)	2 (1)	1
バングラデシュ	バンドン工科大学	2010年11月22日	2 (2)		
	パティムラ大学	2014年3月25日		5	
マレーシア	ダツカ大学	2013年12月24日		11 (10)	
	バングラデシュ農業大学	2014年12月27日			
	マレーシアアトレンガヌ大学	2005年4月22日	3	7	
	マレーシアサバ大学	2009年3月4日	3		
台湾	マレーシアアブトラ大学	2010年3月16日			
	マレーシア国際イスラム大学	2013年10月29日		1	
	淡江大学	2005年11月5日	2 (2)	10 (5)	
タイ	国立高雄海洋科技大学	2008年2月29日	6		
	国立中興大学	2009年4月1日	3 (3)	2 (2)	
	メジョー大学	2001年4月30日	2 (2)	13 (11)	
	カセサート大学	2008年7月1日	11 (1)	11 (7)	
	スラナリ工科大学	2009年4月17日	6 (1)	1 (1)	1
フィリピン	国立モンクット王トンプリ工科大学	2002年1月16日		6 (4)	
	フィリピン大学	2007年12月12日	9	44 (24)	1
ベトナム	アンジャン大学	2013年8月7日			
	ベトナム国家農業大学	2002年3月6日	1	5	
	ハノイ貿易大学	2002年12月25日		5	
南太平洋12カ国・地域	ベトナム社会科学学院	2007年5月23日		19 (11)	
オーストラリア	南太平洋大学	1982年7月21日	2		
	パプアニューギニア大学	1987年5月29日			
アメリカ合衆国	ニューイングランド大学	1995年7月20日	2 (2)	2	
	シドニー工科大学	2000年3月1日	1 (1)	1 (1)	
	ジョージア大学	1979年11月29日	1	15 (7)	
	マイアミ大学	1992年11月30日			1
	グアム大学	2006年4月5日		7 (6)	
	アルフレッド大学	2006年11月8日			
	西ジョージア大学	2007年5月23日		3	
スペイン	サンノゼ州立大学	2012年4月23日		34 (30)	
	ノースダコタ州立大学	2014年1月15日	2	19 (11)	
	バレンシア工芸大学	2000年2月7日		4 (2)	
スロバキア	スロバキア農業大学	2015年5月1日	4		
スウェーデン	リンシェーピング大学	2010年6月11日		2 (1)	
トルコ	アンカラ大学	2012年12月10日	5 (5)		
ブラジル	サンカルロス連邦大学	2011年8月19日		5 (4)	
エジプト	カフルアッシャイフ大学	2011年9月5日	6 (2)	1	1

(注)受入数・派遣数欄の( )は、学生交流数で内数。

■部局間学術交流協定校(20カ国・地域、52機関)

(平成26年度実績)

国・地域	締結機関名	締結年月日	受入数	派遣数	共同研究
法 文 学 部					
ド イ ツ	ミュンヘン大学東アジア研究部日本センター	2003年10月29日	3 (2)	20 (17)	
韓 国	釜山大学校社会科学大学	2007年3月8日	1 (1)	17 (13)	
中 国	長江師範大学外国語学院	2012年3月26日	2 (2)		
フ ラ ン ス	レンヌ第2-オート・ブルターニュ大学舞台芸術学部	2010年7月1日	3 (3)	4 (4)	
教 育 学 部					
台 湾	国立台北教育大学	2012年4月1日	1 (1)	8 (3)	
ド イ ツ	ボン大学哲学部	2006年9月26日	4 (4)	1 (1)	
韓 国	韓国外国語大学校日本語大学	2013年1月22日	1 (1)	1 (1)	
フ ラ ン ス	国立障害者教育指導方法高等研究所	2013年9月24日			
教育学部附属中学校					
台 湾	台北市立大直高級中学校	2013年12月16日		3	
理 学 部					
インドネシア	インドネシア科学院生物学研究センター	2006年2月20日	2	11 (3)	6
ナイジェリア	インドゥフ・アリケ・イクウォ連邦大学理工学部 ナイジェリア大学物理科学部	2014年3月28日 2014年4月1日			
医 学 部					
韓 国	中央大学校赤十字看護大学	2012年11月15日	7 (6)	10 (8)	
医学部・歯学部附属病院					
韓 国	韓国中央大学病院	2015年1月28日	4	4	
歯 学 部					
インドネシア	国立アイルランガ大学歯学部	2012年11月19日	3 (1)	1	
モンゴル	国立モンゴル医科大学歯学部	2014年1月13日			
	国立モンゴル医科大学生命医科学部	2014年1月13日			
カナダ	ブリティッシュコロンビア大学歯学部	2014年11月17日			
ミャンマー	ヤンゴン歯科大学	2014年10月30日		1	
	マンダレー歯科大学	2014年10月30日		1	
工 学 部					
タ イ	チュラロンコン大学石油及び石油化学研究科	2000年7月28日		1	
農 学 部					
タンザニア	ソコイネ農科大学	1999年8月30日			
台 湾	中国文化大学農学院	2012年10月3日			
中 国	四川大学錦江学院醸造工学部	2011年12月16日	4 (4)		
ド イ ツ	ロツテンブルク林業大学	2013年11月5日		13 (11)	
水産学部					
韓 国	韓国海洋研究所	2001年9月28日			
	大連海洋洋大学	2003年10月21日	3 (2)		1
	上海海洋洋大学	2011年10月24日	7 (2)	13 (5)	
	浙江海洋洋学院	2011年4月5日			
	中国国家海洋局第2研究所	2014年10月9日			
タ イ	東南アジア漁業開発センター	2003年12月3日		23 (18)	
インドネシア	ハサヌディン大学海洋科学水産学部	2007年11月17日			
	サムラトランギ大学水産海洋科学部	2011年2月8日	4		
台 湾	国立台湾海洋大学	2010年7月15日			
ベトナム	カントー大学水産・養殖学部	2009年5月25日		1	
フィリピン	サンカルロス大学文理学部	2012年5月30日			
エリトリア	海洋科学技術大学	2011年4月30日			
スベイン	アリカンテ大学	2012年3月28日			
大学院国際連携プログラム の形成のための包括協定	サムラトランギ大学(インドネシア) フィリピン大学ヴィサヤス校(フィリピン) カセサート大学(タイ) トレンガヌ大学(マレーシア)	2014年8月19日			
共同獣医学部					
バングラデシュ	チッタゴン獣医動物科学大学	2001年9月28日	1		
トルコ	アフィヨン・コジャテペ大学	2014年4月1日			
理工学研究科					
イ ン ド	南グジャラート大学大学院	2011年9月13日			
インドネシア	インドネシア大学工学部	2009年12月9日		24 (15)	
台 湾	成功大学工学院	2011年3月23日		19 (10)	
マレーシア	マレーシア工科大学機械工学部	2011年12月26日	1 (1)		2
	ベトロナス工科大学	2012年7月6日		2	
フ ラ ン ス	リヨン化学物理電子学院(理工系高等専門教育機関)	2014年10月3日			
医歯学総合研究科					
インドネシア	ジェンバー大学医学部	2008年3月25日	1 (1)		
	バジャジャラン大学医学部	2012年11月13日		1	
ベトナム	ハノイ医科大学	2008年5月9日	1 (1)		
タ イ	プリンスオブソンクラ大学医学部	2011年3月11日			
バングラデシュ	バングラデシュ医学研究所	2014年3月24日			
	ダッカ医科大学・附属病院	2014年6月17日			

(注)受入数・派遣数欄の( )は、学生交流数で内数。

■外国人研究者等受入状況

(平成26年度)

区 分	法文学部	教育学部	医学部	医学部・歯学部 附属病院	農学部	水産学部	共同獣医学部	理工学 (理学系)	理工学 (工学系)	医歯学総合研究科	学共施設等	事務局	合 計
外国人研究者		1					1		2	4	2		10
外国人教員等	5	2	1		2	8		2	5	5	3		33
国際協力機構(JICA)		11			2	9							22
日本学術振興会(JSPS)							1	2					3
科学研究費補助金									1		2		3
外国政府・機関等支弁による研究員				1	27	7	1	7	3	5	1		52
その他の研究員				2	12	4	4		3	6	2		33
視察・来訪等	10	16	7	19	18	30	5	8	12		46	17	188
合 計	15	30	8	22	61	58	12	19	26	20	56	17	344

■教職員の海外渡航状況

【地域別】

(平成26年度)

区 分	法文学部	教育学部	医学部	医学部・歯学部 附属病院	農学部	水産学部	共同獣医学部	理工学 (理学系)	理工学 (工学系)	医歯学総合研究科	学共施設等	事務局	合 計
アジア	52	14	5	34	48	60	3	32	70	42	46	2	408
中近東	1	1				3		1	1	3	1		11
大洋州	3	2		2	3	1	2	5	1	2	16	1	38
アフリカ					2		2	5		2			11
欧州	19	18	11	48	13	5	11	33	56	47	8	1	270
北米	7	13	5	48	6	7	10	16	40	61	17	5	235
中南米				1		7	1	2	2	1	1	2	17
その他								1					1
合 計	82	48	21	133	72	83	29	95	170	158	89	11	991

【経費別】

(平成26年度)

経費の種類	法文学部	教育学部	医学部	医学部・歯学部 附属病院	農学部	水産学部	共同獣医学部	理工学 (理学系)	理工学 (工学系)	医歯学総合研究科	学共施設等	事務局	合 計
自機関の運営資金	38	11	12	7	19	21	1	12	38	10	32	4	205
外部資金	政府												
	文部科学省	7	2					2	12	3	6	4	65
	その他官庁												
	科学研究費補助金	12	22	4	23	17	1	7	37	46	41	22	232
	政府関係機関							1	5	17			23
	日本学術振興会(JSPS)								1	5			6
	科学技術振興機構(JST)												
	その他政府関係機関等							1	1			1	
外国政府・研究機関及び国際機関													
奨学寄付金	1		1	81	13	7	2	7	15	54	2		183
その他外部資金				1	1	1		1	3		2		9
受託研究費・受託事業費				8	11	13	4	9	9	12			66
共同研究費		1				1		1	8				11
その他	24	12	4	13	11	21	2	19	17	38	24	3	188
合 計	82	48	21	133	72	83	29	95	170	158	89	11	991

■部局別国際共同研究実施件数

(平成26年度)

法文学部	教育学部	医学部・歯学部 附属病院	農学部	水産学部	共同獣医学部	理工学研究科 (理学系)	理工学研究科 (工学系)	医歯学総合研究科	学共施設等	合 計
1	1	2	16	3	3	25	16	32	25	124



■出身国(地域)別(39か国・地域 289名 ※山口大学連合獣医学研究科を含む)

(平成27年5月1日現在)

地域	国(地域)	法文学部	教育学部	理学部	医歯学	工学部	農学部	水産学部	共同獣医学部	連合農学研究科	留学生センター	その他	合計	連合獣医学研究科
アジア地域	インドネシア			4②	9⑦	6	3②	1		1①			24⑫	
	カンボジア													1
	スリランカ									3②			3②	
	タイ					1				4①	1①		6②	
	ネパール				3②	1							4②	
	パキスタン			1①	1	1							3①	
	バングラデシュ				2	3①			2①		7⑥		14⑧	1①
	フィリピン								1①		1①	2②	4④	1①
	ベトナム	1			3②	8	1	1			5		19②	2①
	マレーシア	1		1		8							10	
	ミャンマー							1①			1①	1①	3③	
韓国	9	9②	4①	6	5①	4	1	1	2			41④		
台湾		1		1	1	1						4	1	
中国	39	12①	2	4	20	11	15			6		109①		
中近東地域	イラン				2②								2②	
	トルコ		3①										3①	
アフリカ地域	エジプト									3①			3①	
	エリトリア									1			1	
	ガボン													1①
	ジンバブエ									1①			1①	
	タンザニア									2②	1①		3③	
	ナイジェリア					2							2	
	ベナン								1①		1①		2②	
マラウイ									1①			1①		
大洋州地域	オーストラリア	1											1	
	ソロモン諸島							1①					1①	
	フィジー							1			1①		2①	
中南米地域	コスタリカ	1①											1①	
	パナマ							1①					1①	
	ブラジル	1					1				1①		1①	
	ペルー		1										1	
	キルギス		1①										1①	
ヨーロッパ地域	スペイン	1											1	
	ドイツ	1	2										3	
	ハンガリー			1①									1①	
	フランス	2											2	
	ブルガリア	1											1	
	英国			1①									1①	
合計	58①	29⑤	14⑥	31⑬	56②	22③	25⑤	1	38⑰	8⑧		282⑥	7④	

(注)○印内は内数で国費留学生(日韓共同理工工学部留学生含む)を示す。

■在籍別

(平成27年5月1日現在)

在籍身分	法文学部	教育学部	理学部	医歯学	工学部	農学部	水産学部	共同獣医学部	連合農学研究科	留学生センター	その他	合計	連合獣医学研究科
大学院 博士(博士後期)	4			5④								5④	1①
〃 〃	3	1	2②	6④	4				17⑥			30⑫	2①
〃 〃	2	2	2②	7④	3				11④			25⑩	3①
〃 〃	1	4		2①	5①				10⑦			21⑨	1①
〃 修士(博士前期)	2	3	2①	1	4	6②	9②					25⑤	
〃 〃	1	15	6①	1	4	3①	7①					36③	
学部	6			4		2						6	
〃	5			2								2	
〃	4			1	13①							14①	
〃	3	5	2		5	1						13	
〃	2	1	2		4		1					8	
〃	1	4	1①	1	7	2		1				16①	
研究	4	4①			2	4	3②					17③	
科目等履修生													
特別研究学生					2							2	
特別聴講学生	19①	19③	2	2	3	4	5					54④	
日本語研修コース生										8⑧		8⑧	
合計	58①	29⑤	14⑥	31⑬	56②	22③	25⑤	1	38⑰	8⑧		282⑥	7④

※○印内は内数で国費留学生(日韓共同理工工学部留学生含む)を示す。

※大学院連合農学研究科38名の内訳: 鹿大20⑥ 佐大4③ 琉大14⑧(○内は国費留学生を示す。)

## ■経費種別

(平成27年5月1日現在)

種 別	大学院生		学部学生		研究生		科目等履修生	特別研究学生	特別聴講学生	日本語研修コース生	合 計
	大学院生	学部学生	大学院生	学部学生	大学院生	学部学生					
国 費 留 学 生	43 (23)	1 (1)	3 (1)						4	8 (3)	59 (28)
日韓共同理工系学部留学生		1									1
外国政府派遣留学生	14 (6)	5									19 (6)
鹿児島県費留学生			3 (2)								3 (2)
私 費 留 学 生	85 (45)	52 (21)	11 (7)				2		50 (36)		200 (109)
計	142 (74)	59 (22)	17 (10)				2		54 (36)	8 (3)	282 (145)
連 合 獣 医 学 研 究 科											
国 費 留 学 生	4 (2)										4 (2)
私 費 留 学 生	3 (1)										3 (1)
計	7 (3)										7 (3)

(注) ( )は女子を内数で示す。

## ■学部別

(平成27年5月1日現在)

学 部	国 費		日韓共同理工系	外国政府派遣	鹿児島県費留学生	私 費		合 計
	学部学生	研究生等	学部学生	学部学生	研究生等	学部学生	研究生等	
法 文 学 部		1			1	10 (4)	16 (12)	28 (16)
教 育 学 部		4 (1)			1 (1)		18 (14)	23 (16)
理 学 部	1 (1)					4 (4)	2 (1)	7 (6)
医 学 部						3 (1)		3 (1)
歯 学 部						5		5 (0)
工 学 部			1	5		23 (7)	5 (3)	34 (10)
農 学 部					1 (1)	5 (3)	6 (4)	12 (8)
水 産 学 部						1 (1)	5 (2)	6 (3)
共同獣医学部						1 (1)		1 (1)
合 計	1 (1)	5 (1)	1 (0)	5 (0)	3 (2)	52 (21)	52 (36)	119 (61)

(注) ( )は女子を内数で示す。

## ■大学院別

(平成27年5月1日現在)

研 究 科	国 費			外国政府派遣			私 費			合 計
	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	
人文社会科学研究科							18 (15)	7 (4)	5 (5)	30 (24)
教育学研究科	1 (1)						5 (4)			6 (5)
医歯学総合研究科		13 (9)		1	1			6 (2)	2 (1)	23 (12)
保健学研究科										0 (0)
理工学研究科	1 (1)	5 (1)		2 (2)	2 (1)		8 (1)	9 (3)	2	29 (9)
農学研究科	3 (2)						6 (3)		1 (1)	10 (6)
水産学研究科	3 (2)		2	1 (1)			12 (8)		1	19 (11)
連合農学研究科		17 (7)			7 (2)			14 (5)		38 (14)
合 計	8 (6)	35 (17)	2 (0)	4 (3)	10 (3)	0 (0)	49 (31)	36 (14)	11 (7)	155 (81)
連合獣医学研究科		4 (2)						3 (1)		7 (3)

(注) ( )は女子を内数で示す。

## ■学内共同教育研究施設別

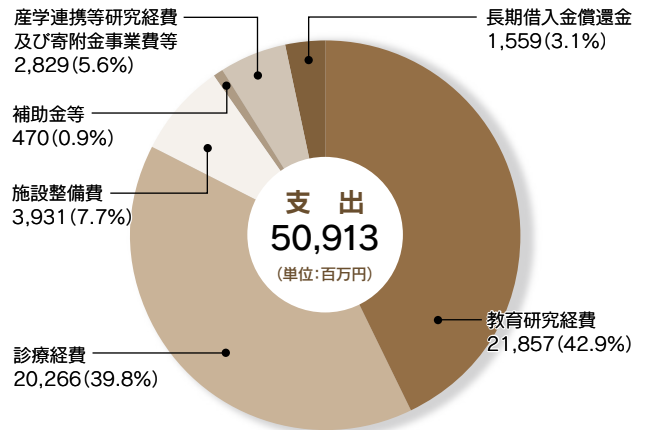
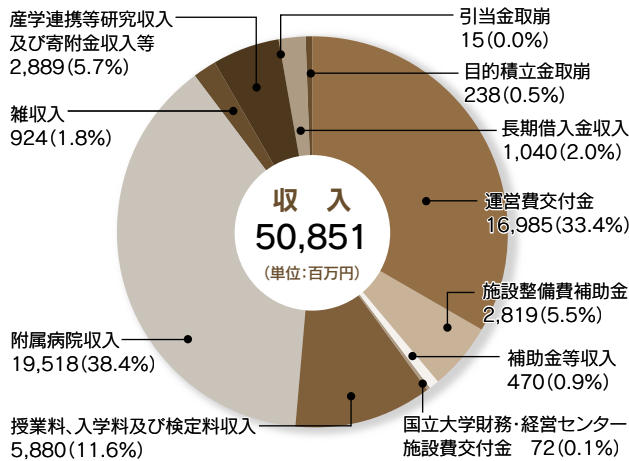
(平成27年5月1日現在)

学内共同教育研究施設	国 費			日韓共同理工系		私 費			合 計
	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	学部学生	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	
留学生センター			8 (3)						8 (3)
合 計			8 (3)						8 (3)

(注) ( )は女子を内数で示す。

※ 山口大学連合獣医学研究科は外数。

■平成26年度収入・支出決算額



(単位:百万円)

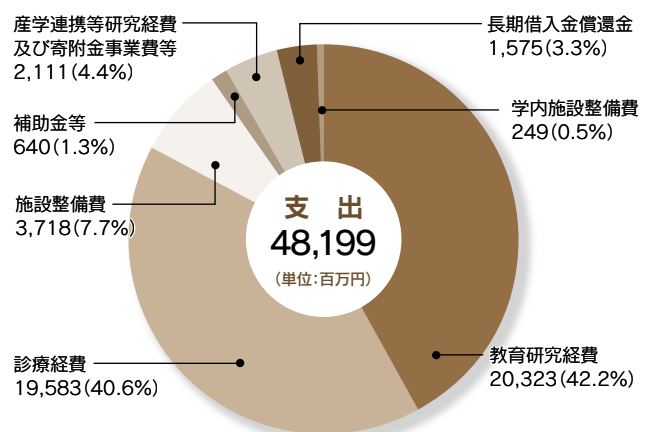
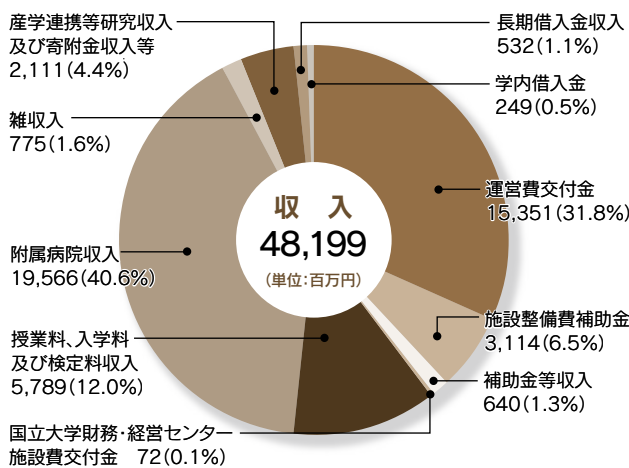
収入	金額
運営費交付金	16,985
施設整備費補助金	2,819
補助金等収入	470
国立大学財務・経営センター施設費交付金	72
授業料、入学料及び検定料収入	5,880
附属病院収入	19,518
雑収入	924
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,889
引当金取崩	15
長期借入金収入	1,040
目的積立金取崩	238
合計	50,851

(単位:百万円)

支出	金額
教育研究経費	21,857
診療経費	20,266
施設整備費	3,931
補助金等	470
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,829
長期借入金償還金	1,559
合計	50,913

(注)端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

■平成27年度予算



(単位:百万円)

収入	金額
運営費交付金	15,351
施設整備費補助金	3,114
補助金等収入	640
国立大学財務・経営センター施設費交付金	72
授業料、入学料及び検定料収入	5,789
附属病院収入	19,566
雑収入	775
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,111
長期借入金収入	532
学内借入金	249
合計	48,199

(単位:百万円)

支出	金額
教育研究経費	20,323
診療経費	19,583
施設整備費	3,718
補助金等	640
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,111
長期借入金償還金	1,575
学内施設整備費等	249
合計	48,199

## ■科学研究費助成事業

【種目別採択状況(平成27年度)】

(単位:千円)

研究種目	件数	金額	研究種目	件数	金額
基盤研究(S)			若手研究(A)	2	8,600
基盤研究(A)	4	26,400	若手研究(B)	89	96,600
基盤研究(B)	46	173,300	研究活動スタート支援	4	3,400
基盤研究(C)	249	291,400	奨励研究	5	2,400
特定領域研究			特別研究員奨励費	5	5,000
新学術領域研究	1	2,900	研究成果公開促進費 (学術図書)		
挑戦的萌芽研究	53	67,000	合計	458	677,000

(注)金額は直接経費

【学部等別採択状況(平成27年度)】

(単位:千円)

学部等	平成27年度		学部等	平成27年度	
	件数	金額		件数	金額
学内共同教育研究施設等	18	32,600	農学部	27	37,800
法文学部	23	26,900	共同獣医学部	20	35,800
教育学部	25	22,700	水産学部	10	15,000
大学院理工学研究科(理学系)(~21.3理学部)	36	63,900	大学院医歯学総合研究科	146	254,900
医学部	15	15,400	大学院司法政策研究科	1	500
医学部・歯学部附属病院	78	90,500	大学院臨床心理学研究科 (~19.3 大学院人文社会科学研究科)	2	2,000
大学院理工学研究科(工学系)(~21.3工学部)	54	76,100	大学院連合農学研究科	3	2,900
			合計	458	677,000

## ■厚生労働科学研究費

(単位:千円)

研究事業名	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
創薬基盤推進研究事業	2	12,400 (3,720)				
第3次対がん総合戦略研究事業	1	10,154 (3,046)				
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患克服研究事業)	2	53,100 (15,930)	1	17,600 (4,400)	1	13,118 (3,279)
革新的がん医療実用化研究事業 (難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業)	2	167,273 (13,127)	1	93,790 (9,376)		
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業 (循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合事業)	1	10,000 (3,000)	1	10,000 (3,000)		
がん臨床研究事業	1	15,077 (4,523)				
難治性疾患実用化研究事業(★)			1	38,000 (2,000)		
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業			1	2,400 (720)	1	1,920 (576)
地域医療基盤開発推進研究事業(★)			1	3,800 (1,140)		
厚生労働科学特別研究事業			1	6,635 (0)		
合計	9	268,004 (43,346)	7	172,225 (20,636)	2	15,038 (3,855)

★26年度については、委託事業として実施

※日本医療研究開発機構委託事業(AMED)

(単位:千円)

研究事業名	平成27年度	
	件数	金額
革新的がん医療実用化研究事業	1	168,454 (10,661)
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	1	6,523 (1,477)
難治性疾患実用化研究事業	1	25,786 (7,013)

(注)下段( )書きは、間接経費で外数

研究事業名の( )書きは、平成25年度までの研究事業名



■奨学寄附金

(単位:千円)

学部等	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
事務局	13	169,658	18	882,322	44	22,889
学内共同教育研究施設	3,498	66,559	3,554	60,661	3,100	52,790
法文学部・司法政策研究科・臨床心理学研究科	14	5,108	21	7,447	29	7,593
教育学部(附属学校含む)	35	14,379	35	17,095	16	9,274
理学部						
医学部・保健学研究科	159	28,931	154	26,879	10	4,866
歯学部						
工学部	-	-	-	-	-	-
理工学研究科	252	193,180	198	112,309	226	110,993
農学部	39	22,132	63	33,982	47	24,182
水産学部	39	24,241	38	21,987	47	31,986
共同獣医学部	24	13,653	48	29,009	45	28,058
大学院医歯学総合研究科	1,143	1,011,968	1,152	1,030,319	1,168	1,008,147
医学部・歯学部附属病院	161	178,396	149	165,844	114	47,490
合計	5,377	1,728,209	5,430	2,387,859	4,846	1,348,271

- (注) 1. 件数、金額には、平成24年度…3,787件、362,499,427円 平成25年度…3,860件、1,035,060,137円 平成26年度…3,371件、171,378,900円の現物寄附を含む。(現物寄附の件数に図書の入冊数を含む)  
 2. 千円未満切捨てにより作成。  
 3. 理工学研究科における件数、金額には工学部を含む。  
 4. 平成25年度より外国債を追加。

■受託研究

(単位:千円)

学部等	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
事務局						
学内共同教育研究施設等	2	4,271	7	26,316	6	18,395
法文学部			1	493		
教育学部	4	12,328	6	14,806		
理学部						
医学部・保健学研究科	1	5,980			1	588
歯学部						
工学部	196	5,747	179	4,067	151	3,970
(うち、受託試験)	196	5,747	179	4,067	151	3,970
理工学研究科	39	270,183	45	267,189	42	443,535
農学部	12	7,381	13	25,727	18	38,785
水産学部	21	55,342	15	36,766	16	134,926
共同獣医学部	315	24,698	301	10,986	297	231,888
(うち、動物病理組織検査)	303	4,340	292	3,961	278	3,705
大学院医歯学総合研究科	166	143,140	203	158,367	200	150,214
(うち、病理組織検査)	115	38,790	136	47,700	134	47,846
医学部・歯学部附属病院	174	113,069	96	140,709	113	96,962
(うち、医薬品等の臨床研究)	160	108,676	81	128,373	83	78,559
合計	930	642,144	866	685,427	844	1,119,268
(うち受託試験・病理組織検査・臨床研究等)	774	157,554	688	184,102	646	134,082

- (注) 1. 千円未満切捨てにより作成。

■共同研究

(単位:千円)

学部等	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
事務局						
学内共同教育研究施設等	4	3,025	1	3,000	8	5,032
法文学部						
教育学部(附属学校含む)	1	400	1	400	1	400
理学部	12	9,489	10	6,726	14	15,301
医学部・歯学部附属病院	6	4,752	3	4,925	5	10,619
医歯学総合研究科	21	26,190	21	43,770	27	37,219
工学部	59	65,960	41	44,652	52	45,859
農学部	33	20,774	22	17,523	25	23,913
水産学部	17	20,478	22	24,152	26	23,336
共同獣医学部	9	20,200	9	14,977	12	20,845
大学院臨床心理学研究科	-	-	-	-	1	540
合計	162	171,270	130	160,125	171	183,064

- (注) 1. 上記額は、契約金額ベースで集計。  
 2. 共同研究契約については、金額の入入がない契約もあり。(必要な経費は各機関で措置する。)  
 3. 千円未満四捨五入により作成。

財務

■土地・建物・船舶

(平成27年5月1日現在)

区 分	土 地(m <sup>2</sup> )	建 物(延面積m <sup>2</sup> )			備 考(単位:m <sup>2</sup> )	
		木 造	非木造	計		
郡元地区	事務局	233,630 (22)		11,241	11,241	
	保健管理センター			902	902	
	附属図書館			12,703	12,703	
	法文学部			6,930	6,930	
	理学部			13,841	13,841	
	工学部			38,540	38,540	
	農学部		169	24,958	25,127	
	共同獣医学部			8,558	8,558	
	共通教育			17,440	17,440	
	その他		14,310	14,310		
教育学部	118,265	690	40,901	41,591		
小 計	351,895 (22)	859	190,324	191,183		
桜ヶ丘地区	医学部	218,183 (2)		21,992	21,992	看護師宿舎 (土地4,431 建物4,127)
	歯学部			3,115	3,115	
	医歯学総合研究科			33,665	33,665	
	医学部・歯学部附属病院			85,507	85,507	
	附属図書館			1,978	1,978	
	自然科学教育研究支援センター			4,381	4,381	
	亀ヶ原総合グラウンド			52	52	
	桜ヶ丘寄宿舎			3,122	3,122	
小 計	218,183 (2)		153,812	153,812		
下荒田地区	水産学部地区	49,154	93	12,106	12,199	宿舎 (土地3,383 建物2,028)
	国際交流会館(1号館)			1,430	1,430	
	国際交流会館(2号館)			1,259	1,259	
	国際交流会館(3号館)			1,507	1,507	
	外国人研究者宿泊施設			686	686	
小 計	49,154	93	16,988	17,081		
その他	唐湊寄宿舎	24,391		5,694	5,694	その他宿舎 (土地25,234 建物15,338)
	唐湊果樹園	72,682		1,207	1,207	
	唐湊林園	9,958	19		19	
	寺山自然教育研究施設	300,855		885	885	
	教育学部附属特別支援学校	16,776	460	3,078	3,538	
	桜島火山観測点	298		31	31	
	霧島リハビリテーションセンター	15,426 (123)	6	4,415	4,421	
	高隈演習林	30,617,478		1,431	1,431	
	佐多演習林	2,974,908				
	入来牧場	1,478,451 (25)	178	3,859	4,037	
	桜島熔岩実験場	372,714				
	指宿植物試験場	30,725	279	2,047	2,326	
	東町ステーション	16,902		1,183	1,183	
	鴨池臨海地	4,990 (94)		2,150	2,150	
	外国人宿泊施設	344		294	294	
	磯艇庫	408 (202)		243	243	
	海音寺潮五郎記念館	456		389	389	
	谷山心頭	(776)				
	平川艇庫	(340)		208	208	
	甌島観測点	(49)		24	24	
	伊集院観測点	(7)				
	屋久島観測点	(114)		40	40	
	串間観測点	(58)		58	58	
	紫尾観測点	(58)		58	58	
黒島観測点	(58)		58	58		
佐多観測点	(58)		11	11		
高岡観測点	(58)		40	40		
吉松観測点	(47)					
田代観測点	(6)					
その他	(301)		615	615		
小 計	35,937,762 (2,374)	942	28,018	28,960		
合 計	36,556,994 (2,398)	1,894	389,142	391,036	宿舎(土地35,762 建物22,313)	

(注) 1. 土地欄( )内数量は借用地。  
2. 各地区土地及び建物数量には備考欄宿舎の数量は含まない。

船 名	トン数(トン)	機 関	馬 力	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	建造年月日
かごしま丸	935.00	電気推進	1,800	57.42	12.10	7.00	平成24年3月30日
南星丸	175.00	ディーゼル	500	34.20	7.50	3.30	平成14年11月28日

## インフォメーションセンター

インフォメーションセンターは、一般市民、受験生や企業の方々と  
の交流拠点として平成19年4月、正門に付設された。鹿児島大学の  
教育・研究・社会貢献活動の概要の紹介、各種イベント等の案内、研  
究成果物の展示を行っている。スタッフが常駐し、市民が利用できる  
施設の案内、学部・研究科等の概要や広報誌等の配布、入試問題  
の閲覧、鹿大ブランド焼酎、オリジナルグッズ、農学部附属農場生産  
物等の販売を行うほか、大学紹介DVD等の視聴が可能。



開館時間	月～金曜日 (祝祭日等除く)	9:30～16:30
------	-------------------	------------

販売物	鹿大ブランド焼酎(「進取の気風」、「春秋謳歌」、「きばいやんせ」、「天翔宙」、「天翔宙希望の空」)、オリジナルグッズ(ブックカバー、クリアファイル他)、ねじめびわ茶(ティーバッグ、ペットボトル他)、寮歌・学部歌集(CD)、全国藩校サミット鹿児島大会冊子、竹炭製吸臭・調湿材、農学部附属農場生産物(野菜、果物等)
主な展示物	水産学部ツナ缶詰、ポストカード、鹿大ロゴ入り焼酎栓「とめもんそ」(教育学部技術科制作)

## 歴史展示室

鹿児島大学歴史展示室は、開学60周年を記念して平成21年  
11月に中央図書館1階に設置された。同室は、本学の源流である  
藩学「造士館」(1773年創立)及び医学院(1774年創立)から、現  
在の鹿児島大学の前身である第七高等学校造士館や鹿児島高等  
農林学校などを含めた237年の歴史を紹介している。第七高等学  
校造士館時代の寮報やのぼり、鹿児島高等農林学校時代の学生が  
残した卒業論文、昭和40年代に使われた計算尺など、約20点を  
展示している。また、情報閲覧用モニター2機を設置し、広報誌等  
が閲覧できる。



開館時間	月～金曜日	8:30～21:30
	土・日曜日	10:00～18:00
休館日	国民の祝日 年末年始等(12月27日～1月3日)	

## 植物園

鹿児島大学植物園は、明治42(1909)年鹿児島高等農林学校の開校に際し、  
初代校長玉利喜造の命により計画された。そして10年後の大正8(1919)年頃、  
約1ヘクタールの分類式花壇として完成した。第二次世界大戦の戦災によって壊  
滅的な被害を受けたが、戦後まもなく学生や教職員の手により整備が図られた。  
この頃から「林園」と呼称され、農学部林学科(現・森林科学コース)学生の樹木実  
習の場として利用されてきた。この間、初島住彦教授らにより主に南西諸島の樹  
木の植え込み、整備が行われ、現在の植物園の特色が形づくられた。



植物園には南九州の植物や南西諸島固有の植物、そして戦前に植栽された北  
アメリカなどの外国産の樹木も多数植栽されている。樹木の種類は昭和54(1979)年の調査では659種が確認されている。その後  
も定期的な樹木の調査や位置図の作成、映像記録の蓄積等が行われ、平成16年にはこれらの記録をまとめて「鹿児島大学植物園  
の樹木たち」が刊行された。植物園には、豊富な樹種を目当てに種々の渡り鳥たちが集い、地域の方々も散歩や自然観察に訪れてい  
る。キャンパス内の緑のオアシスに是非足を運んでいただきたい。



## 総合研究博物館常設展示室（国有形登録文化財）

鹿児島大学では数多くの学術資料が蓄積されている。総合研究博物館常設展示室はその学術資料を展示公開するための施設である。

建物は昭和3(1928)年に鹿児島高等農林学校の図書館書庫として建てられたもので、当初の雰囲気を残しながら改装して開設している。初期の鉄筋コンクリート建物で、また学校施設としても最も古いものであることが評価され、国の登録文化財としての認定も受けている。

現在、展示室では鹿児島大学の歴史にかかわる考古学資料・教育研究史資料、鹿児島の自然史にかかわる化石・鉱石資料を中心に展示を行っており、観覧は学内外に関係なく自由に利用できる生涯学習施設としての役割も果たしている。



▲常設展示室外観



▲展示室内

開館時間	午前10時～午後5時
観覧料	無料
休館日	毎週月曜日・日曜日・祝日・年末年始

## 稲盛会館

稲盛和夫京セラ(株)名誉会長から寄贈されたもので、教育および学術の交流の場として本学の職員その他の関係者の利用に供することにより、本学の教育・研究の進展に資するとともに、学術および文化の向上に寄与することを目的としている。



キミ&ケサ メモリアルホール  
(稲盛名誉会長のご両親の名前に由来)



日本を代表する著名な建築家 安藤忠雄氏の設計  
(地下1階～地上3階建、建面積810.40㎡、延面積1,628.85㎡ 平成6年10月竣工)

## 学習交流プラザ

学生、教職員等が相互に交流を深めることにより、学生の進取の精神を育み、活気ある交流と情報交換を促進することを目的として、平成25年10月に設置された。

グループ学習室、学習ラウンジ及び学習交流ホールがあり、飲食もできるなど多様な学習形態に対応している。また、学生の自学自習をサポートするための書店や売店も併設されている。

### 〈施設名及び用途〉

階別	施設名	用途等
1階	ライフサポート フードコーナー 学習ラウンジ1 スタディサポート	売店 軽食・喫茶等 学習、休憩、談話等 文具、書籍、福利厚生関連商品の販売等
中2階	学習ラウンジ2 学習ラウンジ3 学習交流ホール グループ学習室	学習、休憩、談話等 学習、休憩、談話等 学習、講演会、研修、会議等 学習、研修、会議等
2階	学習ラウンジ4	学習、休憩、談話等





## 大学会館

学生相互ならびに学生と職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の教養を高め、豊かな人間性・社会性を涵養するための課外教育活動を盛んにし、また、その厚生福祉に寄与することを目的に、昭和47(1972)年3月に設置された。

開館時間は午前9時から午後9時まで、休館日は日曜日・祝日および12月29日から翌年1月3日までとなっている。



階別	施設名	用途等
1	軽食堂	喫茶、食事 (52席)
	理髪室	理髪 (3台)
2	共用談話室	休憩、談話 (48人)
	音楽鑑賞室	音楽鑑賞 (51人)
3	会議室(1・2)	会議、研究会等(42人・20人)
	和室(1~5)	会議および邦楽、茶道・華道等の練習
4	ホール	音楽会、講演会、研究会等(300人)
	音楽練習室(1・2)	音楽等練習

## 課外活動施設

課外活動(サークル)は、大学教育における人間形成の上で非常に有益であり、各キャンパス毎に課外活動施設を有している。体育系サークルが利用する体育施設、文化系サークルが主に利用する大学会館以外に、平成14年3月に設置された学生サークル会館Ⅱ、平成25年10月に改築された学生サークル会館Ⅰなどがある。

学生サークル会館Ⅰ及びⅡは、サークル間の交流・連携の場として、防音設備完備の音楽練習室、シャワー室、共用ラウンジ、共用ミーティング室、多目的ホール及びサークル室等を配置し、文化系、音楽系、体育系合わせて119サークルが使用している。

施設名	所在地	備考
学生サークル会館Ⅰ・Ⅱ	郡元地区	文化系・音楽系・体育系サークル
馬房(厩舎)	郡元地区	馬術
平川艇庫	平川町海岸	ヨット
磯艇庫	磯海岸	ボート
鴨池艇庫	鴨池臨海地	カッター



## 体育施設(体育館等)



施設名	所在地	備考
陸上競技場	郡元地区	400mトラック、夜間照明あり
球技場	〃	夜間照明あり
亀ヶ原運動場	桜ヶ丘地区	野球場
桜ヶ丘グラウンド	〃	サッカー・ラグビー場
テニスコート	郡元地区	8面、夜間照明あり
〃	桜ヶ丘地区	7面
第1体育館	郡元地区	1,122㎡
第2体育館	〃	2,461㎡
桜ヶ丘体育館	桜ヶ丘地区	1,072㎡
武道館	郡元地区	391㎡
医・歯学部課外活動施設(武道場)	桜ヶ丘地区	451㎡
弓道場	郡元地区	39m×14m
〃	桜ヶ丘地区	38m×12m
室内プール	郡元地区	50m(7コース)

## 食 堂



中央食堂



郡元南食堂

施設名	延面積	席数	所在地
中央食堂	1,347㎡	632席	郡元地区
軽食堂(ガロア)	121㎡	59席	郡元地区
郡元南食堂	882㎡	222席	郡元地区
フードコーナー(学際交流プラザ)	530㎡	188席	郡元地区
桜ヶ丘食堂	417㎡	196席	桜ヶ丘地区
水産学部食堂	350㎡	130席	下荒田地区

## 学生寮



棟名	区分	面積(㎡)	延面積(㎡)	収容定員(人)
唐湊寄宿舍	A棟	鉄筋5階建	1,412	76
	B棟	〃	1,568	92
	C棟	鉄筋2階建	629	64
	女子寮	鉄筋4階建	1,600	81
	共用棟	鉄筋1階建	317	
桜ヶ丘寄宿舍		鉄筋5階建	2,696	99
合 計			8,222	412

## 国際交流会館

国際交流会館は、鹿児島大学の外国人留学生および本学において教育・研究に従事する外国人研究者に対し居住の場を提供し、国際交流の促進に資することを目的に1号館が昭和54(1979)年4月に、2号館が平成6年10月に、3号館が平成25(2013)年4月に設置された。



(1号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	12	35室
夫婦室	39	3室
家族室	59	2室
主事室	14	
事務室	16	
談話室	47	
娯楽室	94	
和室	25	
補食室	5~12	4室
浴室	5~8	4室
洗濯室	10	4室
管理人室	52	
倉庫	7	

備考:延面積/1,430㎡  
建物構造/RC4

(2号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	12	30室
夫婦室	40	6室
家族室	56	4室
補食室	11	4室
洗濯室	11	4室
ラウンジコーナー	49	
応接コーナー	14	

備考:延面積/1,259㎡  
建物構造/R4

(3号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	15.6	57室
洗濯室	31.2	5室
応接コーナー	15.6	1室

備考:延面積/1,507㎡  
建物構造/RC5

## 外国人研究者宿泊施設

鹿児島大学を訪問する外国人研究者のための宿泊施設であり下荒田キャンパスに3棟、計22室の単身室がある。A棟は、鹿児島大学創立50周年記念事業の一環で寄付され、平成15年12月に完成した(鉄骨造地上2階、延床面積502㎡、計16室)。また、平成21年度からは共同研究終了後に譲渡された建物をB棟・C棟として新たに使用開始した(薄板軽量形鋼造地上2階、延床面積185.48㎡、計6室)。





# 郡元キャンパス

- 法文学部 理工学研究科
- 教育学部 司法政策研究科
- 理学部 臨床心理学研究科
- 工学部 連合農学研究科
- 農学部
- 共同獣医学部

- 1 北辰通り(大正4年第七高等学校第14回記念祭歌「北辰斜に」に由来)
- 2 銀杏並木通り
- 3 稲盛通り(稲盛和夫京セラ名誉会長の寄贈の稲盛会館に由来)
- 4 田園通り(附属農場越しに校島が望めます。)
- 5 みのりの小径
- 6 本部前・緒方通り(初代学長 緒方健三郎氏に由来)
- 7 植物園通り
- 8 ふれあい通り
- 9 教育学部通り
- 10 玉利通り(鹿児島高等農林学校初代校長 玉利喜造博士に由来)
- 11 工学部通り
- 12 理学部通り
- 13 森の小径
- 14 法文学部通り

- 1 インフォメーションセンター
- 2 事務局
- 3 保健管理センター
- 4 事務局車庫、埋蔵文化財調査センター
- 5 農・獣医共通棟(管理室・講義室・学生実験室・セミナー室)
- 6 共同獣医学部研究棟 A(獣医学科実験研究室)
- 7 // 研究棟 B(獣医学科実験研究室)
- 8 農学部研究棟 C(生物資源化学科実験研究室)
- 9 // 研究棟 D  
(生物生産学科・生物資源化学科・生物環境学科実験研究室)
- 10 農学部研究棟 E(生物環境学科・附属演習林実験研究室)
- 11 共同獣医学部附属動物病院
- 12 軽種馬診療センター
- 13 焼酎・発酵学教育研究センター(北辰蔵)
- 14 農学部温室
- 15 農学部植物研究実験施設(温室)
- 16 // (硝子室)
- 17 農学部附属農場動物飼育棟
- 18 // 附属農場研究実習棟
- 19 // 低温貯蔵実験棟
- 20 // 水理実験棟
- 21 // 昆虫飼育棟
- 22 共同利用棟(獣医学科実験研究室)
- 23 遺伝子実験施設  
(自然科学教育研究支援センター)
- 24 アイソトープ実験施設(自然科学教育研究支援センター)
- 25 馬術部馬房
- 26 連合農学研究科棟
- 27 総合研究博物館展示棟(常設展示室)
- 28 大学会館
- 29 中央食堂
- 30 産学官連携推進センター棟 1(かごしま COC センター)
- 31 産学官連携推進センター棟 2(地域防災教育研究センター)
- 32 学術情報基盤センター
- 33 変電所
- 34 工学部情報生体システム工学科棟
- 35 地域コトづくりセンター
- 36 工学部電気電子工学科棟
- 37 // 建築学科棟
- 38 // 応用化学工学科 1号棟



- 39 工学部機械工学科第一実験棟
- 40 // 機械工学科第二実験棟
- 41 // 機械工学科第三実験棟
- 42 // 機械工学科 2号棟
- 43 // 機械工学科 1号棟
- 44 // 応用化学工学科 2号棟
- 45 // 薬品庫
- 46 // 海洋波動実験棟
- 47 稲盛会館
- 48 工学系講義棟
- 49 廃液処理センター排水分析室
- 50 工学部海洋土木工学科棟
- 51 // 共通棟
- 52 理工系総合研究棟  
(自然科学教育研究支援センター・機器分析室)
- 53 理学部 1号館(管理室・物理科学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)、理系先端研究棟
- 54 理学部 2号館(数理情報科学科・生命化学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)
- 55 理学部 3号館  
(生命化学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)
- 56 総合研究博物館
- 57 共通教育棟 1号館(管理室・講義室・教育センター・就職支援センター・留学生センター・生涯学習教育研究センター・ボランティア支援センター)
- 58 // 2号館(文科研究室・講義室)
- 59 稲盛アカデミー棟
- 60 共通教育棟 3号館(理科研究室・講義室・実験室・放送大学視聴室)
- 61 // 4号館(理科研究室・講義室・実験室)
- 62 附属図書館中央図書館
- 63 総合教育研究棟(国際島嶼教育研究センター・司法政策教育研究センター・司法政策研究科・臨床心理学研究科)
- 64 法文学部 1号館(管理・研究・講義棟)





- 65 法文学部 2 号館 (講義棟)
- 66 // 3 号館 (講義棟)
- 67 学生サークル会館II-1
- 68 屋内プール 50m
- 69 弓道場
- 70 学生サークル会館II-2
- 71 第一体育館
- 72 第二体育館
- 73 あおぞら保育園
- 74 教育学部体育科実験研究棟
- 75 // 武道館
- 76 郡元南食堂 (エデュカ)
- 77 教育学部管理棟・理系研究棟
- 78 // 実習棟
- 79 // 第一講義棟
- 80 // 第二講義棟 (アクティブラーニングプラザ)
- 81 // 生涯教育総合研究棟
- 82 // 文系研究棟
- 83 // 附属教育実践総合センター
- 84 // 音楽美術科棟
- 85 // 附属幼稚園
- 86 // 附属小学校
- 87 // 附属小学校家畜舎
- 88 // 附属小学校昆虫飼育棟
- 89 // 附属小学校体育館
- 90 // 附属中学校
- 91 // 附属中学校体育館
- 92 学習交流プラザ
- 93 学生サークル会館 I



キャンパス



# 桜ヶ丘キャンパス

医学部  
 歯学部  
 医歯学総合研究科  
 医学部・歯学部附属病院



- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医学部臨床講義棟</li> <li>② 医歯学総合研究科棟3(臨床医学系)</li> <li>③ // ④(新臨床医学系)<br/>難治ウイルス病態制御研究センター</li> <li>④ 医歯学総合研究科棟2(基礎医学系)</li> <li>⑤ 医歯学総合研究科棟5</li> <li>⑥ RI実験施設</li> <li>⑦ 動物実験施設<br/>(自然科学教育研究支援センター)</li> <li>⑧ 福利厚生施設(桜ヶ丘会館)</li> <li>⑨ 学生宿舎</li> <li>⑩ 医学部・歯学部附属病院看護師宿舎</li> <li>⑪ // 附属病院医科病棟</li> <li>⑫ // 附属病院医科診療棟</li> <li>⑬ // 附属病院管理棟</li> <li>⑭ 医学部基礎講義実習棟<br/>医歯学総合研究科共同利用研究棟</li> <li>⑮ 中央機械棟</li> <li>⑯ ポンプ室</li> <li>⑰ 附属図書館桜ヶ丘分館</li> <li>⑱ サークル棟</li> <li>⑲ 実験廃液処理施設</li> <li>⑳ 医学部・歯学部附属病院歯科診療棟・病棟</li> <li>㉑ 医歯学総合研究科棟1(歯学系)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>㉒ 歯学部講義実習棟</li> <li>㉓ 桜ヶ丘体育館</li> <li>㉔ 体育器具庫</li> <li>㉕ 医学部保健学科東研究棟</li> <li>㉖ 医学部保健学科西研究棟</li> <li>㉗ 地域医療支援センター</li> <li>㉘ 共通教育棟</li> <li>㉙ MRI-CT装置棟</li> <li>㉚ 医療情報施設</li> <li>㉛ 鶴陵会館</li> <li>㉜ 桜ヶ丘武道場</li> <li>㉝ 弓道場</li> <li>㉞ 患者用立体駐車場</li> <li>㉟ さくらっ子保育園</li> <li>㊱ 中央診療棟</li> <li>㊲ 救急集中治療棟</li> <li>㊳ レジデントハウス</li> <li>㊴ C棟</li> <li>㊵ 医歯学総合研究科仮設研究実験棟</li> </ul> |
|--|---|



# 下荒田キャンパス

水産学部



- ① 水産学部1号館
- ② // 2号館
- ③ // 3号館
- ④ // 5号館
- ⑤ // 6号館
- (1F:食堂、2F:附属海洋資源環境教育研究センター)
- ⑥ 実験・実習支援棟
- ⑦ 水産学部4号館
- ⑧ 大型回流水槽実験棟
- ⑨ 変電室
- ⑩ 車庫・倉庫
- ⑪ 倉庫
- ⑫ サークル棟
- ⑬ 附属図書館水産学部分館
- ⑭ 国際交流会館(1号館)
- ⑮ // (2号館)
- ⑯ // (3号館)
- ⑰ 職員宿舎
- ⑱ 外国人研究者宿泊施設A
- ⑲ 外国人研究者宿泊施設B
- ⑳ 外国人研究者宿泊施設C

# 教育学部附属特別支援学校

下伊敷1丁目



- ① 校舎
- ② 体育館
- ③ 生活訓練棟
- ④ 水遊び場(プール)

# 学生寮

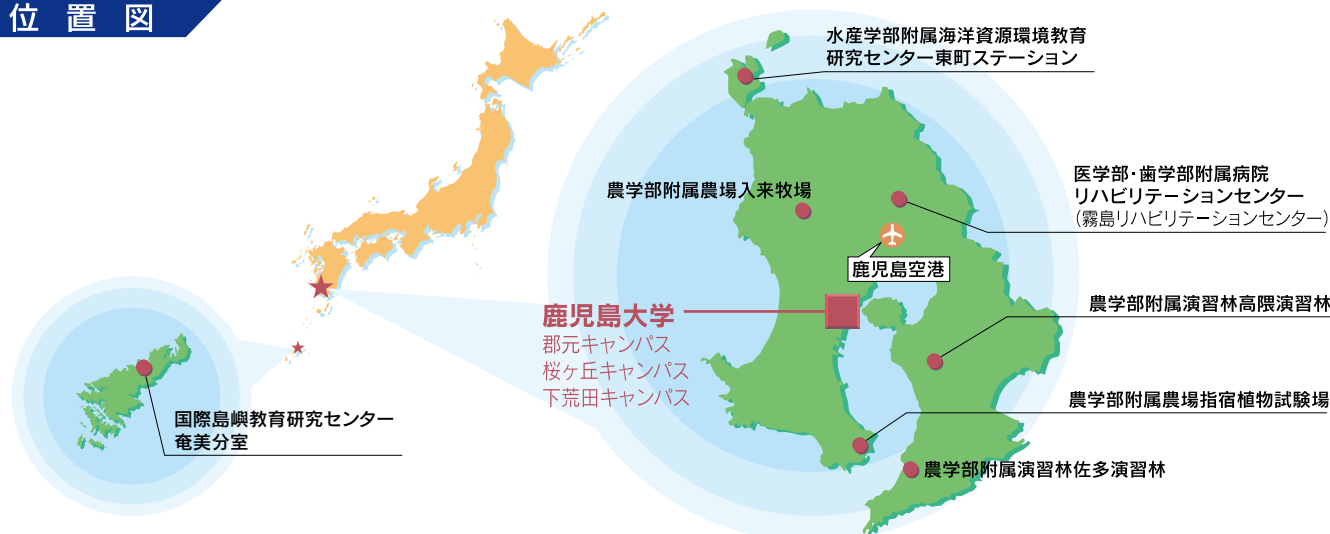
唐湊3丁目



- ① 男子寄宿舎A棟
- ② // B棟
- ③ // C棟
- ④ 女子寄宿舎
- ⑤ 共用棟



## 位置図



鹿児島市へのアクセス 鹿児島空港から 鹿児島空港リムジンバスで鹿児島中央駅まで約40分

## 鹿児島市内交通アクセス

### 1 郡元キャンパス

- 市電** ※ ( ) は最寄りの門
- 1系 騎射場電停下車 徒歩約10分(正門、東門)
  - 2系 唐湊電停下車(西門)
- 工学部前電停下車(工学部門)

- 市営バス**【鹿児島中央駅経由】
- 鹿大正門前または、法文学部前下車
- 9 武岡・鴨池港線
  - 11 鴨池・冷水線
  - 18 大学病院線
  - 20 緑が丘・鴨池港線

- 鹿児島交通**【鹿児島中央駅経由】
- 鹿大正門前または、法文学部前下車
- 19 紫原・桜ヶ丘五丁目

- 南国交通**【鹿児島中央駅経由】
- 鹿大教育学部前下車
- 30 県庁西・鴨池新町方面

- 徒歩**
- 鹿児島中央駅から市電2系通り沿いに歩いて約25分

### 2 桜ヶ丘キャンパス

- 市電**
- 1系 脇田電停下車

- 市営バス**
- 【脇田電停前発】
- 大学病院前または、歯学部前下車
- 18 大学病院線(シャトル便)
- 【鹿児島中央駅経由】
- 大学病院前または、歯学部前下車
- 18 大学病院線

- 鹿児島交通**【鹿児島中央駅経由】
- 大学病院前または、歯学部前下車
- 17 桜ヶ丘団地行
  - 18 桜ヶ丘・魚見ヶ原行
  - 19 紫原・桜ヶ丘五丁目

- JR**【JR指宿枕崎線】宇宿(うすき)駅下車

### 3 下荒田キャンパス

- 市電**
- 1系 騎射場電停下車 徒歩約10分

- 市営バス**【鹿児島中央駅経由】
- 体育館前下車 徒歩約5分
- 11 鴨池・冷水線
- 水産学部前下車
- 27 県庁・与次郎線



## ●所在地一覽●

1【事務局】	〒890-8580	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
1【法学部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
1【教育学部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
1【附属幼稚園】	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7990
1【附属小学校】	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7962
1【附属中学校】	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番35号	☎099(285)7932
附属特別支援学校	〒890-0005	〃 下伊敷一丁目10番1号	☎099(224)6257
1【附属教育実践総合センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
寺山自然教育研究施設	〒892-0871	〃 吉野町10857-1	
1【理工学研究科】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
附属南西島孤地震火山観測所	〒892-0871	〃 吉野町10861	☎099(244)7411
1【附属地域コトづくりセンター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8271
1【理学部・理工学研究科(理学系)】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7111(代表)
1【工学部・理工学研究科(工学系)】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
1【農学部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
1【附属農場】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8771
唐湊果樹園	〒890-0081	〃 唐湊三丁目32番1号	☎099(254)1042
指宿植物試験場	〒891-0402	指宿市十町1291番地	☎0993(22)2848
入来牧場	〒895-1402	薩摩川内市入来町浦之名字大谷4018-3	☎0996(44)2204
1【附属演習林】	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)8744
高隈演習林	〒891-2101	垂水市海瀨3237番地	☎0994(32)6329
佐多演習林	〒893-2604	肝属郡南大隅町佐多大字馬籠349番地	
1【附属焼酎・発酵学教育研究センター】	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
3【水産学部】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4111(代表)
3【附属海洋資源環境教育研究センター】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4296
附属海洋資源環境教育研究センター東町ステーション	〒899-1403	出水郡長島町諸浦字蛤瀨1620-3	☎0996(64)5013
附属海洋資源環境教育研究センター錦江湾ステーション	〒890-0062	鹿児島市与次郎二丁目9	
1【共同獣医学部】	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
1【附属動物病院】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8750
1【附属越境性動物疾病制御研究センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
2【医歯学総合研究科】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
2【附属難治ウイルス病態制御研究センター】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
2【医学部】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
2【歯学部】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
2【医学部・歯学部附属病院】	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
霧島リハビリテーションセンター	〒899-6603	霧島市牧園町高千穂3930-7	☎0995(78)2538
1【司法政策研究科】	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
1【臨床心理学研究科】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
1【連合農学研究科】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
1【附属図書館】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7415
2【桜ヶ丘分館】	〒890-8532	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5205
3【水産学部分館】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4051
1【保健管理センター】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7385
1【教育センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8821
1【稲盛アカデミー】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3751
1【アドミッションセンター】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7355
1【留学生センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3601
1【総合研究博物館】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8141
1【国際島嶼教育研究センター】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7394
奄美分室	〒894-0032	奄美市名瀬柳町2番1号	☎0997(69)4852
1【自然科学教育研究支援センター】	〒890-8520	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)3240
2【動物実験施設】	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5500
1【遺伝子実験施設】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3581
1【機器分析施設】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7188
1【アイソトープ実験施設】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3594
1【医用ミニブタ・先端医療開発研究センター】	〒890-8520	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3240
2【先端医療開発分野】	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)6357
2【臓器置換・異種移植外科分野】	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5496
2【遺伝子発現制御学分野】	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5493
1【かごしまCOCセンター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8502
1【生涯学習教育研究センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7294
1【産学官連携推進センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	
1【産学官連携部門】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8491
1【知的財産部門】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)3881
1【事業化支援部門】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)3630
1【管理部門】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7106
1【地域防災教育研究センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7234
1【学術情報基盤センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7474
1【埋蔵文化財調査センター】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7270
1【司法政策教育研究センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3905
1【就職支援センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7321・7341
1【ボランティア支援センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3146・3147
1【障害学生支援センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3287
1【稲盛会館】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
1【大学会館】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7324
【学生寮】	〒890-0081	〃 唐湊三丁目3番1号	☎099(251)3238・099(254)9098
3【国際交流会館(1号館・2号館・3号館)】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(252)7551
【外国人研究員等宿泊施設】	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	
3【外国人研究者宿泊施設】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	
【東京リエゾンオフィス】	〒108-0023	東京都港区芝浦三丁目3番6号キャンパス・イノベーションセンター(CIC)607号室	
【北米教育研究センター】	560 S.Winchester Blvd., Suite 500, San Jose, CA95128, U.S.A	アメリカ合衆国カリフォルニア州サンゼ市	

※ 1: 郡元キャンパス、2: 桜ヶ丘キャンパス、3: 下荒田キャンパス





●  
[編集・発行]  
鹿児島大学 広報センター

●  
〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号  
代表電話 099(285)7111 FAX 099(285)3854  
URL <http://www.kagoshima-u.ac.jp/>

●  
[発行日]平成27年6月